

2 0 0 0

授業概要

【シラバス】

保育科

白梅学園短期大学

SHIRAZUME GAKUEN COLLEGE

目次 (保育科)

教養教育科目 (1年)

文学・フィクションと人間	3
王朝文学の世界	4
話し言葉の文芸	5
西洋文学	6
近代日本の歴史	7
西洋史概説	8
東洋美術	9
演劇論	10
現代社会論	11
現代家族論	12
日本国憲法	13
市民生活と法	14
政治学入門	15
生活の経済学	16
心理学入門	17
マスコミュニケーション概論	18
現代社会と女性	19
自然科学史	20
生命の科学	21
生物と環境	22
生活の科学	23
健康の生理学	24
宇宙と地球	25
総合科目 人間	26~28
情報処理入門	29~32
総合英語 I-1、2	33~38
海外語学研修	39
スポーツA (テニス)	40
スポーツA (バドミントン)	41
スポーツA (バレーボール)	42・43
スポーツA (ダンス)	44
スポーツA (トランポリン)	45
健康科学	46
スポーツ科学	47

専門教育科目 (1年)

社会福祉概論	51
児童福祉	52
保育原理 I	53・54
保育者論	55
教育原理	56・57
発達心理学 I	58
発達心理学 II	59
教育心理学	60
小児保健 I	61
小児栄養	62
保育内容総論	63
保育内容 健康(保健行動)	64
保育内容 言葉 I (言語行動)	65

乳児保育 I	66
音楽 I (基礎理論)	67
音楽 I (ピアノ)	68
音楽 I (声楽)	69
図画工作 I	70
ゼミナール I	71
幼稚園実習	72
実習指導	73
保育所実習 I	74

専門教育科目 (2年)

社会福祉方法論	77
保育原理 II	78
養護原理 I	79
養護原理 II	80
小児保健 II	81
小児保健実習	82・83
小児栄養実習	84
精神保健	85
教育課程総論	86
保育内容 人間関係(社会行動)	87
保育内容 環境 I (自然認識)	88
保育内容 表現 I (文化行動)	89~91
保育内容 環境 II	92・93
保育内容 言葉 II	94
保育内容 表現 II	95~97
保育計画法	98・99
幼児教育の方法	100
乳児保育 II	101
養護内容	102
保育臨床相談	103
障害児保育	104
家庭管理	105
音楽 I (ピアノ)	106
音楽 I (声楽)	107
音楽 II (ピアノ)	108
音楽 II (うた)	109
音楽 II (ギター)	110
図画工作 II	111
体育 I	112
体育 II	113
ゼミナール II	114~130
幼稚園実習	131
実習指導	132
保育所実習 II	133
実習指導	134
施設実習 I	135
施設実習 II	136

教養教育科目（1年）

【授業科目】 文学・フィクションと人間	【担当者】 栗田廣美
【開講期】 1年 前期	
【授業目標】 小説・映画・ドラマの中の世界は、どこにあるのか。それは我々の住んでいる「この現実」とは別の、「もう一つの別世界」である。この「別世界」の構造（しくみ）を考え、「芸術・フィクション」の秘密に迫るのが目標である。	
【テキスト】 随時プリントを配布する。	
【参考書】 講義中に紹介する。	
授 業 計 画	
<p>おおむね、以下のような流れで講義する。具体的作品等はプリントを使って紹介する。</p> <p>①「フィクション」について。 例えば「小説」に書かれたことは、要するに全て「作り事」、つまり「嘘」である。映画もテレビドラマも同様である。しかしなぜ、我々はそんな「嘘」に感動したり、強い影響を受けたりするのか。——このような問題を考察する。</p> <p>②「作品世界」の構造（しくみ）について。 「作品世界」つまり「もう一つの別世界」は、どのような「仕組み」で出来ているのか。そもそも、それは誰が「見ている」世界なのか。語っているのは「誰」なのか。少なくともそれは、いわゆる「作者」ではないはずである（例えば川端康成は「駒子」を「見る」ことは出来ない）。——このような問題から考察を始める。</p> <p>③フィクションと「現実」について。 小説・映画・ドラマは「現実ではない」というが、では「現実」とは何なのか。何が「フィクション」で、何が「フィクション」ではないのか、の問題を考察する。</p> <p>○日本とヨーロッパの近代文学作品を中心に、美術・音楽も視野に入れた講義になる。</p>	
【評価方法】 筆記試験（ノート・プリント等、何でも参照可）。講義に基づいて書く形式。 講義を良く聴いて、しっかりノートをとっておくこと。 出席点を加味して、総合的に評価する。	

【授業科目】 王朝文学の世界	【担当者】 久保木寿子
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>日本の古典の多くが、受験文法の説明に使われるのみで、内容が知られないのは残念なことです。優れた古典は作品としての主張を持っており、現代に通じるものを必ず持っています。そのおもしろさに気づくことが、第一の目標です。そして、何が、何故おもしろいのかを検討し、文学の本質について考えたいと思います。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>岩波文庫『竹取物語』</p>	
<p>【参考書】</p> <p>随時、指示する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>平安時代の『竹取物語』を取り上げます。姫はなぜ竹の中にいたのか。翁はどんな子育てをしたのか。で、姫は人間になったのか。なぜ月から追放され、よりによって人間界に来たのか。天皇を含む求婚者は、なぜ皆拒絶されたのか。知っているつもり の物語は、実は謎がいっぱい。</p> <p>I 『竹取物語』の構成と主題について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな口承の話型（化生説話、致富説話、難題婚説話、羽衣説話、地名起源説話）を組み合わせて、物語は、書くことによって、ある主題を追求していくようです。上記の疑問を解明しながら、物語のおもしろさについて考えます。 <p>II さまざまな竹取説話を知る</p> <p>『竹取物語』以外にも、様々な竹取説話が伝わっています。今昔物語、海道記、古今集注、奈良絵本、現代の絵本などから、関係の部分を見ていき、平安『竹取物語』の特徴について、あらためて考えたいと思います。</p> <p>III 参考：＜浦島太郎＞の異界について</p> <p>古く『万葉集』『風土記』などに見える話が、平安時代の漢文作品を経て、やがて謡曲や御伽草子に取られていきます。もう一つの異界（海神の国）の話を覗いてみましょう。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席重視。授業時のフンポイント・メモ、定期試験時のレポートによる。</p>	

【授業科目】 話し言葉の文芸

【担当者】 東 喜望

【開講期】 1年 前期

【授業目標】

将来に資するために、口承文芸をとりあげます。
初めに、口承文芸（昔話・伝説・神話など）を概観し、日本の代表的な話をとりあげながら、その話の淵源をたずねていきます。
大陸や環太平洋諸地域との関連も積極的に考究していく予定です。

【テキスト】 拙著『沖繩・奄美の説話と伝承』（おうふう・刊）

他に資料プリント（配布）、スライド・ビデオ等の映像資料上映。

【参考書】 適宜指示する。

授 業 計 画

講義の概要

I. はじめに — 「わが国をニッポン」というのはなぜか。

II. 口承文芸概説

- (1) 神話
- (2) 伝説
- (3) 昔話

III. 文芸の起源

- (1) 自然と人間と神
- (2) 「謡い」「語り」の発生
- (3) 信仰と説話 — 個人レベルから国家レベルへ
- (4) 神話の発展 — 昔話・伝説へ

【評価方法】 定期試験時の筆記試験。ただし、テキスト・ノート等参照可とする。

【授業科目】 西洋文学	【担当者】 衣川清子
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p style="text-align: center;">本年度のテーマ：西洋文学が映画になるとき</p> <p>最近、映画化される西洋文学作品が多い。良質のストーリーを求めると優れた文学作品に行き着くためと、優れた文学作品が文化的遺産として時代を超えて受け継がれているためであろう。一方、現代の視点と問題意識で作られた映画は、文学作品に新しい解釈をもたらすことがある。また映画化のたびに違った相貌を見せる作品もある。本講義では、比較的最近、映画化・公開された西洋文学作品を取り上げ、小説と映画との違いに着目しながら小説と映画それぞれの魅力を探る。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>なし（プリント使用）</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>必要に応じて授業中に紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>毎回一つの文学作品とそれを映画化した作品を取り上げて講義し、映画の一部を視聴し、時代を経ても色褪せない文学の魅力のありかを考えたい。</p> <p>取り上げる予定の作品：</p> <p>ジェイン・オースティン『いつか晴れた日に』（1811年）；同映画（1995年）</p> <p>シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』（1847年）；同映画（1944年及び1996年）</p> <p>ウィリアム・シェイクスピア『ロミオとジュリエット』（1595年）；同映画（1968年及び1996年）</p> <p>ナサニエル・ホーソーン『スカーレット・レター』（1850年）；同映画（1995年）</p> <p>ルイザ・メイ・オルコット『若草物語』（1868年及び1869年）；同映画（1933年、1949年及び1994年）</p> <p>マーガレット・ミッチェル『風と共に去りぬ』（1936年）；同映画（1939年；リマスター版公開1998年）</p> <p>チャールズ・ディケンズ『大いなる遺産』（1860-61年）；同映画（1998年）</p> <p>アリス・ウォーカー『カラーパープル』（1982年）；同映画（1985年）</p> <p>エイミ・タン『ジョイ・ラック・クラブ』（1988年）；同映画（1993年）</p> <p>スティーヴン・キング『スタンド・バイ・ミー』（1982年）；同映画（1986年）</p> <p>スザンナ・タマーロ『心のおもむくままに』（1994年）；同映画（1996年）</p> <p>*作品は変更する場合がある。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点とレポート。</p>	

【授業科目】 近代日本の歴史	【担当者】 平賀明彦
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】 近代の日本はどのように成立したか。そのきっかけは何だったのか。具体的な経過は。それらを史実に即して明らかにしていく。</p> <p>開国以後、変革を求める人々の願いに支えられて活躍した幕末の志士たち。旧体制を維持しようと奔走した勢力。それらの対抗の中から生み出された維新体制の特徴をまず明らかにする。そして、明治国家の目標は、「近代化」の道のりにどのような問題点が、といったことを取り上げていく。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に定めない</p>	
<p>【参考書】</p> <p>多数あるので講義中に逐次紹介する。資料はプリントして配布する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>これらを通して、歴史的な考え方や時間の流れの中で移り変わり、変化をとげる社会を構造的にとらえる手法を身につけて欲しい。また、歴史を見つめる視角についても触れてみたい。</p> <p>以下のようなテーマを設けて話しを進める。歴史的な事件や人物などの細かい知識は不要。ダイナミックに近代の全体像をつかみ、その中でいろいろな形で歴史との関わりをもった人々に細心の注意を払い、その生き様をみつめる目を養うことが重要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇歴史の勉強＝年代暗記、知識詰め込み－まずは固定観念の転換から ◇明治維新はいつからいつまで－日本近代の見取り図 ◇欧米世界との接触－ペリー来航の意味するもの ◇攘夷と尊皇－排外主義とナショナリズムうずまく長州藩 ◇公武合体と公権政体論－坂本龍馬の「船中八策」 ◇大政奉還と戊辰戦争－慶喜の決断と誤算 ◇維新政府の目指したもの－中央集権による富国強兵 ◇征韓と内治優先－大久保内務卿の企図 ◇国権と民権の相克－自由民権の主張と植木枝盛 ◇経済発展と貧困・スラム－「下層社会」を見つめる目 ◇軍拡と対外膨張を準備したものは－「近代化」の実相 	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末にレポートを課す</p>	

【授業科目】 西洋史概説	【担当者】 井関正久
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>19, 20 世紀の西洋近現代史を概観するとともに、現在進行中の欧州統合過程について考察する。</p>	
【テキスト】	
<p>-----</p> <p>【参考書】 松村超/西川正雄/山口定, 地域からの世界史〈14〉『西ヨーロッパ』〈下〉(朝日新聞社 1993年)</p>	
授 業 計 画	
<p>まず 19 世紀の西洋近代社会の形成・定着・再編過程と自由主義・帝国主義の展開を概観する。次に、20 世紀に勃発した二つの世界大戦と西欧の衰退、そしてその後の東西冷戦の展開と終結について考察する。その際、冷戦の最前線に位置した旧東西ドイツに重点を置く。最後に、20 世紀西洋史の締め括りとして、冷戦終結後急速に展開する欧州統合過程の意義について考察する。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>試験、出席で総合評価する。</p>	

<p>【授業科目】 東洋美術</p>	<p>【担当者】 鈴木 泉</p>
<p>【開講期】 1年 前期</p>	
<p>【授業目標】</p> <p>東洋美術の中核は仏教美術であり、その仏教美術を知るための基本的存在が仏像彫刻と言って差し支えない。本授業では、この仏像彫刻の歴史的な展開を、東洋の端に位置する日本を例に概観し、東洋美術の一面を垣間見ることにする。そこから、美術作品を見る眼、さらには美術分野に関する教養・知識の幅を広げることが狙いではあるが、なにより受講者諸君には、仏像を通して美術鑑賞の面白さを知ってもらいたいと考えている。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキストは用いず、適宜プリント資料を配布する。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>参考文献等は必要に応じて授業中に紹介して行く。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>紀元前6世紀頃、釈迦によってインドに誕生した仏教は、紀元1世紀頃、礼拝対象としての仏教尊像すなわち仏像を造り出した。やがて、仏教の広まりとともに仏像もアジア各地に伝わり、それぞれの国・地域でその表情や姿を変えて行くのである。</p> <p>通例「東洋」とは、インド以東、主に東南アジア諸国・中国・朝鮮・日本を指す語といっ てよい。しかし、その範囲は広く、各地域で文化の様相が異なり、美術様式も一様ではな いため、必然的に地域・内容を絞らざるを得ない。</p> <p>今年度も、我々にもっとも身近な日本の仏像彫刻を主に取り上げ、その様式の古代から 中世にかけての変遷について概観する。日本の美術は、常に大陸、とりわけ中国・朝鮮半 島の強い影響を受けて進展を遂げており、彫刻も例外ではない。そこで、本授業において もこの点を十分に踏まえ、随時中国・朝鮮半島等の仏像を比較参照の意味で紹介して行き たいと思っている。なお、今年度は、インドにおける仏像の誕生から、それが日本へ伝播 するまでの経過にも注目し、特にインド・中央アジア・中国・朝鮮半島等における古代仏 像彫刻についても、多少詳しくふれたいと考えている。</p> <p>授業はおおよそ以下の順序（前後することもある）・内容を予定している。一つのテー マを1～3回の講義でまとめて行くつもりである（授業回数の都合により一部変更する場 合あり／ほぼ毎回スライドを使用する予定）。</p> <p>I. 仏像の誕生とその伝播</p> <p>①インド古代の仏像彫刻 ②インドから中国・朝鮮半島への流れと日本への伝播 中央アジア・中国・朝鮮半島各地域の古代仏像彫刻</p> <p>II. 仏像の見方</p> <p>③仏像の形式・材質・構造</p> <p>III. 日本における仏像様式の展開</p> <p>④飛鳥時代の彫刻～仏教伝来・渡来仏・止利様式と非止利様式・法隆寺の諸像 ⑤白鳳時代の彫刻～小金銅仏・当麻寺の諸像・旧山田寺仏頭・童顔童子形像 ⑥天平時代の彫刻～法隆寺塔本塑像・薬師寺、興福寺、東大寺、唐招提寺の諸像・ 写実様式の完成 ⑦平安時代の彫刻～唐招提寺木彫像群・密教尊像・一木造像・大仏師定朝と定朝 様式・和様化・寄木造像 ⑧鎌倉時代の彫刻～運慶、快慶と慶派仏師・宋風彫刻・新たな写実様式</p> <p>IV. 総括</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>①平常点（出席状況＝2/3以上の出席が原則・受講態度等） ②レポート（1回） ③定期試験（筆記） 以上を総合して判断する。詳細はあらためて授業中に説明する。</p>	

【授業科目名】 演劇論

【担当者】 高橋秀雄

【開講期】 1 年 前期

【授業目標】 “人生は劇場なり”という言葉があり、また、演劇は宗教儀礼から起しているという説があるように、演劇は古くから生活の中の文化として成立し、多様な展開をみせてきた。この演劇の展開の歴史を辿り、演劇について考察を試み、とくに西洋と東洋、さらには日本との比較の中で演劇の特質を探究する。

【テキスト・参考書】

テキスト：使用しない

参考書：各種演劇関係書（その都度指示する）

授 業 計 画

洋の東西における演劇の特色を明らかにするとともに、演劇の構成要素である演出・演技・舞台美術・照明・音響・衣裳などの演劇の基礎的表現を分析し、さらには、西欧の諸演劇と日本の演劇と比較することによって、その多様性と特徴を理解する。各テーマについては、1回または数回講義となる。

1. 宗教儀礼と演劇
2. 悲劇と喜劇
3. 能と「花伝書」
4. リアリズム演劇とスタニスラフスキー・システム
5. 歌舞伎と「虚実皮膜論」
6. 歌舞伎と新劇
7. オペラとミュージカル
8. 比較演劇論
9. 現代と演劇

【評価方法】

1. 期末のレポート
2. 授業時の小レポート
3. 授業時の平常点

左記3項による総合評価

【授業科目】 現代社会論	【担当者】 鍾 家新
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>本講義は「福祉国家」・「戦争」・「管理社会」を切り口として、現代社会、特に20世紀の日本社会を分析する。具体的な組織・制度・政策の考察を通して、現代人と現代社会との関係や現代国家にとっての個人の意味・価値などの諸問題を理解するために役立つ知識と分析の仕方を提供する。本講義の受講によって、学生たちは現代社会、特に20世紀の日本社会を福祉の視点で分析する知識と思考力を身につける。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>鍾家新著『日本型福祉国家の形成と「十五年戦争」』ミネルヴァ書房、1998年。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>講義の中で必要に応じて参考文献を紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>授業ではつぎの諸テーマを取り上げる。</p> <p>I 現代社会の特徴 ①現代社会の定義 ②20世紀の日本社会</p> <p>II 現代社会の面相（1）＝産業社会と消費社会 ①現代社会の発展の原動力：現代産業構造の形成 ②現代就業構造の形成 ③産業社会と現代人の意識構造の変化 ④消費社会と情報社会</p> <p>III 現代社会の面相（2）＝管理社会 ①「管理社会」のイメージ ②管理社会化の現象・形態 ③社会主義社会＝管理国家の一形態 ④福祉国家＝管理国家の一形態 ⑤戦争国家＝管理国家の極限状態</p> <p>IV 現代社会の面相（3）＝福祉社会 ①社会問題の諸類型 ②福祉社会の設定者・執行者＝厚生省 ③福祉社会の柱の一つ＝年金保険制度 ④福祉社会の柱の一つ＝医療保険制度 ④福祉社会の柱の一つ＝生活保護制度</p> <p>V 総括 — 21世紀人類社会のゆくえ</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>筆記試験（テキスト・ノートなど参照可）と出席状況。</p>	

【授業科目名】 現代家族論	【担当者】 民秋 言
【開講期】 1年後期	
【授業目標】 人類の歴史と共に古い、といわれる家族。この家族は今日の社会において私達の生活とどうつながりをもっているか。今日、いろいろな角度から家族がテーマとされるが、本講では「福祉」の視点から考えてみる。福祉すなわち「人間としての幸せ」は家族とどうかかわっているか、が主たるテーマとなる。	
【テキスト・参考書】 望月 嵩、木村 汎共編 『現代家族の福祉－家族問題への対応』 培風館	
授 業 計 画	
1. 人間にとって家族とは何か 2. 家族のはたらき 3. 家族のタイプ 4. 家族のしくみ 5. 家族と福祉 6. まとめ	ー 家族は人類の歴史と共に古い集団といわれる。つまりわれわれ人間にとって家族は必須のものであったし、今後もそうであろう。人間が生きることとの関わりで「家族」の定義をする。本講では家族を「福祉追求の集団」とする。 ー 家族は基礎的集団といわれ、いろいろなはたらき（機能）を同時併行的にもつ。しかし今日の社会では、すべての機能が一律に求められているとは限らない。家族がもつどのような機能に注目すればよいか考える。 ー 家族という集団を形成し、それを拠点として生活するとき、そこにはさまざまな家族のタイプが生ずる。また社会全体がもつきまりやルール（規範）によって家族のあり方も規制される。どのような家蔵のタイプが望ましいか、考える。 ー 家族がもつ目標を達成するためにはそのしくみ（構造）が問題となる。役割構造と権威構造との2面から検討する。 ー 家族は福祉追求の集団であるとするとき、そこにはいくつかの課題が生ずる。 (1) 子どもの養育と家族福祉 (2) 母子家庭、父子家庭と家族福祉 (3) 高齢化社会における家族福祉 ー 今後、家族を形成するものとして、望ましい家族福祉の姿を考えてみる。
【評価方法】 ペーパーテストを期末に実施	

【授業科目】 日本国憲法	【担当者】 松田 浩
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>この授業では、日本国憲法の仕組みと働きの大枠を理解することを目標にします。みなさんがこれから市民として、職業人として生活していくうえで、最低限必要な憲法や法についての基本的な考え方を、この授業を通じて身につけて下さい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>無</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>さしあたり、芦部信喜『憲法』（岩波書店）。「面白い本」ではありませんが、日本国憲法についてのスタンダードな知識を得たい方は手にするといいでしょう。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1、日本国憲法とは何か 2、日本国憲法の基本原則 3、国民主権・天皇制 4、平和主義 5、基本的人権総論 6、精神的自由権 7、経済的自由権 8、人身の自由・国務請求権・参政権 9、社会権 10、統治機構総論・国会 11、内閣・財政・地方自治 12、裁判所・違憲審査制 13、憲法改正 	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点（出席）と期末試験で評価</p>	

【授業科目】 市民生活と法	【担当者】 武藤健一
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>2年後に、主に女性である皆さんが実際に社会に出ていって見て、女性として遭遇すると思われる事柄・問題について、法律という観点を加えて、自分の今後のこと・将来のことを考えるきっかけになるような授業にしたいと考えています。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>適当なものがないので、テキストは使いません（レジュメ配布）。</p>	
<p>【参考書】 伊田 広行 「シングル単位の社会論」（98年 世界思想社）をあげておきます。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>現代日本では女性がどのような状況におかれているのかということ、1° 就職・労働、2° 恋愛・結婚・家族、という2本の柱を立てて、社会学的に、法学的に考察していきます。</p> <p>ちなみに去年は、1° :①M字型雇用 ②不況 ③就職 ④総合職・一般職 ⑤セクシュアル=ハラスメント ⑥転職 ⑦派遣労働 ⑧育児・介護休暇 ⑨保育 ⑩パート労働 ⑪性別職務分離と男女賃金格差 ⑫雇用機会均等法 ⑬労働基準法 2° :①恋愛観・結婚観 ②結婚 ③家事 ④育児 ⑤夫・恋人の暴力 ⑥子どもの虐待 ⑦離婚、を取り上げましたが、今年度は項目を少し減らし、ビデオを見る回数を増やすなど、余裕のある形にしたいと思います。</p> <p>注意</p> <p>飲食等、人に迷惑がかからないことは何をしてもいいですが、授業に関係のないおしゃべりは許されません。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>昨年度同様に、学年末に試験を行ない、授業での出席点（・レポート点）を加味して評価をしたいと考えています。</p>	

【授業科目】 政治学入門	【担当者】 梅田 欽治
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>主権者の一人として、日本と世界の政治に関心を持ち、自立した自分の意見をもてるようになること。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業のなかで資料を配布し、それをテキストにします。</p>	
<p>.....</p> <p>【参考書】</p> <p>必要に応じて授業のなかで紹介します。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>「政治なんて嫌い」「政治は私には関係ない」「政治は難しくて、わからない」などという人がいるかもしれません。本当にそうなのだろうか。</p> <p>実は、政治は面白いのです。私たちの生活に直接、関係しているのです。どうして、いまの日本の政治に怒らないのか、憤らないのか、このままで私たちの未来があるのだろうか。知りたい人は、この授業を受けたらよい。毎回、なにか新しい発見があるでしょう。</p> <p>今年(2000年)は20世紀の最後の年です。そこで20世紀とはどういう時代であったか、を考えることにしたい。21世紀をどういう時代にしたらよいか、という展望は20世紀のなかにヒントがあるのです。</p> <p>20世紀の歴史のなかで、政治について学びましょう。その学び方のなかで政治学を知ることにしていきましょう。戦争と平和、人権・環境…大切な課題がたくさんあります。</p> <p>私たちは日本国の主権者なのです。私たちが政治を動かすのです。政治学入門はそのために学ぶのです。入門ですから、気楽に受講しなさい。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況と試験の結果で評価します。</p>	

【授業科目名】 生活の経済学	【担当者】 内山哲朗
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>現代日本経済を「生活の豊かさ」の視点より取り上げ、「経済の豊かさ」と「生活の豊かさ」の関連構造を検証しながら、「経済と生活」をつなぐ基本的論理について講義を進めていく。戦後日本経済の歩みとその問題点に目を配る中から、21世紀に向かう「日本の生活像」に関する基礎知識の修得をめざす。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>特に指定しない。講義の中で適宜参考文献を紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>講義で取り上げるテーマは、以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生活把握の基本視点——労働・家族・地域—— 2 戦後日本経済の展開過程——時期区分—— 3 戦後日本の生活の変容 4 「豊かさ」とは何か——生活経済学の論理—— 5 「生活の豊かさ」と高齢社会 6 「生活の豊かさ」と環境問題 7 生活福祉の社会経済学——非営利・協同の経済セクター—— 8 生活福祉と社会政策 	
<p>【評価方法】</p> <p>授業への出席と定期試験を総合的に勘案して評価する。</p>	

【授業科目名】 心理学入門	【担当者】 林 潔
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>心理学の基本的なテーマについて紹介します。 性格と性格形成、性格の問題に対する取り組み、および対人関係のをめぐる問題を基本的なテーマとします。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：なし 指定図書：割り当てられた週に利用して下さい。 図書館に指定図書を何種類か、用意してあります。 1週間借り出して、簡単な内容紹介と、感想文をレポート1枚程度にまとめて出して頂きます。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の成立 心理学の流れと、基本的な考え方。 2. 幼児期と性格形成 幼児期の問題、特に母性剥奪をテーマとしたVTRを利用します。 3. 意識と無意識：精神分析の人間理解(1) Freudの思想と精神分析の概説 4 同 (2) libidoの発達と防衛機制 6 同 (3) 7 同 (4) 物語と夢の分析 8 性格について(1) 基本的な性格論 9 性格について(2) 性格理解の試みについて 10 対人関係について考える 11 人間の問題へにどのように取り組むか カウンセリング、心理療法の役割 	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点、中間試験、レポートで評価します。</p>	

【授業科目】 マスコミュニケーション概論

【担当者】 瀬木博道

【開講期】 1年 前期

【授業目標】

現代はマスコミ支配の時代ともいえる。これを
初步から読み起こし、マスコミ現象が社会に及ぼす影響に
ついて考えるようにしたい。社会で実際に必要となる
広告、広報の理論も重点的に学びたい。

【テキスト】

瀬木博道ほか共著「コミュニケーションするPR」電通

【参考書】

瀬木博道ほか共著「広報の基礎工」日経広告研究所

授 業 計 画

1. マスコミの理論 (上)
2. 同 (下)
3. マスコミの実際
4. ジャーナリズムの理念
5. 日本と欧米ジャーナリズムの違い
6. メディアとしてのテレビの長所短所
7. 言論の自由と知る権利 (上)
8. 同 (下)
9. 広報概論
10. パブリシティとは
11. 国際広告
12. 記者クラブの問題
13. 広告概念

【評価方法】

学期~~初~~の筆記試験で決める。ただし、出席状況、
受講態度は参考にする。

【授業科目】 現代社会と女性	【担当者】 富永静枝
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>男女共生社会に向けて、伝統的な性別役割分業を見直し、21世紀に生きる男女の望ましい在り方や生き方を探る。</p>	
【テキスト】	
<p>-----</p> <p>【参考書】 授業の中で資料を配布し、参考文献を紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>「男女は平等になっていますか」と聞かれたらあなたはなんと答えますか。現代は「女だから」「男だから」という理由で学校や家庭で差別を受けることは少なくなっています。しかし本当に男女は平等になっているのでしょうか。不況下での女子学生の就職は厳しく、結婚後も家事・育児と職業の両立に悩むなど、女性が能力を発揮して、一人の人間として自立して主体的に生きることはまだまだ困難な状況にあります。そこでこの授業では、人生のパートナーである男性と女性がともに人間らしく豊かに生きるためにはどうしたら良いか、これからの望ましい男女のあり方や、社会システムのあり方について学びます。授業方法は講義だけでなく、ビデオや新聞記事情報なども活用し、意見発表や討論なども加えて行います。</p> <p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、女性のライフサイクルの変化 2、女性を取り巻く社会的状況 3、性別役割分業とその問題点 4、女性と職業 5、少子・高齢社会と女性 6、男女平等をめざす世界の運動と日本の動き 	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末試験、平常時の提出物、出席状況の総合評価</p>	

【授業科目】 自然科学史	【担当者】 柳下登
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】 人間は自然を理解する（科学する）ことで自己を変革し、より人間らしくなった。科学の歴史はヒトから人間化への歴史である。人間は古代から生命、広くは生物的自然に強い関心を持ち、それについての理解は紆余曲折を経て科学の姿を整えてきた。この講義ではそれぞれの時代の定説がより科学的な考えにとってかわった過程を追求することにした。そして、今日では生命科学の成果は生命操作の時代を迎えた。そこで、現代の生命科学をもとに確立したバイオテクノロジーと人間や社会の未来についての課題にも言及したい。</p>	
<p>【テキスト】 プリントを中心におこなう予定。</p>	
<p>【参考書】 新編自然科学入門（甲斐義幸）学術図書、科学思想のあゆみ（Ch. サンガー）岩波書店、科学の考え方・学び方（池内 了）岩波ジュニア新書、近代科学の歩み（H. バターフィールド）岩波新書、遺伝子組換え作物に未来はあるか（柳下登ら）本の泉社</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1) 科学を成立させた人間の条件</p> <p>a. 森の生活者サル類がヒトをつくる b. 「木から落ちたサル」のサルばなれへの道 c. 四本足から二本足へ d. 道具が人間をつくる e. 生きること（生活）が自然についての理解を深める f. 道具で道具をつくる g. 定住と農耕 h. 技術が先か科学が先か</p> <p>2) 古代のエジプトとギリシアでの科学の起こり</p> <p>3) 生き物の本質を求めて</p> <p>a. アリストテレス生命の完成への目的 b. ヘルモントラの自然発生説 v s パスツールの実験 c. 細胞（生命）あるものから細胞（生命）へ d. ラマルク：生物は段々と複雑になった e. ダーウィン：生物は共通の祖先から f. オパーリの生命の起源と「自然発生」説の復活 g. メンデルの遺伝の粒子説 h. ワトソン・クリックのDNAの2重らせん i. バイオテクノロジーの確立と人間、社会の課題</p> <p>4) 私の研究史：ピートン物語</p>	
<p>【評価方法】 定期試験にかわる課題レポート。その他自発的なテーマ設定の提出物を評価に加える。</p>	

【授業科目】 生命の科学	【担当者】 小作明則
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】 21世紀を迎えようとしている今日「生物の多様性」の維持は地球上の生物環境をより安全な状態で維持していくための大きな課題である。この生物の多様性を支えている「生命」について地球物理学、化学、進化生物学そして歴史学的な理解を深め、さらに地上における「人類」が抱える今後の諸問題について概説する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>----- テキスト・参考書は特に指定しない。 -----</p> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>この講義では授業目標に掲げた内容を理解するために、おおよそ以下の各時間ごとのテーマに従って講義を進めていく。この講義は講義室での説明・板書だけが目的ではなく、できる限り実物を自分の眼で見、手で触り、バーチャルではなく五感を持って理解することを目的としたい。</p> <p>以下に時間ごとのおおよその講義タイトルを示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 太陽系と地球の誕生、物質の由来 2. 地球と水と生命誕生 3. 地球型生物の特徴と進化 4. 分子生物学と進化 5. 植物と動物の分化と進化 6. 生物の存在と地球環境の変化 7. 脊椎動物の進化 8. 生殖方法の変化と動物進化 9. サルとヒト <p>以上を講義として行い、これ以外に博物館、水族館、動物園等さらに玉川上水の散歩等実物を見ながら生命について考えていこうと考えている。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">レポートあるいは筆記試験</p>	

【授業科目】 生物と環境	【担当者】 吉川研二
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>人類は多くの生物たちから様々な恩恵を受けてきた。しかしこの多様な生物の世界は急激に失われつつある。その最大の原因は人類による生物の生息環境の汚染や破壊、資源の乱獲などである。多くの種の消滅は私たち人類の将来にかかわってくる。ヒトと生物とその生存環境を考える。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>OUR STOLEN FUTURE 邦訳『奪われし未来』 1997.9 翔泳社</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>今から30年以上前に、海洋生物学者のRachel L. Carsonは『Silent spring』で合成殺虫剤が自然界にもたらす危険性について警告した。その警告によって人類はどれだけ賢くなったのだろうか？知らないことが幸せなのか、知ることが不幸せなのか。</p> <p>授業は決して易しくはありません。幅広い基礎教養が要求されるはずです。今までの勉強がどれだけのものだったかが判ると思います。知る努力を惜しまず、共に考え続けていきたい。</p> <p>自然科学の世界 単位について 環境とは 生物の世界 生態系、その構造と機能 天然化学物質と合成化学物質 沈黙の春 環境汚染 内分泌攪乱物質 奪われし未来</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点+筆記試験</p>	

【授業科目】 生活の科学	【担当者】 滝沢靖臣
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>現代における私たちの生活の進展は大きく、衣食住ならびに医薬品からコンピュータまで様々な物質に取り囲まれている。これらの物質を構成している原子や分子の世界に目を向けて、それらの特性を学ぶことにより、身近に起こっている科学的な現象を少しでもより正しく理解できるようになることを本授業の主眼としている。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>「物質とは何か」-化学の基礎- 東京教学社</p>	
<p>.....</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>物質の成り立ちを理解してから、それらの物質を通して私たちの身の回りの科学的現象が理解できるようにする。特に基礎知識がなくても理解できるように平易に解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活の中の物質科学を考えてみよう。 2. 身の回りにある水分子の世界を覗いてみよう。 3. 原子と分子と私たちの生活。 4. 原子はどのような構造をもっているのだろうか。 5. 物質をつくっている分子の構造は何により決まるのだろうか。 6. 物質の状態は何により決まるのだろうか。 7. 金属と超伝導とはどのような関係にあるのだろうか。 8. 酸は何故酸っぱく感じるのだろうか。 9. アルコールの正体は何であろうか。 10. 日焼けと日焼け止めと光化学反応。 11. 人や物質の老化は防げるか。活性酸素の化学。 12. 物質科学とエネルギー。 13. 物質科学からみた衣類、高分子化学の世界をみる。 14. 石油資源と石油化学を考える。 15. 21世紀の物質の世界を考える。 	
<p>【評価方法】</p> <p>試験、レポート、出欠により評価する</p>	

【授業科目】 健康の生理学	【担当者】 明渡陽子
【開講期】 1年 後期	
【授業目標】 1. 健康の概念と健康管理活動の原理の理解 2. 人体各器官の生理機能の理解 3. 疾病予防や健康増進に必要な基本的知識の習得 4. 女性の医学 5. 健康管理の実際（血圧測定・体脂肪率測定）：自己測定を行い健康への関心を高める	
【テキスト】 シンプル 衛生公衆衛生学（改訂第9版）南江堂	
【参考書】 栄養、健康科学シリーズ 健康管理概論 南江堂 新・健康管理概論（改訂第2版）医歯薬出版	
授 業 計 画	
第1回 健康の概念 第2回 疾病予防と健康管理（I-1）：わが国の健康水準と健康増進施策 第3回 疾病予防と健康管理（I-2）：生活習慣病（癌・心疾患・高血圧） 第4回 疾病予防と健康管理（I-3）：生活習慣病（脳血管疾患・糖尿病・高脂血症） 第5回 疾病予防と健康管理（II）：健康管理法 （肥満・運動・ストレスと休養・飲酒・喫煙などの健康への影響） 第6回 健康管理の実際（血圧測定・体脂肪率測定） 第7回 女性の医学（I）（加齢と性機能・月経のしくみとホルモン） 第8回 女性の医学（II）（主な疾患の概要） 第9回 女性の医学（III）（性病・人工妊娠中絶と避妊法） 第10回 学校保健・産業保健 第11回 環境保健・母子保健・地域保健・ 第12回 感染性疾患（インフルエンザ・肝炎・AIDSなど） 第13回 成人・老人保健 第14回 保健医療制度と法規	
【評価方法】 出席点と筆記試験	

【授業科目】 宇宙と地球	【担当者】 猪郷久義
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>地球上で我々が生活の舞台としている自然環境は、地球全体から見ればごく限られている。また46億年の悠久の地球史という立場から見ると、人類史はほんの一瞬である。現代の宇宙観・地球観を通して改めて自然環境とその変遷、特に生物が関与してきた地球環境の変遷史を探究し、身の回りの自然環境に理解を深め将来を展望しよう。また自然災害と防災科学という身近な面からも地球をもっと知ろう。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に定めない</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>その都度適当なものを推薦する予定</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>授業は通常の講義に加えてスライドやOHPによる討論などを加えて行うがその主なトピックスは下記の予定である。</p> <p>現在の地球観（大陸移動説からプレートテクトニクスとプルームテクトニクス） 自然災害の地球科学（地震と火山とつき合う・海水面変動・気候変動） 地球環境変遷史（原始地球の自然環境・最古の生命・酸素と二酸化炭素・酸化鉄の沈澱・シアノバクテリア・エディアカラ動物群・進化の実験場ー澄江動物群とバーゲス頁岩・植物と脊椎動物の上陸作戦・ジュラシックパーク・恐竜時代の終焉・哺乳類の春・氷河時代と人類・縄文人に学ぶ） 宇宙のなかの地球（隕石と惑星の科学・太陽系の誕生・宇宙の誕生）</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>論述形式のテスト</p>	

【授業科目】 総合科目人間	【担当者】 栗田廣美
【開講期】 1年 前期	
【授業目標】	
【総合科目人間全体について】	
<p>1年間で3人の教員が担当する総合科目であり、「ヒューマニズムと人間」の考察が大目標である。</p> <p>鍾（前期前半）→栗田（前期後半）→平賀（後期）の順で講義する。</p>	
【栗田担当分について】 哲学的なアプローチで「人間・ヒューマニズム」を考察する。	
【テキスト】 用いない。必要に応じてプリントを配布する。	
<p>-----</p> <p>【参考書】 必要に応じ、講義中に紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>「ヒューマニズムは間違っている」と言う人は多くないが、では、なぜ「ヒューマニズム」は「正しい」のか。「人間を大切にするのは当たり前だ」では、「自分の思想」にも「学問」にもならない。要するに、「世間的通念」に流されているだけである。「ヒューマニズム」は白梅学園「建学の理念」ともされているが、その「理念」自体も、自由な学問的立場で検証されねばならない。</p> <p>こうした立場から、おおむね、以下の順に講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「根源的に問う」態度について。 ② 「自己」と「世界」 ③ 我々の状況—近代に於ける「人間」の問題 ④ 「近代ヒューマニズム」思想の問題点 ⑤ アイデンティティと共同体 	
<p>【評価方法】 <u>1年間を通して</u>（3人の教員が各々の担当部分の評価を持ち寄り）<u>全体として成績評価を下す。</u></p> <p>栗田担当部分の評価は、レポートにより、出席点を加味する。</p> <p>講義を良く聴いて、しっかりノートをとっておくこと。</p>	

【授業科目】 総合科目人間	【担当者】 鍾 家新
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>本講義は中国の事例を中心に、国際比較を通して、①自然に対する人間の意味付与と自然への融和、②人間の拡張欲望、③人間の消費欲望、④人間の欲望を実現・制限する現代国家、について分析する。日本人と中国人の人間像の異同及び現代国家における個人・家族の苦闘を探究する。異文化比較の手法を取り入れる。本講義の受講によって、学生たちは人間、現代国家、外国を相対的に見るための知識と能力を身につける。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>鍾家新著『中国民衆の欲望のゆくえ — 消費の動態と家族の変動』新曜社、1999年。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>授業ではつぎの諸テーマを取り上げる。</p> <p>I 自然に対する人間の意味付与と自然への融和 ①中国の住宅と日本の住宅との比較 ②「風水」信仰の意味・背景・影響</p> <p>II 人間の拡張欲望 — 家族の日中比較 ①外国人が見る日本の家族構造の特徴 ②中国の家族構造と伝統文化の深さ ③中国の「一人っ子政策」と日本の少子化 ④中国女性の社会的地位と日本女性の社会的地位</p> <p>III 人間の消費欲望 ①中国民衆の消費動態 ②近代化が進む中国民衆と日本民衆との共通点</p> <p>IV 人間と国家 ①人間の欲望を実現する手段とする現代国家 ②人間の欲望を制限する装置とする現代国家</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>筆記試験（テキスト・ノートなど参照可）と出席状況。</p>	

【授業科目】 総合科目人間	【担当者】 平賀明彦
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>前期のヒューマニズムと人権に引き続き平和について考える。平和という言葉の定義も含め、平和であるとはどのような状態をいうのか、また、そうなるためにはどういった取り組みが必要であるかを一緒に考えてみたい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に定めない</p>	
<p>【参考書】</p> <p>多数あるのでその都度紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>差し当たっては最も平和的でない状態、平和の対局にあると考えられる戦争について、過去の戦争や現代の地域戦争の実態を知ることからはじめ、ついで、それらの原因として重要と思われる国民国家の成立過程やナショナリズム形成の問題を取り上げる。そして、そういった戦争状態を回避するための取り組みがどのように行われてきたかを検討し、過去、現在そして将来におけるその有効性について考える。また、そういった行動の背景となった近代の平和思想の歴史についても触れてみたい。</p> <p>次のようなテーマで話しを進めていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇アジア・太平洋戦争と人・物・カネの総動員システム ◇現代の地域紛争 ◇核危機とゼロサム社会の現実 ◇近代国民国家形成とナショナリズム ◇近代の平和思想の歴史 ◇平和への取り組みと可能性－我々の憲法、国連の改革、NGO ◇平和への課題－人権・福祉そして平和 	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末にレポートを課す</p>	

【授業科目名】 情報処理入門	【担当者】 倉澤寿之
【開講期】 1年前期	
【授業目標】 あらゆる分野で必要とされるコンピュータ利用の初歩を学びます。ワープロをはじめ、電子メール、表計算、画像作成などの実習を行い、情報メディアリテラシーの基本を修得することをめざします。できれば、ホームページの作成などにも手を伸ばしてみましょう。	
【テキスト】 安達一寿他著「これからの情報リテラシー—課題で学ぶ基礎的情報処理—」 樹村房 【参考書】	
授 業 計 画	
<p>1. タイプ練習 ・ キーボードリテラシー 正しいタイピングの方法を学び、練習します。 きちんとしたタイピングができると、仕事の能率が飛躍的に上がります。</p> <p>2. ワードプロセッサ ・ 基本的文書作成 いくつかの文書作成の実習を行います。コンピュータ利用の多くは文書の作成です。ここで慣れておきましょう。 単に「清書機」として使うのではなく、「考えながら書く」やり方を身につけるといいです。 さらに、文字ばかりではなく、パソコンで描いた絵も入れて、表現力豊かな文書にしましょう。</p> <p>3. 電子メール ・ ネットワークコミュニケーションの基礎 電子メールを使えることは、今や当然の技能となりつつあります。 インターネット時代のコミュニケーションの基本として、身につけておきましょう。</p> <p>4. 表計算ソフト ・ コンピュータによるデータ処理の基礎 「データをコンピュータで処理する」というと、難しく聞こえますが、そんなことはありません。名簿や家計簿を作ったり、グラフを描いたりしているうちに、自然にわかってくるでしょう。</p>	
【評価方法】 ときどき課題を出します。提出はたいていネットワーク経由です。	

【授業科目】 情報処理入門

【担当者】 多喜乃 亮介

【開講期】 1年 前期

【授業目標】

コンピュータの利用方法を学ぶことを通して、コンピュータで扱うことのできる、「情報」とはどのようなものかを理解する。習得技術目標は、キーボードの操作、電子メールによる連絡、Web Pageを利用した情報検索、ワープロソフトによる文書作成、絵や写真といった描画データの扱い方、に習熟することとする。

【テキスト】

プリントを配布する

【参考書】

特に指定しない

授 業 計 画

授業の前半でその日に学習する内容の説明を行い、後半では実習形式による操作技術の習得を行います。

以下の項目にしたがって進めます。

1. コンピュータの仕組みと操作
2. 文字データの入力と保存
3. ファイルの管理
4. 電子メールの利用
5. インターネット環境と Web Page の利用 (閲覧, 検索)
7. ワープロソフトを使った文書作成1 (基本操作)
8. ワープロソフトを使った文書作成2 (応用操作)
9. グラフィックスデータの作成1 (絵の描画)
10. グラフィックスデータの作成2 (写真の加工)

なお、まったくコンピュータを利用したことのない人でも授業内容を理解できるように配慮しますが、操作方法に習熟するために授業時間外にコンピュータ室を利用して練習することを勧めます。

【評価方法】

授業の出席と課題の提出

【授業科目】 情報処理入門	【担当者】 宮武直樹
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>最近のパソコン、ワープロ機器の普及はめざましいものである。この情報化社会の素養として、コンピュータの仕組み、操作からワープロ、表計算、図形処理、ネットワーク利用までの基礎を学習する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>随時プリントを配布する。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>参考文献を授業で紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータの構成と操作方法 2. 日本語ワープロ、Wordの基本操作（3級程度の文書作成） 3. 表や罫線を使う文書作成（2級程度の文書作成） 4. 図形や段組を使う文書作成（1級程度の文書作成） 5. 表計算機能の使い方 6. 作図機能の使い方 7. 表計算ソフト、Excelの基本操作 8. 成績表の作成 9. 各種の成績グラフの作成 10. 成績に関するデータベースの作成 11. 学内ネットワークへの接続と電子メールにつ 12. 電子メールの送受信 13. 簡単なホームページの作成 14. まとめ 	
<p>【評価方法】</p>	

【授業科目】 情報処理入門	【担当者】 森田信一
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>どんな仕事においても、情報処理技術が導入されていて、それを扱う知識と技術がいろいろな場面で必要となっている。保育の分野においても、文書の作成や、いろいろなデータの整理などにコンピュータはなくてはならない道具となっている。情報処理入門では、こういった情報リテラシー（活用能力）を身につけるための基礎的な知識と技術を扱う。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p style="text-align: center;">こゝからの情報リテラシー</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>情報処理の最も中心的な道具であるコンピュータそのものの扱いについて学習するとともに、今日では、ネットワークに接続された形でのコンピュータの利用方法についても知識が必要となる。</p> <p>そこでまず、ネットワークに関する知識とその利用を修得する。ユーザ名やパスワードを設定して、ネットワークへのログオンを行い、インターネットの利用と電子メールを使えるようにする。サーバーを利用して教材を入手したり、課題を提出する方法についても、ここで解説する。</p> <p>またここでは、インターネットと電子メールを利用する上での注意点やマナー、権利やプライバシーの問題についても解説する。</p> <p>次に、レポート作成を始めとして、今後必要となる文書作成について学習する。ソフトウェアとしては、ワードプロセッサを中心として、文字の入力と編集について実習し、表や図形なども含めた各種文書処理を修得する。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>実習の機会が多くなるので、出席を重視し、課題の提出なども含めて、平常点によって評価する。</p>	

【授業科目】 総合英語 I - 1、2	【担当者】 新井紀代
【開講期】 1年 前期・後期	
【授業目標】	
<p>【テキスト】</p> <p>リスニング教材として <u>Check In, Check Out</u> (マクミラン) を使用。 リーディングのテキストは開講時に指示する。</p>	
授 業 計 画	
<p>開講時に指示する。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席・授業態度・小テスト・期末テストなどを総合的に評価する。</p>	

【授業科目】 総合英語 I - 1、2	【担当者】 磯山 滯一
【開講期】 1年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>短かくて平易な英文をもとに、読む力と表現する力を伸ばします。また、身近な話題の新聞記事などを読むことで、時事英語に親しめるようにします。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>プリントを配ります。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>次のようなテーマを取りあげますが、その他に英字新聞の短い記事や人生相談を用います。</p> <p>1. 自己紹介 2. 家族 3. 高校生活 4. 大学生活 5. 趣味</p> <p>6. いじめ 7. スポーツ 8. 幼稚園実習 9. 死刑廃止問題 10. 共働き</p> <p>11. 夫婦別姓 12. 公害 13. 携帯電話 14. 喫煙 15. 人口問題</p> <p>16. 食品</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>テスト、小レポート、出席状況を総合して評価します。</p>	

【授業科目】 総合英語 I - 1、2	【担当者】 菊地恵子
【開講期】 1年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>幼稚園や保育園の様々な場面で使われる英語表現で構成されたテキストを使用する。また、随時映画の一部や英語の歌も使用。英語圏の児童が話す自然な英語を勉強することで、生きた英語に触れ、日常的な英会話の力を培うとともに、児童が育つのにふさわしい人間関係、環境についても認識を深められるようにしたい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>「保育の英語」 森田和子著 三修社 ¥1,700 他にプリント教材</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1 保育園の生活を題材に、園の子どもたちと先生を主人公とした物語り仕立ての英語本文を読み、テープを聴く。英文の構造を理解しながら味わって読むとともに、自然な英語のイントネーションを学ぶ。 2 関連する単語、熟語、役に立つ表現などを覚え、対話練習をする。 3 英語でマザーグースなどの子どもの遊び歌やゲームを、実際に身体を動かしながらやってみて、英語圏の子どもたちの情操を育てる文化に触れる。 4 健康や環境の問題、子どもの人権の侵害など、現代の子どもを取りまく問題についても随時取りあげ、やさしい英文記事などで勉強していく。 5 夏休みには、現代の子どもを取りまく問題のなかで自分の研究テーマとしたいことを考えて選び、関連した問題を扱った新聞や雑誌の記事の切り抜きを作成する。 6 後期には、上記の夏休み課題で同様な問題を選んだグループやペアで、その問題を扱った英字新聞や英文雑誌の記事を読み、レポートを作成して発表する。 	
<p>【評価方法】 平常点 [出席状況、提出物、質問、意見発表等]、試験結果、レポート内容を総合して行う。</p>	

【授業科目】 総合英語 I - 1、2	【担当者】 清野茂子
【開講期】 1年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育現場を英語の教材としてとらえた教科書です。 保育者と、子供や保護者との間での日常生活に欠かせないコミュニケーションを、英語でどのように表現するかを学んでほしい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>English for Nursery Schools and Kindergartens Sanshusha; ¥1700</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>テキストは、子供たちの園生活での様々な場面を扱った内容で20章から成り立っています。 各章の本文は必ず読んで自分なりに理解して授業に出ることを前提に一年間を通して内容を楽しみます。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席日数、平常の小テスト、および期末テストを総合して評価する。</p>	

【授業科目】 総合英語 I - 1、2	【担当者】 藤田久美子
【開講期】 1年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>リスニングおよびリーディングを中心にして、英語の基本的技能を維持し、向上させていくことを目的とする。</p>	
<p>【テキスト】 Hit Parade Listening (Macmillan Languagehouse)</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>このクラスでは、英語独特の音声変化やストレス・リズムに注目し、日常会話や歌のリスニング練習を通して、そうした独特の現象に慣れていくようにしたい。そして最終的には、歌とともに日常会話の聞き取りが比較的楽にできるような段階にまで到達したいと思う。</p> <p>採用されている曲もよく知られている素晴らしいものが多く、さらに、その内容について書かれた文章は、リーディングの適当な題材となるであろう。</p> <p>リーディングについてもリスニングについても、練習問題の内のどれかを必ずいつも提出してもらい、その集積を成績の重要部分とする。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状態、毎回の練習問題の結果、そして普段の授業態度を総合して最終評価とする。</p>	

【授業科目】 総合英語 I - 1、2

【担当者】 藤田幸世

【開講期】 1年 前期・後期

【授業目標】

中学・高校で既習してきた英語の基礎知識を確認しながら、現在の自分に相応しい英語を学習することを目標とします。

【テキスト】

授業毎にプリントを渡す他は、必要に応じて紹介します。

【参考書】

必要なときに紹介することにします。

授 業 計 画

この一年間の目標を2つ挙げておきます。

1) 外国語としての英語の練習

教材のビデオ、カセットテープから英語を聞き、理解する練習、プリントではビデオとリンクさせた内容の読解、そして内容について自分はどう思うのかを書いて、発表する、いわゆる聞く、読む、書く、話す練習を行います。

2) 英語を通して異文化とはなにか、外国語とは何かを考える

日頃使わない外国語の学習なので1)のような練習は重要になりますが、それと同時に英語の文法だけではどうにもならない部分、それを英語と日本語、英語話者と日本語話者の比較を通じて考えてゆきたいと思います。具体的には一年間の授業の後に一人一人が下の設問の答えが出せればと期待しています。

Q：あなたは中学と高校で英語を学習してきたわけですが、あなたは「バイリンガル」でしょうか。「バイリンガル」というとどういう人のことを想像しますか。

【評価方法】

平常点と出席、また前期は会話の試験、後期はレポートで評価を出します。

【授業科目名】 海外語学研修	【担当者】 瀧口 優														
【開講期】 1年夏期集中（前期5回の事前指導を含む）															
【授業目標】 イギリス、リーズ市に3週間ホームステイし、メトロポリタン大学の語学研修プログラムに参加しながら、日常生活の英語に慣れ、積極的にネイティブ・スピーカーや様々な国々の青年とコミュニケーションできるようにする。また、イギリスの文化に直接慣れ親しむ。															
【テキスト】 事前指導において指示します。															
【参考書】 必要に応じて指示します。															
授 業 計 画															
<p>前期に5回（その他出発直前に1回）、渡航すべてに関わる事前指導を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パスポートの取得 ・渡航手続き ・イギリスの文化的知識の習得、現地生活に関するアドバイス ・基本的な英会話 <p>（事前指導などの連絡は教務掲示板を注意してみること）</p> <p>英国リーズ市でホームステイし、リーズ・メトロポリタン大学の語学研修プログラムに3週間参加します。現地の授業は、ネイティブ・スピーカーによる少人数クラスで行われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期間8月3日～8月28日（予定は変更になることもあります） <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>8/3 成田出発→ロンドン・ヒースロー着</td> <td>ロンドン泊</td> </tr> <tr> <td>8/4 ロンドン市内観光</td> <td>ロンドン泊</td> </tr> <tr> <td>8/5 ロンドン→リーズへ移動</td> <td>ホームステイ開始</td> </tr> <tr> <td colspan="2">8/7～8/24 語学研修</td> </tr> <tr> <td>8/25 リーズ→ロンドンへ移動</td> <td>ロンドン泊</td> </tr> <tr> <td>8/26 ロンドン市内観光</td> <td>ロンドン泊</td> </tr> <tr> <td colspan="2">8/27 ロンドン・ヒースロー→8/28 成田着</td> </tr> </table> <p>帰国後反省会を行います。</p>		8/3 成田出発→ロンドン・ヒースロー着	ロンドン泊	8/4 ロンドン市内観光	ロンドン泊	8/5 ロンドン→リーズへ移動	ホームステイ開始	8/7～8/24 語学研修		8/25 リーズ→ロンドンへ移動	ロンドン泊	8/26 ロンドン市内観光	ロンドン泊	8/27 ロンドン・ヒースロー→8/28 成田着	
8/3 成田出発→ロンドン・ヒースロー着	ロンドン泊														
8/4 ロンドン市内観光	ロンドン泊														
8/5 ロンドン→リーズへ移動	ホームステイ開始														
8/7～8/24 語学研修															
8/25 リーズ→ロンドンへ移動	ロンドン泊														
8/26 ロンドン市内観光	ロンドン泊														
8/27 ロンドン・ヒースロー→8/28 成田着															
【評価方法】 事前指導、語学研修の参加（修了証取得）と帰国後のレポートにて評価															

【授業科目名】 スポーツA テニス

【担当者】 岡田光弘

【開講期】 1 年 前期

【授業目標】
*練習の仕方、試合の仕方、観戦の仕方などを、
段階的に技術を学んでいくなかで、習得すること
*自分たちだけで試合ができるようになること

【テキスト・参考書】

特に指定しない

授 業 計 画

自分たちだけで試合ができるように、以下の順で進行する。

1. ミニゲーム
2. ドリル
3. ダブルスでのゲーム
4. タイブ레이크形式でのゲーム

以下の技術についての基礎練習

1. ボレー
2. ストローク
3. サービス

【評価方法】

・技術、態度、知識（小テスト）を評価する。

【授業科目】 スポーツA (バドミントン)	【担当者】 松岡由紀子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツをすることによって運動不足を解消し、体力の保持増進をはかり、精神的ストレスを解放する。 ・運動技能と知識の習得。 	
【テキスト】	
----- 【参考書】	
授 業 計 画	
<p>技能練習とゲーム</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、グリップとシャトル慣れ 2、ストロークの練習 <ul style="list-style-type: none"> ・フォアハンドストローク ・クリアー (ハイクリアー) ・ドロップ ・ドライブ ・ヘアピン ・プッシュ ・スマッシュ ・バックハンドストローク 3、サービスの練習 <ul style="list-style-type: none"> ・ロングハイサービス ・ショートサービス 4、集団技能の練習 5、ゲームとルール、審判法 	
<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点 (出席重視) ・授業中に採点する。 	

【授業科目名】 スポーツA (バレーボール)	【担当者】 村田 務
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>バレーボールの技能及び体力の向上をめざすとともに、運動継続への意欲を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人的技能及び集団的技能 ・ 技能の程度に応じた練習法 ・ 審判法及び指導法 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書 西川順之助 : バレーボール、成美堂、1995年。 齊藤秀明監修：バレーボールルールブック、有紀書房、1995年。</p>	
授 業 計 画	
<p>科学技術の進歩や経済の成長、社会構造の変化に伴い、運動の不足や食行動の偏り、精神的ストレスの増加など、健康に悪影響を及ぼす様々な問題が生じている。このような状況の中で、注目されているのが生涯体育（運動及びスポーツ）である。適切な身体活動は、疾病の予防や健康増進に寄与するだけでなく、生き甲斐や自己の確立など質的な生活の向上を可能にする。バレーボールは、場所や設備、体力的側面からみて、比較的容易に継続して活動することが可能なスポーツである。</p> <p>授業では、これらの観点から、将来にわたってバレーボール運動が継続できるように、「楽しい授業」、「技術の向上がわかる授業」、「自ら創りだす授業」をめざす。</p> <p><u>学習内容</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 個人的技能 <ul style="list-style-type: none"> ・ パスとトス ・ サーブとレシーブ ・ スパイクとブロッキング ② 集団的技能 <ul style="list-style-type: none"> ・ 攻めと守りのフォーメーション ・ トスゲーム、3段攻撃ゲーム、ルールづくり ③ 指導技術 <ul style="list-style-type: none"> ・ 技術指導法 ・ 体力トレーニング法 ・ 審判法 <p><u>授業の流れ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 全体活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通課題の解決 ② グループ活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 班別課題の練習と解決 ・ 指導法、練習法の習得 ③ ゲーム <ul style="list-style-type: none"> ・ 練習成果の確認 ・ 新しい課題の発見 ・ 審判法の習得 	
<p>【評価方法】</p> <p>平常試験（平常点、実技等）</p>	

【授業科目名】 スポーツA (バレーボール)	【担当者】 村田 務
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>バレーボールの技能及び体力の向上をめざすとともに、運動継続への意欲を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人的技能及び集团的技能 ・ 技能の程度に応じた練習法 ・ 審判法及び指導法 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書 西川順之助 : バレーボール、成美堂、1995年。 斉藤秀明監修：バレーボールルールブック、有紀書房、1995年。</p>	
授 業 計 画	
<p>科学技術の進歩や経済の成長、社会構造の変化に伴い、運動の不足や食行動の偏り、精神的ストレスの増加など、健康に悪影響を及ぼす様々な問題が生じている。このような状況の中で、注目されているのが生涯体育（運動及びスポーツ）である。適切な身体活動は、疾病の予防や健康増進に寄与するだけでなく、生き甲斐や自己の確立など質的な生活の向上を可能にする。バレーボールは、場所や設備、体力的側面からみて、比較的容易に継続して活動することが可能なスポーツである。</p> <p>授業では、これらの観点から、将来にわたってバレーボール運動が継続できるように、「楽しい授業」、「技術の向上がわかる授業」、「自ら創りだす授業」をめざす。</p> <p><u>学習内容</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 個人的技能 <ul style="list-style-type: none"> ・ パスとトス ・ サーブとレシーブ ・ スパイクとブロッキング ② 集团的技能 <ul style="list-style-type: none"> ・ 攻めと守りのフォーメーション ・ トスゲーム、3段攻撃ゲーム、ルールづくり ③ 指導技術 <ul style="list-style-type: none"> ・ 技術指導法 ・ 体力トレーニング法 ・ 審判法 <p><u>授業の流れ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 全体活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通課題の解決 ② グループ活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 班別課題の練習と解決 ・ 指導法、練習法の習得 ③ ゲーム <ul style="list-style-type: none"> ・ 練習成果の確認 ・ 新しい課題の発見 ・ 審判法の習得 	
<p>【評価方法】</p> <p>平常試験（平常点、実技等）</p>	

【授業科目】 スポーツA (ダンス)	【担当者】 松村 朋子
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>・ストレッチやエアロビクスによって、運動不足の解消、運動機能の向上をはかるとともに、ダンスに親しむ。そして、用具を使わず、自分のからだだけで運動でき、さらに、芸術的センスを磨くことのできるダンスを通じて、楽しみながら運動することを体験してほしい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>使用しない。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>使用しない。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1、ストレッチ からだ全体を使って、自由に運動できるように柔軟性を高める。 普段あまり使わない筋肉を意識的に動かす。</p> <p>2、基本コンビネーション 歩く、走るを基本とするエアロビクスの中に、スキップ、サイドステップ、ジャンプなどを取り入れた短いコンビネーションを習得する。</p> <p>3、ダンスプログラムの習得 コンビネーションを組み合わせて構成されたプログラムの振付を覚える。</p> <p>4、グループでのダンス構成と実演 習得したコンビネーションをグループで隊形変化をつけたり、一部振付を行い、ダンスプログラムをつくり発表する。ビデオ撮影を行い、クラスで鑑賞する。</p> <p>*運動可能な服装・シューズで授業に出席すること。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席と授業態度を特に重視する。作品発表を実技テストとする。</p>	

【授業科目】 スポーツA (トランポリン)	【担当者】 松岡由紀子
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツをすることによって運動不足を解消し、体力の保持増進をはかり、精神的ストレスを解放する。 ・運動技能と知識の習得。 	
【テキスト】	
----- 【参考書】	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1、トランポリンを行なう前のルール説明 2、トランポリンの移動方法 3、トランポリンの準備と片付け方（組み立てとたたみ方） 4、トランポリンへの上り方、降り方 5、トランポリンに慣れるための練習 6、垂直跳びとジャンプの止め方（チェックバウンス） 7、技能練習 <ul style="list-style-type: none"> ・かかえ跳び ・開脚跳び ・閉脚跳び ・腰落ち（シートドロップ） ・ひざ落ち（ニーズドロップ） ・手つきひざ落ち（ハンズ アンド ニーズドロップ） ・腹落ち（フロントドロップ） ・腰落ち—$\frac{1}{2}$捻り—腰落ち（スイブルヒップス） ・開脚跳び—腰落ち ・前方宙返り—腰落ち 8、連続技の練習 	
<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点（出席と危険もともなうので授業態度重視） ・授業中に実技テストを実施する。 	

【授業科目】 健康科学	【担当者】 池森隆虎
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>現代社会における健康問題について幅広い知識を身につけ、氾濫する健康情報、流行に対して真偽を的確に判断する能力、それを活かすことのできる応用力を備えられるようにする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>青年期の健康科学、鈴木 明、共栄出版株式会社</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>参考図書、文献等は講義のなかで紹介していく。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. あなたの両親は大丈夫？（そういうあなたにも…） <ul style="list-style-type: none"> －生活習慣病の予防と対策－ 2. 薬をじょうずに使いましょう。 <ul style="list-style-type: none"> －薬の有効な利用法、問題点－ 3. スマートな健康美人になろう！ <ul style="list-style-type: none"> －ダイエットの方法、問題点－ 4. 楽しい海外旅行をするために（「何とかなるさ」じゃ…）。 <ul style="list-style-type: none"> －海外での健康問題、安全対策－ 5. 他人事？エイズや性病について考えよう。 <ul style="list-style-type: none"> －性感染症の現状と予防－ 6. 人が苦しんでいます…。その時、あなたは何ができますか？ <ul style="list-style-type: none"> －応急処置法、ケガへの対応－ 7. 運動は健康にいいの？ <ul style="list-style-type: none"> －運動の問題点、障害、活用法－ 8. 世の中が変われば病気も変わります。 <ul style="list-style-type: none"> －現代病、新しい健康問題－ <p style="text-align: right;">（順不同）</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>小レポート（不定期）と試験</p>	

【授業科目名】 スポーツ科学	【担当者】 岡田光弘
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツを見て楽しめるようになること、 　　スポーツをしてみたいくなること ・ スポーツを社会現象として、批判的に見る眼を養うこと 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>AERA MOOK「スポーツ学のみかた」朝日新聞社</p> <p>日本プロテニス協会編「テニス教本」スキージャーナル 1994</p>	
授 業 計 画	
<p>以下のようなトピックを扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツと科学：スポーツ科学の全体像 2. ジャンプ競技と揚抗比 3. ポブスレーとクロストレーニング 4. スポーツの技術・道具の変化と科学 5. 滑降競技と乳酸 6. 滑降競技と環境問題 7. ドーピング問題と日常生活 8. スポーツとアイデンティティ：ラクロス、カーリング 9. スポーツとルール 10. スポーツと遊び 11. スポーツ解説と分析 	
<p>【評価方法】</p> <p>各時間ごとの提出物と期末のレポートで評価する。</p>	

專門教育科目（1年）

【授業科目名】	社会福祉概論	【担当者】	佐野 英司
【開講期】	1年 前期		
<p>【授業目標】</p> <p>社会福祉とは何か、社会福祉の対象は誰か、社会福祉とはどうあったらよいかをこどもたちや、障害者、高齢者をはじめとした住民の生活実態との関係で学びます。とりわけ、こどもたちや親、障害児・者の真の願いに心を寄せ、保育者に求められる援助とはどうあったらよいか考える力を養います。</p> <p>保育を学ぶものにとって必要な基本的なものの見方・考え方の基礎を学び、後期の児童福祉論、2年次の社会福祉方法論へと結びつけることを目標にします。</p>			
<p>【参考図書】</p> <p>「職安通りの夜間保育園」 (ひとなる書房・・・丹羽洋子著)</p> <p>「現代の社会福祉入門」 (保育出版社・・・浅井・佐野編)</p> <p>「心病める人たち」 (岩波新書・・・石川信義著)</p> <p>「社会福祉小六法」 (ミネルヴァ書房)</p> <p>その他、授業の中で適宜紹介します。また、参考にする論文のコピーを授業で配布します。</p>			
<p>【授業の進め方】</p> <p>上記授業目標にそって、講義録をつくり、それに基づいて授業を進めていきます。授業のはじめと終わりにミニレポートを書いてもらい、自らその日に学んだ事柄の確認ができるよう努めます。(7月中旬にまとめて返却します)</p> <p>授業は、定時に始めます。講義は75分程度でおさめる努力をします。最初の5分間で、その日の授業について考えることをミニレポートで書き、それで出席確認をします。授業の合間になるべくビデオや小グループによるディスカッションを取り入れ、最後の10分間で自分自身の授業のまとめレポートを書きます。またアンケートにより受講学生の声を授業に反映させていきたいと考えています。クラスによっては1限目ですが、遅刻しないよう頑張っていたいただきたいと思います。</p> <p>75分授業を進めるためには、事前自己学習も必要ですし、補講も含めた授業回数の確保は必要となります。学生のみなさんと共に力を合わせ、迫力ある、心に残る授業をつくっていききたいと願っています。</p>			
<p>【評価方法】</p> <p>毎授業の度に提出するミニレポートと出席状況(平常点)30パーセント、定期試験(レポートです)70パーセントの総合点で評価します。</p> <p>したがって、出席、遅刻は非常に重視します。</p>			

【授業科目名】 児童福祉	【担当者】 中山正雄
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>①児童福祉問題に関する現状を知り、その背景を学ぶ</p> <p>②児童福祉施策の現状と法・制度のしくみについて学ぶ</p> <p>③児童福祉政策の動向と展望を学ぶ</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：竹中哲夫他編『子どもの世界と福祉』ミネルプア書房</p> <p>参考書：浅井春夫『子ども虐待と性教育』大修館書店</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の子どもの現状 子どもの権利条約の視点から子どもの現状を概説する 2. 養護・保育問題と国民生活の変容 養護・保育問題が生まれる社会的背景について説明する 3. 施設入所児童の現状と援助のあり方 児童養護施設の入所児童を中心に問題を抱えた児童の現状と援助のあり方について説明する 4. 障害問題とノーマライゼーションの課題 障害のとらえ方とノーマライゼーションの考え方及びその現状と課題について説明する 5. 児童問題をめぐる家族と地域社会 家族の現状をその機能の変化を時代と生活実態、地域社会の変容から捉え、地域社会のあり方を説明する 6. 児童福祉の歴史（戦後史を中心に） 社会福祉法人の設立と役割を、法・制度を中心に概説し、措置制度の意義を説明する 7. 児童福祉の法体系 児童福祉法の理念、法体系を説明すると同時に課題について説明する 8. 児童福祉の機関と施設 児童相談所と児童福祉施設の基本機能と、機関・施設の利用について説明する 9. 児童福祉の仕事とは・・・社会福祉労働論の現代的課題 児童福祉を支える各職種の内容と役割、従事者の資質について説明する 10. 児童福祉の課題と展望 児童福祉改革を概説し今後の課題と展望を考える 	
<p>【評価方法】</p> <p>簡単な中間レポートと定期試験</p>	

【授業科目】 保育原理Ⅰ	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 1年 前期	
【授業目標】 (1) 保育の大切さを知ること。 (2) 保育者の役割の重要性を知ること。 (3) 子どもについて知ること。 (4) 幼稚園と保育所の基本的な内容について知ること。	
【テキスト・参考書】 『新保育原理』萌文書林 岡本富郎他著 『教育・保育・福祉ハンドブック』（北大路書房・編集委員会編）	
授 業 計 画	
1. 子どもはどうゆう存在か。(子どもの生活の現状、子どもという語について。子ども観について。子どもの存在の尊厳性) 2. 保育とは何か。(保育・教育の語源、保育の意義) 3. 幼稚園とは何か。(「幼稚園教育要領」等、法規の解説) 4. 保育所とは何か。(保育ニーズ、「保育所保育指針」等、法規の解説) 5. 幼稚園、保育所の歴史(外国・日本)(フレーベル、オーエン等) 6. 保育者とはどうゆう存在か。 ◇ 上記のことを具体例を紹介しながら記す。 ◇ ビデオも上映し、解説する。	
【評価方法】 テスト	

【授業科目】 保育原理 I	【担当者】 師 岡 章
【開講期】 1 年 後 期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育の基本及び原理のうち、保育の内容や方法に関わる問題を、保育現場の実際を踏まえて理解する。</p>	
【テキスト】	
<p>-----</p> <p>【参考書】 授業時に適宜、紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>前期の授業を踏まえて、より実践的な問題を取り上げる。同時に、専門科目の「内容・方法理解」に位置づく授業への導入となるよう心がけたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会と子どもの姿 I ～家庭の変容と子どもの育ち 2. 現代社会と子どもの姿 II ～変貌する社会と子どもの姿 3. 保育界の現状と課題 ～集団保育施設の現状とその問題点 4. 保育の目的 ～保育所保育指針と幼稚園教育要領 5. 保育の内容 I ～子どもの生活の構造と保育内容 6. 保育の内容 II ～遊び理解と幼小関連 7. 保育の方法 I ～発達に即した援助・指導の理解 8. 保育の方法 II ～保育形態と指導の在り方 9. 保育の計画 ～カリキュラムの意義と指導計画の作成 10. 保育と環境 ～環境構成の基本と実際 11. 保育実践 I ～基本的生活の指導の実際 12. 保育実践 II ～遊び、系統的活動の指導の実際 13. 保育の評価 ～評価の意義と実際 14. 地域・家庭との連携 ～地域子育て支援事業の実際と課題 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況とテスト</p>	

【授業科目】 保育者論	【担当者】 民秋 言・喜多村純子
【開講期】 1 年 前期	
【授業目標】 1、教職についての意義を理解する。 2、保育者の社会的役割を理解し、かつ職務内容を知る。 3、保育者としての必要な資質について理解し、かつ習得する。 4、望ましい保育者像を明らかにする。	
【テキスト】 ハンドブック 教育・保育・福祉 1999年度版 北大路書房刊	
【参考書】 同 上	
授 業 計 画	
1、保育科学生として「保育」を学ぶことの意味を確かめる。 2、保育者を目指す者としての保育科学生の基本的姿勢を卒業生の声として紹介する。 3、保育実践をビデオ等から学ぶ。(Ⅰ) 4、保育実践をビデオ等から学ぶ。(Ⅱ) 5、保育実践をビデオ等から学ぶ。(Ⅲ) 6、保育者の職務内容を理解する。(Ⅰ) 7、保育者の職務内容を理解する。(Ⅱ) 8、保育者の職務内容を理解する。(Ⅲ) 9、保育者の体験論から学ぶ。 10、保育者として問われる力量を学ぶ。 11、保育者に求められる今日的専門性を学ぶ。	
【評価方法】	

【授業科目名】 教 育 原 理	【担当者】 黒 田 瑛
【開講期】 1年前期	
【授業目標】 「教育」の意味についての理解を深め、わが国の教育の歴史と今日の教育の基底にある思想を学ばせることにより、学生が将来の保育者、親、市民としてこれからの教育のあり方について考える力を養うことを目標とする。	
【テキスト・参考書】 テキスト：「教育原理」（北大路書房 秋山和夫他編）	
授 業 計 画	
講義の中心となる主な事項は下記の通り。 <ol style="list-style-type: none"> 1. わが国の教育の現状と問題 2. 人間と教育 3. 教育の意味と目的 4. 教育の場 - 家庭、園、学校、社会 5. わが国の教育の歴史 （主として明治以降） 6. 同 上 7. 第二次世界大戦後の教育の歴史 8. 教育基本法の成立とその思想 9. 学校教育法、同施行規則、学習指導要領 10. 幼稚園教育要領 11. まとめ 	
【評価方法】 学期末に試験を行う	

【授業科目】 教育原理	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 1年 後期	
【授業目標】 ① 保育・教育の思想について知ること。 ② 前期の基本論の上に、保育・教育の方法、形態、について知ること。 ③ 現在の保育・教育の社会的課題、制度的課題について知ること。	
【テキスト】 『新教育原理』 萌文書林 岡本富郎他著	
【参考書】 『教育と学校を考える』 勁草書房 (岡村遼司 他編)	
授 業 計 画	
① 保育・教育の思想について (1) 保育・教育思想とはなにか。主な思想の流れについて。 (2) ルソーの思想について。 (3) ペスタロッチーの思想とその生涯について。 (4) フレーベルの思想について (5) オーエンの思想について。 ② 日本の保育・教育思想 (倉橋惣三、城戸幡太郎について) ③ 保育・教育と発達哲学との関係について (発達と人間) ④ 保育・教育の適時期について ⑤ 保育・教育と発達課題について ⑥ 保育方法について ⑦ 保育形態について ⑧ 保育・教育の社会的課題、制度的課題について	
【評価方法】 テスト	

【授業科目名】 発達心理学 I

【担当者】小松 歩

【開講期】 1年前期

【授業目標】

保育者として子どもと関わる際に必要な「発達」に関する基礎知識を学ぶことをとおして、「発達していく」子どもの姿を、一人ひとりの子どもに即して的確にとらえ、援助のあり方を考えることができる力を養うことを目標とする。

【テキスト・参考書】

参考書：授業のなかで適宜紹介する

授 業 計 画

「子どもが好きだから」という理由だけで保育をすることはできない。

多くの学生が初めて学ぶであろう「発達心理学」は、これから子どもを育て、関わっていく上でもっとも重要な基礎的科目の一つといえる。

人は生まれてから死に至る生活の全過程で、周囲の環境や人との関係を通して、その可能性を実現していく。この過程で生じる変化を発達と呼ぶ。子どもと関わる場合には、全年齢を見通したライフ・サイクルの視点から、その人の現在の姿・行動がどうあるべきかを判断し、適切な援助をすることが求められる。

本講義では、乳児期から児童期までの子どもの発達の基本的特徴（「認知発達」を軸にする）と、それをもたらす要因について概説する。また、各時期の発達を援助する方法を心理学的観点から探る。

プリントやビデオ教材などを活用し、子どもたちの具体的な姿を参考にしながら、ひとりひとりの子どもが発達していく姿を正しく理解できるような講義にしたい。

およそ、以下のような項目にそって進める。

- ①「発達」とは何か、発達心理学を学ぶことの意味、「生涯発達心理学」
- ②発達のメカニズム
- ③乳児期の子ども（0～2歳）の発達の特徴
- ④対人関係の発達（愛着行動を中心に）
- ⑤ことばの発達（ことばを獲得するための基礎）
- ⑥幼児期前期の子ども（3，4歳）の発達の特徴
認知、自己認識、思考の手段としてのことばなどの特徴
- ⑦幼児期後期の子ども（5，6歳）の発達の特徴
認知、行動調整の手段としてのことばなど

【評価方法】

期末試験による

【授業科目名】 発達心理学Ⅱ	【担当者】小松 歩
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>発達心理学Ⅰで学んだ「発達」に関する基礎知識をもとに、乳幼児の発達しつつある姿をより実践的に捉えるとともに、保育の場面において発達を的確に「評価」する力を養う。また児童期、青年期の発達の特徴についても理解することを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書：授業のなかで適宜紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>保育の現場では、さまざまな子どもたちが存在する。</p> <p>本講義では、発達心理学Ⅰで学んだ知識をもとに、具体的な保育の場面において発達しつつある子どもの姿を実践的に捉えること（発達の評価）の意義と、具体的方法について概説する。</p> <p>また、幼児期以降の発達の特徴（児童期、青年期）についても概説し、生涯にわたる人間の発達について考えたい。</p> <p>後期は、およそ、以下のような項目にそって進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①乳幼児期、児童期における「遊び」の発達とその意義 ②児童期の子どもの発達の特徴 <ul style="list-style-type: none"> 認知の特徴、社会性の発達 ③青年期以降の発達の特徴 <ul style="list-style-type: none"> 自己認識、性役割など ④発達と不適応 ⑤発達評価の意義と方法 ⑥まとめ <ul style="list-style-type: none"> 乳児期から児童期までの子どもの姿と発達課題 	
<p>【評価方法】</p> <p>期末試験による</p>	

【授業科目】 教育心理学	【担当者】 堀江まゆみ
【開講期】 1 年 後 期	
【授業目標】 子どもがいかに学び(学習)、いかに人格的発達をするかについて基本的な理解を深め、保育・教育実践の中でよりよい育ちを促すための援助・指導のあり方を学ぶ。	
【テキスト】 授業のなかで、適宜、提示する。 事例で学ぶ教育心理学(杉原他編著)	
【参考書】	
授 業 計 画	
<p>人間は社会的存在であり、環境との相互作用のなかでの学習によってその発達をとげる。教育・保育の実践は、この相互作用がよりよく実践するように行う働きかけ、つまり援助や指導でもある。本講義では、子どものよりよい発達を促すために保育者に求められている援助のあり方を考えていく。</p> <p>具体的には以下の点について、保育実践の例を取り上げながら進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間を育てる－発達と教育 <ul style="list-style-type: none"> ・発達とはなにか ・発達における経験と学習－保育のなかで育まれるもの 2. 学ぶ－学習の基礎 <ul style="list-style-type: none"> ・学びのさまざま－学習の種類 ・学習とはなにか－学習理論 ・じょうずに学ぶ－学習の規定因・動機付け 3. 教える－学習指導法 <ul style="list-style-type: none"> ・教えたかさまざま－教授法の種類と保育実践 ・じょうずに教える－学習モデルと最適化 ・個人差への配慮と保育実践 4. はかる－教育評価 <ul style="list-style-type: none"> ・知的能力をはかる ・人間をはかる 5. 性格を育てる－性格形成と教育 <ul style="list-style-type: none"> ・性格を知る ・性格はつくられる－保育実践から考える 6. 仲間とともに－仲間集団・学習集団 <ul style="list-style-type: none"> ・集団の構造をはかる－ソシオメトリ－他から実践を見る ・仲間関係をつくる－トラブルの「発生」と「解決」から見る子どもの育ち ・仲間関係が育てるもの－社会的コンピテンス ・集団を動かす－自己主張と自己抑制をめぐる子どもの育ち 	
【評価方法】 <ol style="list-style-type: none"> ① 定期試験 ② 授業の中で、小テスト(2回)実施。 ③ 出席点 <p style="text-align: right;">から総合評価する。</p>	

【授業科目】 小児保健 I	【担当者】 谷 俊治
【開講期】 1年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>この授業では、小児の心身の健康のために、保育者として知っておくべき知識や考え方について解説するつもりです。特に小児では、心身両面からの健康が重要であることを学んでいただきます。</p>	
<p>【テキスト】 今村栄一・巷野悟郎 編著「新・小児保健」 診断と治療社</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】 馬場一雄 「子育ての医学」 東京医学社</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>人間は、生物的存在から出発して、生物的存在→心理的存在→生物的存在→生物的存在→心理的存在→社会的存在→生物的存在→心理的存在→社会的存在→人格的存在(精神的)存在へと成長・発達してゆきます。そのプロセスを理解しながら、成長・発達のいろいろな側面を学んでいただき、その途上で起こるさまざまな問題について解説する予定です。身体発育や運動の発達のような目に見えるものを知るだけでは片手落ちです。目に見えない心の発達やその歪みを読み取ることも、保育者にとって大切なことです。心の悩みは、乳幼児では身体の病気や行動の異常として現れてきます。また、乳幼児は体の機能や抵抗力が未熟ですので、いろいろに病気にかかりやすいのです。</p> <p>VTR、OHP、テープレコーダーなどの視聴覚機器をできるだけ活用するつもりですし、いくつかの作業を実際にやっていただきます。質問は大歓迎ですが、時間内には全員の質問には答えられませんので、毎回用紙を配って質問や意見などを書いていただきます。(これが毎回のレポートとなります) 次の時間はねその質問の答えから始めることにします。一方交通の授業にならないよう皆様のご協力を期待しています。</p>	
<p>【評価方法】 レポート(毎回のレポートと期末の課題レポート)で評価します。</p>	

【授業科目】 小児栄養	【担当者】 酒井治子
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>乳幼児期において、栄養は身体発育の材料であり、精神・心理発達を援助していく。月齢が小さければ小さい程、保育者がどのように食事に関わろうとするかが重要となってくる。</p> <p>この授業では、乳幼児の食べる行動の発達過程を理解し、それに即した栄養必要量・献立及び調理形態を学ぶ。と同時に、食品の栄養素が生体の中でどのように代謝し、どのような機能を果たしているか、乳幼児の栄養生理の特殊性を理解する。また、障害児における食行動の障害と、リハビリテーションのための援助について理解することを目指す。さらに、社会的なニーズの高い子育て支援や食育において保育士がどのように関わっていけるのか、具体的な例を示しながら進めていく予定である。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>山口規容子・水野清子著『育児にかかわる人のための小児栄養学』 診断と治療社 2,000円 足立己幸監修 『主食・主菜・副菜料理成分表』 群羊社 1,300円</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の身体発育と栄養状態の評価 2. 発達栄養生理と、食行動の発達過程 3. 障害児の食行動の障害とその援助 4. 小児の栄養代謝・食行動の発達に即した食事展開 5. 家族・地域に向けての子育て支援と食育 	<ol style="list-style-type: none"> 1)身体発育 2)栄養状態の評価 1)哺乳・咀嚼行動の発達 2)消化・吸収機能の成熟 3)排泄機能の成熟 4)手指の微細運動の発達と食具を使って食べる行動の発達 1)障害児の食行動の障害 2)援助のための食事形態・食具・食事援助による環境づくり 1)小児の身体発育と栄養所要量の意義 2)生活行動・遊びとエネルギー消費量との関連 3)料理群別主要栄養素の機能 <ol style="list-style-type: none"> ①主食料理と糖質 ②主菜料理と脂質・タンパク質 ③副菜料理とミネラル、ビタミン 4)食事構成の実際—20代の食事、幼児食の食事構成 1)子育て支援における食育の意義 2)養育者への支援—食事相談と食情報の発信— 3)子どもへの食育
<p>【評価方法】</p> <p>①授業への出席及び態度、②筆記試験、③レポートの内容により、総合評価する。</p>	

【授業科目名】 保育内容総論

【担当者】佐々加代子・小松歩・師岡章・喜多村純子

【開講期】 1年前期 ・ 1年後期（9月集中）

【授業目標】

この科目は通年科目であるが、9月に集中演習を行なうので、1年の半期で終える。入学後間もない保育科学生が、いずれ専門的各論を学ぶ前に「子どもおよび保育」を学ぶことに対する関心をより広げ、より深める動機づけとなることを目標に開講している。

【テキスト・参考書】

テキスト：使用しない

参考書 ①高杉自子・森上史朗他著 「保育内容総論」東京書籍
②大場牧夫・民秋言・吉村真理子編著 「保育内容総論」萌文書林

授 業 計 画

この授業は、保育を多角的に理解することをガイドするために、心理学分野・教育学の分野・保育現場から、それぞれ一人ずつ計3名の教員によって進められる。

講義内容はおよそ以下のとおり。

■講義

1. はじめに ——この科目の方針、他の科目とのつながりを知る——
2. 幼稚園・保育所の保育の共通理解について
(参考文献 ② 序章をもとに)
3. 保育の基本と保育内容
4. 子どもを知ろう——幼稚園の現場から——
5. 子どもの生活
- 6.
7. 子どもの行動——行動類型と特徴①——
8. 子どもの行動——行動類型と特性②——
9. 子どもの行動助成——保育援助の内容と方法 総論——
10. 子どもの行動助成——幼稚園保育における援助の内容と方法——
11. 子どもの行動助成——保育所保育における援助の内容と方法——
12. まとめ
集中演習のオリエンテーション

■演習

実際に保育現場で繰り広げられる子どもの活動や保育実践、環境を事例としてグループで推論・観察・考察を行なう。1単位分を集中演習形式で学修する。

- 第1日：学内での講義と演習
- 第2日：幼稚園あるいは保育園を選択して演習
- 第3日：同 上
- 第4日：学内で考察・まとめを行なう。

【評価方法】

- ①平常点
- ②演習レポート

【授業科目名】 保育内容 健康（保健行動）	【担当者】 村田 務
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもの健康を守り育てるために必要な事項について理解させるとともに、それらを保育実践に活用するための諸能力と態度を育てる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの健康と健康保育の役割、保育者の健康管理 2 子どもの保健管理の考え方とその方法 3 子どもへの保健指導の考え方とその方法 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書 内山 源編著：小児ための小児保健ハンドブック、ぎょうせい、1998年。 米谷光弘編著：健康 理論編、保育出版社、1995年。 小林芳文編著：乳幼児健康保育学、福村出版、1993年。</p>	
授 業 計 画	
<p>幼稚園や保育所等で指導展開される「健康」領域のうち保健安全分野を取り扱う。</p> <p>授業では、「どのようにすれば、効果的に子どもの健康を守り育てることができるか」をメインテーマとして、その基礎的な知識と技能について学ぶ。</p> <p>主な学習内容は、①保育健康論（子どもの健康と健康保育の役割）、②保健管理論（主体管理、環境管理、生活行動管理）、③保健指導論（指導内容論、教材論、指導技術論）、④保育者の健康管理、である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、子どもの健康問題 2、保育者の健康問題 3、保育施設における保健活動 4、保健管理の内容と方法 5、保健管理の実習（主として環境管理） 6、保育施設における保健指導 7、保健指導における指導内容、教材及び指導技術 8、保健指導のための教材づくり実習（模擬指導を含む） 	
<p>【評価方法】</p> <p>2回のペーパーテスト、及びレポート（教材づくり）、学習意欲</p>	

【授業科目】 保育内容 言葉Ⅰ（言語行動）	【担当者】 佐々加代子
【開講期】 1 年 後期	
【授業目標】 人間と言語との関係をおさえたとき、保育において「ことば」の領域だけを論じていくと狭い。言語の諸側面について、学生自身の言語能力にも目を向けながら、保育における、保育者と子ども（たち）との間柄の質的転換を考える。思考は行動に現れる、としてとらえていくことにする。子ども、保育者、自分、保育活動、の組み合わせで考える。それぞれの間に、媒介役として機能する、教材についても検討する。	
【テキスト】 佐々加代子、言語習得と人間関係、犀書房 佐々加代子、保育者養成における言語 2000年、私製テキスト 佐々加代子監修、手あそび130、私製資料	
【参考書】 佐々加代子、子どもからの贈りもの、犀書房 佐々加代子、発想・想像・表現、犀書房	
授 業 計 画	
<p>講義を主体としながら、ミニ演習（宿題を含む）、演習（レポート課題3含む）を組み合わせながら構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間と言語：言語の定義、機能 2. ことばとキャッチボール 3. コミュニケーションの基本的過程 4. 日本語の特徴、敬語 5. 言語発達の標準像（0～6歳まで） 6. 文字学習能力の発達 7. 言語発達に関連する人間関係の要因 8. 言語指導の実際：言語の生活化、教材（絵本、紙芝居、ことば遊び、パネルシアター、素話、ペープサート、人形、視聴覚教材、手遊びなど） 9. 障害児の言語指導：発達の遅れ、自閉症、情緒障害、聾・難聴、口蓋裂、脳性マヒ、どもり・吃音、失語症 10. よくひびく、よくとおる、きれいな音の表現法 11. 演習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 乳幼児の行動観察記録（レポート） 2) 日案（レポート） 3) 日案からの主活動の展開；保育者としての保育場面の疑似体験、2回 4) 発達助成論 12. 保育者養成における“言語”教育 13. 研究法 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席点、平常点（ミニ演習）、レポート3、テストによって行う</p>	

【授業科目】 乳児保育Ⅰ	【担当者】 鈴木 佐喜子
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>乳児保育の現状を概観し、乳児保育の基本についての理解を深めることを目標とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>乳児保育研究会編 『資料でわかる乳児の保育新時代』（ひとなる書房）</p> <hr/> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>乳児の保育は、保育の基盤・原点である。乳児期は、人間の一生のスタートであり、発達の重要な時期である。同時に、乳児保育は、親子の保育園生活の始まりでもある。親の労働実態の変化、家庭の変貌の中で様々な問題が乳児保育に集中的に表れることにもなっている。これらの点を、以下の項目にそって検討するなかで、深めていきたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児期の子どもの発達と保育 <ul style="list-style-type: none"> 0歳（前期・後期）の発達の特徴と保育 1歳（前期・後期）の発達の特徴と保育 2歳の発達の特徴と保育 2. 乳児保育の内容と方法 3. 乳児保育をどうとらえるのか <ul style="list-style-type: none"> 乳児保育をめぐる思想・理論的問題 4. 乳児保育の歩みと現状、課題 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席・テスト</p>	

【授業科目名】	音楽Ⅰ（基礎理論）	【担当者】	加宮 葵・平野ミヨ子・村松桂子
【開講期】	1年前期		
【授業目標】	楽典を学ぶ事により、音楽を基礎的に理解し、保育者に要求される音楽的な表現や活動がスムーズにすすめられる様に、という事を目標にしている。		
【テキスト・参考書】	テキスト : 下総皖一「楽典」		
授 業 計 画			
音	音の種類と性質		
譜表Ⅰ（記譜上の約束ごとの理解）	五線・加線・音部記号・音符・付点音符・複付点音符・休符		
音 名	付点休符・縦線		
	拍子の数え方・全休符の使い方・変化記号・速度記号・強弱記号		
	シンコペーション・連符・タイ		
音 程	全音階的音程・半音階的音程・協和音程と不協和音程		
音 階	長音階：調号(♯, ♭) 4個迄		
	短音階：調号(♯, ♭) 4個迄（自然短音階・和声短音階・旋律短音階）		
	音階各音の名称（主音・下屬音・屬音・導音）等		
調	調と調号 調の相互関係		
移 調	学生がよく知っている曲等を実際に移調し、いろいろなパターンをこまかく指導する		
和 音（伴奏づけの基礎としての和音の理解）	三和音・主要三和音・属七の和音		
	主要三和音の転回・属七の和音の転回		
譜表Ⅱ（記譜上の約束ごとの理解）	省略法・反復記号・Da Capo(D.C)・Dal Segno(D.S)・スラー・テヌート		
	スカット・リクナント・フェルマータ・装飾音符と装飾記号・トリル・発想記号 等		
【評価方法】	期末試験の成績		

【授業科目】 音楽Ⅰ（基礎技能）ピアノ		【担当者】秋山治子他18名下記参照	
【開講期】 1年 前期・後期			
(以下は講義生が初級者から丁寧に復習を繰り返しながら学習した場合の例です。参考にしてください)			
授業	大項目	小項目	課外時の課題・提出物等
1回	*ピアノ未経験者のために基礎の説明 1年半の練習方法等を話す	1 授業の目的、心構えについて（全員を対象とする） 2 入学直後に授業全般についてのオリエンテーションが実施されているため、各講師は学生の個別の学習計画をアドバイスする。初めの半年間は表現力より確実な基礎力の習得をめざす。この事は中級者以上も同様。 3 実技に入る	
2回	*左手の3、4、5、6度音程を正確に捕らえる練習を特に行う	1 音価、拍子、テンポ、リズム等の学習	
3回	*音符、休符の正しい音価を弾く *同音の弾き方 *3拍子と4拍子の違い	2 速く弾いてつかえるより、弾き直したり途中で止まらずに演奏することが大切 3 音価を正しく十分に保つ 4 3拍子と4拍子を弾く	
4回	*p15の左手の動きを確実に弾く p16の *p19の弱起奏のマスター	1 左右の手の協応 2 拍子とリズムを正確に弾く	
5回	*タイ、符点音符のマスター	1 主旋律をきわだたせて、しかもレガートに弾く	
6回	*八分音符をレガートで弾きこなす	1 スタッカート奏法とレガート奏法の両手の協応	
7回	*GⅠのテストを受ける人がいる (落ちたら合格まで何回でも受けられる)		
8回	*フレーズ、アーティキュレーションへの心くばり *スタッカート	1 左手のレガート奏と右手のスタッカート奏の協応	
9回	*分割の考え方を理解する	1 2分割と3分割 2 3連音とより精度の高い八分音符の練習	
10回		1 3度音程の2和音のレガート奏法	GⅡ～ⅢまたはⅢを受験する人はスケール・カデンツ、ピアノ曲、幼児曲を練習開始
11回	*十六分音符を滑らかに弾く練習 *指くぐりの奏法	 *黒鍵に馴れる	
12回	*ハ長調音階とカデンツ *ハ長調と同じ指使いのト長調の音階とカデンツ	1 拇指の潜行 2 スケールは音粒をそろえて弾く	
試験 7月	*初心者はGⅠ～GⅡの間で受験したり、GⅡ、GⅡ～Ⅲ、GⅢで受験するなど進度の違いにより様々である	1 感覚的にとらえた曲のイメージを他者にわかるように表現する 2 リズム感をもって弾く 3 自分にとって楽に弾ける手ゆびの間隔を身に付ける	*GⅠ～Ⅱを受験する人の中にはピアノ曲だけでなく、スケール・カデンツを弾く人も出る。 *GⅡ以降はスケールとカデンツ、ピアノ曲の他に幼児曲を弾くことを忘れないように！
13 から 24 回	想記号、速度記号、テンポの指定等いよいよ音楽的な表情を付ける演奏へと入っていく(各種記号の理解) *GⅡのテスト(授業中に受験できる)	1 二長調 2 C のかぞえかた 3 ペダルの奏法 4 アーティキュレーションの解釈の違いによる表現の違い 5 p. 63「ヴァイゲルの主題」の分散和音と持続音夏季休暇.....
2月 分	*初心者はⅡ又はⅡ～Ⅲ、場合によってはⅢ 邦外：鷺見五郎著 ピアノメソッド 共同音楽出版社	*必ずピアノ曲の他にスケールとカデンツと幼児曲も課題であることを忘れないように(Ⅱ～Ⅲを受ける人から)	
【担当者】秋山治子・泉晶子・稲村敬子・大澤美紀・岡益代・掛場久子・佐藤久美子・島田東史子・諏訪鈴子・関根美和子・平さわ・中瀬千央・西澤和枝・西山裕子・野村真理子・福島省吾・藤島恵子・舛本清美・山本由紀子			

【授業科目名】 音楽 I (声楽)	【担当者】 加宮 葵 平野ミヨ子
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>小グループで基礎的なやさしい発声練習を行う事により、学生の均等な声の上達をねらい、ソルフェージュ等、教則本の予習を義務づける事により、読譜力を身につける事を目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト : ソルフェージュ : コンコーネ50番</p>	
授 業 計 画	
<p>① 声の出し方を理解するための、基礎発声の説明と実践</p> <p>② C-dur, F-dur, G-dur, D-dur, a-moll等の練習曲を、スムーズに譜読み出来る様にする。</p> <p>③ 伴奏付練習曲での練習により、メロディーの流れを理解する。</p> <p>④ 無伴奏でも音程を正しく歌える様にする。</p> <p>* 1講時につき ソルフェージュ 15曲 2講時につき コンコーネ50番 1曲 } をマスターする。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点と出席点</p>	

【授業科目名】 図画工作Ⅰ	【担当者】 枝常 弘・八木 紘一郎・花原 幹夫
【開講期】 1年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>◆前期…保育者として必要な造形表現の基礎技能の習得を目標とします。紙や空き箱、絵の具などの身近な素材を使った造形表現の実技演習を行います。(枝常・花原)</p> <p>◆後期…保育の造形と表現について理解します。(八木)</p>	
<p>【テキスト】 特に使用しません</p>	
<p>【参考書】 特に使用しません</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>以下のテーマについて授業を展開していきます。前期と後期、それぞれの第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業のすすめ方などについての説明をします。</p> <p>◆前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者としての造形表現の基礎技能とは何か 2. 基本的な素材とその使い方について 3. 基本的な道具とその使い方について 4. 基本的な材料（描画材など）とその使い方について 5. 平面を描く、つくる基本について 6. 立体を描く、つくる基本について 7. 造形と遊びと科学の関係について <p>◆後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの造形・表現についての理解 乳幼児期のモノを扱った表現の発達と保育 2. 遊びの表現と造形と援助 物語る遊びと機能・科学する遊びを中心に 3. 認識と想像の表現と援助 4. 表現を育む環境と援助 <p>*それぞれのテーマに沿った造形アイデアと技術の演習も行ないます</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業内容すべてを一冊のファイルやノートにまとめたものを評価します</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅠ	【担当者】 保育科専任教員
【開講時期】 1年 後期	
【授業テーマ】 各ゼミ共通テーマ：人間尊重の理解と実践	
<p>【授業目標】</p> <p>今日、地域環境、異文化理解、地域紛争、男女の共同参画といった人類共通の課題や、都市化、少子・高齢化と福祉、心の崩壊、家庭の在り方、自然破壊などの我が国の社会全体に関わる課題が生じている。こうした状況の中で、これから生きる子どもたちにとって、またこの子どもたちに係わる保育者の資質として、「人間尊重」の考え方が重要である。そこで、ゼミナールⅠでは、「人間尊重の理解とその実践」に関する基礎的事項について追究する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 さまざまな観点から、教育・保育・福祉が直面している今日的課題を取り上げて、これらに関連する人間尊重の考え方について理解する。 2 人間尊重に係わる保育内容について理解するとともに、その内容をどのようにして子どもたちに伝えていくかという指導実践に関する基礎的事項について理解する。 	
<p>【授業形態】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 複数のグループに分かれて、担当する教員の専門性を生かしつつ、さまざまな観点から授業テーマに取り組む。 2 授業は、少人数による演習形式でおこなう。 3 文献講読やVTR視聴、実地見学などをもとに、話し合いをおこなう。 	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1 文献講読やVTR視聴等を通して、教育・保育・福祉が直面している今日的課題の概要について理解する。 2 実地見学や観察、調査などの体験学習により理解を深める。 3 教育・保育・福祉が直面する課題が人間尊重の考え方と、どのように関わっているかについて検討する。 4 人間尊重に係わる保育内容について調べる。 5 人間尊重に係わる保育内容の指導法について考える。 	
<p>【評価方法】</p> <p>学習意欲、レポート、小テスト、作品、実技など</p>	

【授業科目名】 幼稚園実習	【担当者】 小松 歩・師岡 章
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】 2年次に実施する「幼稚園実習」とともに、幼稚園教諭二種免許状を取得するための必修科目である。幼稚園実習をとおして、幼稚園教育の実際を学び、保育科学生としての学習の必要性を知る。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 テキスト：「実習ガイドブック」・「幼稚園実習日誌」必携 参考資料として、各実習園の施設要覧・入園のしおり・園だよりなど適宜使用する。</p>	
授 業 計 画	
<p>1年次の実習は、6日間の「見学・観察実習」という段階の実習である。この実習で、幼稚園での教育の実際を学び、保育者になるためには専門の学びが必要であることを知ってほしい。</p> <p>【1年次】 見学・観察実習のテーマ</p> <p style="padding-left: 40px;">幼稚園の「日課について学ぶ」</p> <p>ポイント ① 子どもの活動について学ぶ</p> <p style="padding-left: 40px;">② 保育者の活動について学ぶ</p> <p style="padding-left: 40px;">③ 保育の環境について学ぶ</p> <p>上記のテーマとポイントについては、学内での事前実習オリエンテーションで詳しく説明する。 オリエンテーションは、およそ次のような項目にそって実施する。</p> <p style="padding-left: 40px;">① 幼稚園実習とは（全般的説明）</p> <p style="padding-left: 40px;">② 幼稚園の現場から</p> <p style="padding-left: 40px;">③ 実習日誌の書き方</p> <p style="padding-left: 40px;">④ 実習に行く前に（心構えや諸注意事項）</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>① 学内オリエンテーションへの出席／受講</p> <p>② 実習日誌</p> <p>③ 実習中の出欠席</p> <p>④ 学内反省会</p> <p style="text-align: right;">などを総合して評価する。</p>	

【授業科目】 実習指導（保育所実習Ⅰ）	【担当者】 鈴木佐喜子・近藤正樹ほか
【開講期】 1 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育士資格取得には学内の関連教科のほか、保育所実習および保育所以外の各種児童福祉施設での実習を必修とする。実習に入る前に、保育所の機能と役割、実習の目的、実習のテーマ、実習日誌の書き方などを学ぶ。実習後、実習体験の報告と討論、まとめ、レポート作成などを行い、実習日誌などの評価・指導を受ける。</p>	
<p>【テキスト】 「実習ガイドブック」・「実習日誌」必携</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>今年度の実習指導は以下の予定で実施するが、一部内容が変わる場合もある。</p> <p>《実習前》</p> <ol style="list-style-type: none"> I. 事務手続オリエンテーション（全実習） 実習園の一覧表、実習生名票（履歴書）、身体検査書（健康診断）、細菌検査、実習日誌の提出・返却など実習に関わる一連の事務手続の説明。 II. 実習園の配属 学生が相互に話し合い（教員が割り当てる場合もある）、各自の実習園を決定する。 III. <ol style="list-style-type: none"> 1. 「保育所実習Ⅰ」の意義と目的（講義） 実習の目的、実習の意義、実習のテーマ。「保育所実習Ⅰ」関連教科と授業内容の概説。 2. 実習日誌の書き方 1)日誌を書く理由、2)日誌を書く目的、3)日誌を書く上での諸注意、4)記録のポイントなど。 3. 実習の心構えと具体的注意事項 1)実習への抱負や課題、2)実習に臨む姿勢（服装・健康管理など）。 IV. 保育における子どもの生活と保育の流れ（講義） 保育所の職務内容 保育の日課 1)日課とは、2)日課の意義、3)日課に関わる条件、4)3歳未満児クラスの日課の特徴、5)幼児クラスの日課の特徴。 V. 実習生を受け入れて（講義） 保育所現場から 1)子どものこと、2)保育のこと、3)保育者のこと、4)保育所のこと、5)実習とは、6)実習生に望むこと、7)学んでほしいこと、8)実習での諸注意など。 VI. 実習日誌の提出・点検・指導 <p>実 習 11月15日（月）～11月26日（金） 10日間</p> <p>《実習後》</p> <ol style="list-style-type: none"> VII. 実習を振り返って（反省会） 各自の実習体験の報告と討論・まとめ、レポート作成をオリゼミ単位で実施。 VIII. 実習日誌の提出・点検・指導 個別面接 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">平常点</p>	

【授業科目】 保育所実習Ⅰ	【担当者】 鈴木佐喜子・佐野英司
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>2年次に実施する「保育所実習Ⅱ」とともに、保育士資格取得にあたっての必修科目である。保育体験を通して保育所保育の機能と役割、保育内容と保育の流れを理解し、保育者の仕事内容を知る。同時に、保育所における子どもの生活と活動、年齢ごとの子どもの発達段階を知り、保育計画と指導法に関しても具体的に学ぶ。保育科の学生としての意識の形成、保育のイメージ作り、学習課題の発見などをねらいとする。</p>	
<p>【テキスト】 『実習ガイドブック』・『実習日誌』必携 参考資料として各園から出されている施設概要・園便りなどのパンフレット</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>学内での実習関連教科目および「実習指導」の受講後、今年度の実習は 11月15日（月）から11月26日（金）の10日間行われる。</p> <p>1週間の幼稚園実習の体験後、初めての保育所実習である。上記目標と内容の10日間の実習を行う。実習は主に見学、観察、参加の形で行うが、園によっては見学・観察だけの実習もある。また園ごとに子どもの年齢構成、保育時間が異なるので、実習形態や実習中の配属クラスなどは園の方針、実情などに応じて決められる。</p> <p>なお実習前に園のオリエンテーション、実習後に園の反省会がある。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>学内オリ「実習指導」への出席／受講・実習日誌の記録 実習中の出欠席・学内反省会などを総合して評価</p>	

專門教育科目（2年）

【授業科目】 社会福祉方法論	【担当者】 山口尚子
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会福祉の専門の援助者によって用いられる社会福祉援助技術を体系的、総合的に理解することを授業目標とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業時に指示する。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>授業の中で適宜紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉における援助技術の定義と位置づけ 2. 社会福祉援助技術の専門性 3. 直接援助技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) ケースワーク (意義、定義、原則、手段、過程など) (2) グループワーク (意義、定義、原則、手段、過程など) 4. 間接援助技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) コミュニティワーク (意義、定義、原則、手段、過程など) (2) その他 (ソーシャルリサーチ、ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルプランニング、ソーシャルアクション) 5. 関連援助技術 (ネットワーク、ケアマネジメント、スーパービジョン、カウンセリング) 6. 社会福祉援助技術における具体的手段 <ol style="list-style-type: none"> (1) 面接の構造と技法 (2) 記録の書き方 (3) 事例研究の方法 (4) 社会資源の活用 	
<p>【評価方法】</p> <p>平常授業時のリアクションペーパーと学期末レポートによる。</p>	

【授業科目】 保育原理Ⅱ	【担当者】 米山千恵
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育理念についての理解を深め、保育の実践を考察しながら、各自の児童観・保育観の形成を図ることができる力を養う</p>	
【テキスト】	
<p>-----</p> <p>【参考書】 「保育所保育指針」</p> <p>参考資料、プリントして配布する</p>	
授 業 計 画	
<p>保育原理Ⅰでの授業や保育所実習を通して学んだ知識の上に、保育の基本となる問題を保育実践から取り上げ、資料・スライド・VTRなどを活用しながら考察していく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の理念と保育所保育について ・ 保育計画と指導計画を考える <ul style="list-style-type: none"> — 3歳未満児の指導計画を中心に— ・ 子どもの生活とあそび ・ こどもたちにふさわしい環境を考える <ul style="list-style-type: none"> *人的環境 *物的環境 ・ 保育形態について ・ 子どもへの接し方 —援助と指導の方法— ・ 保育の中の行事について ・ 家庭、地域その他の機関との連携 ・ 保育者の専門性について考える <p>保育形態（たてわり保育の実際とその指導計画）、指導と援助の方法（想像性と創造性を育くむ保育）、家庭・地域に根ざした保育等については保育現場での実践を園長や保育者に報告してもらい学び合う</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>日常のミニレポートと期末のレポートの総合評価</p>	

【授業科目名】養護原理Ⅰ	【担当者】 中山正雄
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>①児童福祉法上の保育所以外の入居施設の基本的な理解 ②児童福祉施設入所児童の社会的家族的背景の理解 ③養護実践の基本原則・・・事例から学ぶ養護原理</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：浅井春夫編『養護原理総論』保育出版社1997年 参考書：養護施設は今編集委員会『いつか愛を知る日のために』ひとなる書房</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 養護原理Ⅰ」で何を学ぶかー子どもの現状、施設論 2. 親制度の現状と課題 諸外国の児童養護の現状とわが国の現状、課題 3. 児童養護の歴史とホスピタリズム論 わが国の児童養護の歴史、児童の変化、養護論の検証とホスピタリズム論の克服について 4. 児童福祉施設各論－A 養護系施設 児童養護施設、乳児院、児童自立支援施設 5. 児童福祉施設各論－B 障害系施設 精神薄弱児、重症心身障害児、肢体不自由児施設 6. 児童福祉施設各論－C 治療系施設 情緒障害児短期治療施設、（虚弱児施設） 7. 児童福祉施設各論－D その他 自立援助ホーム 8. 児童福祉の理念と児童福祉施設の水準 諸外国の児童福祉施設の現状と国際的水準、わが国の位置と役割 9. 施設条件の現状と今後の展望 児童福祉施設最低基準、児童福祉法改正、子どもの権利条約 10. 施設労働の実際と児童への援助関係における関わり方 養護原理の基本に結びつけて 11. 児童養護の原理と課題 養護原理を項目的に整理し、課題を検討する 	
<p>【評価方法】</p> <p>定期試験のみ</p>	

【授業科目名】 養護原理Ⅱ	【担当者】 中山正雄
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>①養護原理Ⅰを踏まえて、具体的な実践内容を学ぶ</p> <p>②施設入所児童をめぐる生活課題と援助内容を深める</p> <p>③施設養護の今日的な課題への理解と施設職員として必要な事項を深める</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：</p> <p>参考書：浅井春夫編『子ども虐待シンドローム』恒友出版、1995年</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの権利条約と養護原理 権利条約の歴史的意義と内容の理解、子どもの権利の現実 2. 児童養護における日常生活の意義 入所前の無権利状況から権利を守る生活への手続きと配慮、基本的生活習慣の習得と大人との関係 3. 高年齢児の養護 思春期の特徴と発達課題、問題行動の捉え方と対応 4. 子ども虐待の現状と発見・援助内容 諸外国とわが国の現状、定義と分類 性的虐待の現実とその社会的背景、虐待を受けた子どもへの対応、援助の基本 5. 性教育の基本的視点と生活の中の性教育 施設における性教育の展開、生活の中で進める視点 6. 子どもの自立の現状と援助内容 自立の時期の高年齢化と自立の内容、幼児期からの自立的養育 施設における自立支援・援助 7. 進路指導とアフターケア 進路指導の現状と課題、リービングケアの課題、アフターケアの現状と課題 8. 施設労働の現実と労働基準法 社会福祉労働の基本的視点、労働基準法問題の検討 9. 21世紀の児童福祉施設像の探究 児童福祉改革の動向と課題、求められる施設職員の専門性 福祉労働者の課題 	
<p>【評価方法】</p> <p>定期試験のみ</p>	

【授業科目】 小児保健Ⅱ	【担当者】 谷 俊治
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>この授業では、心身障害児を理解し、QOLを高めるためのサポートについて解説するつもりです。障害児にとっても心の健康が重要であることを学んでいただきます。</p>	
【テキスト】 森 和夫 編著「小児保健Ⅱ 障害児の理解と療育・保育」 建帛社	
----- 【参考書】	
授 業 計 画	
<p>精神薄弱児（知的発達障害児）、脳性麻痺児、情緒障害児、自閉児、多動児、てんかん児、ダウン症児、視覚障害児、聴覚障害児、言語障害児、重症心身障害児などの理解と保育のために必要な知識について、医学や心理学、保育や福祉の立場から解説します。障害児のQOL(quality of life)を高めるためには、家族のみではなく、いろいろな機関でのいろいろな職種による発達支援のサービスが必要になってくるのです。障害児の様子はVTRで学んでいただきます。</p> <p>毎時間、授業の終わりに用紙を配り、質問や意見を求めます。（これが毎回のレポートです）次の時間は質問に答えることから始め、一方交通の授業にならないように配慮するつもりですので協力して下さい。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート（毎回のレポートと期末の課題レポート）で評価します。</p>	

【授業科目】 小児保健実習	【担当者】 水波 佳津子
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもの健康な発達を保障する保育活動に大切なことは、子どもの発達のみちすじや病気、異常、けがの特徴を知り、ひとりひとりの子どもの日常の状態をしっかりとらえることである。そこで、小児科学や乳児保育で学んだことを基礎に、養護の心得、観察のポイントを具体的に学ぶと共に実技実習を通して実際の扱い方を身につける。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>坂田 堯 (日本赤十字社医療センター附属乳児院編) 『乳幼児保育指針』 日本小児医事出版社</p>	
授 業 計 画	
<p>○講義</p> <p>I オリエンテーション 乳幼児養育の理論と技術(基礎と実際)について 子どもの養護と自立→健康発達への支援</p> <p>II 健康状態の観察 A 一般状態の観察(きげん、顔つき、顔色、動作、食欲、睡眠) B 身体各部の観察</p> <p>III 小児に起こりやすい症状とその対応 ・発熱・嘔吐・腹痛・下痢・けいれん・脱水</p> <p>IV 小児に起こりやすい事故 ・窒息事故・熱傷・誤飲・創傷・頭部外傷 ・腹部損傷・骨折・捻挫・脱臼・打撲 ・異物・咬傷・日射病・熱射病・ガス中毒</p> <p>V より健康な子どもを育てる ・積極育児、赤ちゃん体操、外気浴、日光浴 ・個人、集団の健康管理と記録</p> <p>VI 保育者自身の健康管理</p> <p>○実技・実習</p> <p>I 基礎的養護方法(ミルクの飲ませ方、排気の仕方、衣服の着せ方脱がせ方 おむつのあて方、おんぶ抱っこの仕方)</p> <p>II 身体発達、測定の方法、評価の方法 ・身長、体重、胸囲、頭囲の測定の実習 ・発育指数 a パーセントイル曲線 b カウプ指数 ・乳歯、永久歯との関わりと う歯予防について</p> <p>III 病気や異常の見分け方、病児の世話 ・重症であるかどうか保育者としての見分け方 ・体温、呼吸、脈拍測定の実習 ・薬の飲ませ方 (散薬・水薬の飲ませ方の実習、座薬、塗布法、点眼法、注意事項の説明) ・薬の保管 ・症状処理等の記録</p> <p>IV 感染予防 予防接種 発見と隔離 消毒法(理学的化学的消毒法)</p> <p>V 沐浴実習 実物大(形状・重量)の沐浴人形を用い、全員が実習する。 (実習終了後、意見・考察・感想文提出)</p>	
<p>【評価方法】 ①筆記試験 ②沐浴、身体測定の実習評価 ③授業時の平常点、感想文</p>	

【授業科目】 小児保健実習	【担当者】 伊藤祥子
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>乳幼児を保育する中で安全であることが第一であるが、子供は活発に運動をしたり、遊んだりしているときに、転ぶ・ぶつかる・落ちるなどの事故で怪我をしたりまた急に発熱・ひきつけなどの身体症状を起こすことがある。こうした事故が発生したときに、あわてずに適切な処置ができるように、救急法や看護の知識・技術を学んでもらうことを目標とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>乳幼児保育指針（日本赤十字社医療センター附属乳幼児院編）</p>	
<p>【参考書】</p> <p>赤十字急救法教本 日本赤十字社</p>	
授 業 計 画	
<p>1 乳幼児に起こりやすい事故について学習し、その予防について考えさせる。</p> <p>2 救急法の実際</p> <p>病気や事故が発生したとき、最初に行った処置（F i r s t ・ A i d）が適切であったか否かによって病気・怪我の経過に影響を及ぼし、予後にも関係してくるので重要である。</p> <p>下記5つの項目について、実施方法・一般的な注意・処置の順序などを話し、実習をさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 事故防止と安全教育・<i>救急箱の利用</i> ★ 体位（寝かせ方）<i>異物除去</i> ★ 傷の処置・止血法 ★ 救急蘇生法 （気道内異物除去・気道確保・人工呼吸法・心臓マッサージ） ★ 包帯法 （三角巾・巻軸帯・副子の当て方） <p>実習では、学生が実際に、患者・術者を体験しながら学習をしていく。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>筆記試験 授業時の実習評価</p>	

【授業科目】 小児栄養実習	【担当者】 田原喜久江 酒井治子
---------------	------------------

【開講期】 2年 前期

<p>【授業目標】 哺乳から始まる人間の食生活は生物としてのヒトから人へ、そして文化を持った人間に成長する。小児栄養実習では、乳汁期の栄養から離乳期、幼児期を経て、青年期に達するまでのライフステージごとに、それぞれの栄養的特性や摂食機能を理解し、保育者としてどのような食事展開が必要であるのかを理論と実習を通じて学ぶ。講義で理論を理解した上で、調理実習（演習）により、その理解を深める。</p>

<p>【テキスト】 実習内容については、小児栄養実習担当者が作製したテキストを使用 1年次の小児栄養で使用したテキスト（小児栄養、主食・主菜・副菜成分表）</p>

授 業 計 画

テーマ	講 義 と 実 習
1. オリエンテーション	小児栄養実習の学習内容、調理実習にあたっての基本的心得、衛生的配慮、調理器具の正しい扱い方を学ぶ。
2. 成人女子の栄養と食事	20代成人を基本にして、栄養バランスを配慮した食事展開を行い、自分の食生活のあり方を学ぶ。
3. 妊娠・授乳期の栄養と食事	1)受精による妊娠期・授乳期の母体の変化と栄養の特性を理解し、つわり、貧血、妊娠中毒症等に対応した食品選択、調理方法を学ぶ。 2)20代成人を基本にして、妊娠・授乳時の食事展開を実習する。
4. 乳汁期の栄養と食事	1)生体リズムと生活リズムの関わり、哺乳と授乳による母子相互作用を理解し、それに伴う生活日課の組み方を学習する。 2)母乳栄養の特徴を理解し、授乳法、冷凍乳の扱い方を実習する。 3)人工栄養（育児用ミルク、フォローアップミルク）、また、哺乳行動の発達に応じた哺乳瓶、乳首の選択方法を理解し、調乳法・授乳法を実習する。
5. 離乳期の栄養と食事	1)乳児の摂食機能、感覚機能、運動機能の発達に応じた離乳の意義とその進め方を、離乳の基本を基に理解する。 2)離乳食の進め方を、初期、中期、後期、完了期にわけて実習する。特に、乳汁と離乳食の摂取割合、調理形態、味付けの変化を中心に調理展開する。また、乳児の摂食行動の発達に適した食具と与え方についても実習する。
6. 幼児期の栄養と食事	1)幼児にとって望ましい食習慣の確立するために、幼児期の栄養の特徴や、齲齲、食物アレルギー、肥満、生活習慣病との関連を理解する。 2)幼児の発達年齢別に生理機能、摂食機能、心理面の発達に応じた食事を同一の食材料を用いて実習し、その配慮点を学ぶ。 3)食行動の発達に適した食具と調理方法との関連を学び、与え方を学習する 4)保育所の食事と家庭の連携、食育の意義やその内容を把握する。
7. 学童期・思春期・青年期の栄養と食事	1)学童期・思春期・青年期の生活リズム等のライフスタイルと栄養・食行動、そして健康問題（肥満、やせ願望、不定愁訴など）の関連を理解する。 2)子どもの食生活を自己管理する力を養うために文部省等で推進されている総合学習での「食に関する指導」等も理解する 3)児童福祉施設の中で、養護施設をとり上げ、一日の食事で、子どもが参加できる料理、及びおやつを実習する。

<p>【評価方法】 ①授業への出席及び態度、②筆記試験、③レポートの内容により、総合評価する。</p>

【授業科目】 精神保健	【担当者】 中川和美
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>精神的な健康を保持・増進するためには、どのように考えて何を行えばよいのかについて、自分や身近なひとを対象にして検討する機会をもつ（こころの実習）。授業では、知識を得ることよりも、自分や身近なひとを思い浮かべ授業内容がどのようにあてはまるか、その場で考えることを心がける。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に指定しない。</p>	
<p>【参考書】 精神医学サブノート 武正建一編（南江堂） 精神医学ハンドブック 山下格著（日本評論社）</p>	
授 業 計 画	
<p>* こころの実習なので、ノートを取る必要はないが、授業中配布されるプリントは必ず記入する。</p> <p>* 詳しい知識を得たりまとめたりしたい場合は、参考書を参照する。</p> <p>* 授業内容は精神保健の概論および身近なテーマを取り上げる。以下は前年度の講義内容であるが、要望があればこの他のテーマも取り上げる。</p> <p>（参考）平成11年度後期精神保健講義内容</p> <p>第1回（99/09/30）精神保健概論1 第2回（99/10/07）精神保健概論2 第3回（99/10/28）心身症（心身相関） 第4回（99/11/18）思春期・青年期の精神保健、神経症 第5回（99/11/25）精神分裂病 第6回（99/12/02）躁うつ病 第7回（99/12/09）摂食障害 第8回（99/12/16）自殺 第9回（99/01/13）女性の精神保健 第10回（00/01/20）まとめ、復習1 第11回（00/01/27）まとめ、復習2</p> <p>この他、美術作品にみる精神病性、アロマセラピーが脳機能に及ぼす影響等を取り上げた。</p>	
<p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業中のプリント提出（まとめで返却、復習） 2 学期末筆記試験（授業中のプリント持参） ! コピーの持ち込みは禁止、自筆の写しは許可 	

【授業科目】 教育課程総論	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 2年 前期	
【授業目標】 主に幼児の教育課程のあり方について、基本的な内容と、具体的な事柄について知ること。	
【テキスト・参考書】 『教育・保育・福祉ハンドブック』（北大路書房・編集委員会編）	
授 業 計 画	
<p>(1) 教育課程の基本論 教育課程のあり方を話す。まず、教育課程の語源と意味、必要性について話す。その上で、「要領」と「指針」で、教育課程、保育の計画についてどのように説明しているかを話し、教育課程のあり方について考え、編成するための様々な知識について話す。</p> <p>たとえば、小学校・中学校の学校生活における3領域との比較、生活の概念、保育の構造、倉橋惣三の保育構造論、あそび、行事、仕事（労働）、個と集団との関係などについて話す。</p> <p>(2) 教育課程全体を貫く内容として、「楽しい体験」を揚げ、具体的な事例を基にして説明する。</p>	
【評価方法】 テスト	

【授業科目名】 保育内容 人間関係（社会行動）	【担当者】 民秋 言
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会的存在としての人間は、社会生活を前提とする。社会のなかで、つまりいろいろな人たちとさまざまなかかわり（人間関係）をもち乍ら生活する（すなわち子どもは育つ）ことを学ぶ。同時に子どもが社会的成長を遂げるために、園生活の中で保育者がどのようにはたらきかけていくか（保育の展開）についても学ぶ。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>大場牧夫・大場幸夫・民秋 言著『子どもと人間関係 - 人とのかかわりの育ち』萌文書林 ハンドブック教育・保育・福祉編集委員会編『ハンドブック教育・保育・福祉』北大路書房</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「保育内容・人間関係（社会行動）」という科目が、幼免・保育資格取得課程に設けられている意味を説明する。他の保育内容系科目との関連・共通点と異なる点も併せて説明する。 2. 保育所保育指針と幼稚園教育要領でとり扱われている「保育の内容」「ねらい及び内容」の概略をおさらいする。他科目でもくり返し行われているであろうが重要なところであるから、ていねいに話す。 3. 保育指針、教育要領いずれも保育内容は5領域に分けられ、そのうちの一つが当該科目の「人間関係」にかかわるものであることを話す。併せてとくに保育指針では「養護」と「教育」という側面が在ることも説明する。 4. 人間は社会的存在である。つまり社会の中で人とのかかわりの中で生まれ、育ち、生活する存在である。そのかかわりこそ「人間関係」とよばれるものであり、このかかわりなくしては人間ありえないことを説明する。 5. 社会生活とは共同生活ともいえる。人間が生活することのメカニズムを「人との共同」に焦点を併せるが、その前に生活を行動の連続としておさえ、人間の行動の特徴を何点か明らかにする。 6. 子どものが社会の中で育つことはただ単に肉体的・生理的に成熟を遂げることだけではない。社会的な育ち（社会的成長）を必要とする。その育ちの過程を社会化として捉える。社会的育ちの手がかりを得る。 7. 人間が社会生活＝共同生活をするためには、自分の欲求を充足すると共に他の人の欲求充足をも許さなければならない。そこに一定の生活（行動）のしかたが生ずる。これを文化と呼び、この文化を習得していくことが子どもの社会的成長となる。この過程が社会化である。 8. 子どもにとって文化はさまざまなはたらきをするが、ここでは社会（園生活）規範としての文化に注目する。また、その文化に規程され乍ら展開するいろいろな人間関係の相について説明する。 9. 園生活では「人とのかかわりの育ち」を大切にす。いままで学んだところを礎にして、具体的な子どもの園生活像をえがく。「依存」から「自立・自律」はまずその第一歩である。 10. 園生活における「人とのかかわりの育ち」は集団生活において、もっとも端的にあらわれる。その集団生活を子どものたちにどのように送らせるか、子どもにとっての集団のあり方を考える。 11. 「人とのかかわり」＝人間関係の育ちにかかわる実践的な問題点をいくつかあげることによって本講のまとめとする。保育者が日常の保育の場でしっかりと「人とのかかわり」を育てる力を子どもに習得させ視点を述べる。 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">期末にペーパーテストを実施</p>	

【授業科目】 保育内容 環境 I (自然認識)	【担当者】 近藤正樹・小作明則
【開講期】 2年 前期	
【授業目標】 子どもたちは、自然環境の中で、自然物・自然現象に出合っ、知的体験を拡大し、自然法則を感得していく。この教科では、これらの体験を適度に提供できる保育者を養成するために必要な“基礎知識と体験の先行”と“教育方法”を含み、保育現場で威力を発揮できる保育者に仕立てたいと思っている。講義ばかりではなく、実習体験を組み合わせ、不得意を得意に導きたい。休日のうち1日を野外実習にあて、神奈川県真鶴町の場で体験学習を行う。	
【テキスト】 テキストは使用しない。(プリントを配布する)	
【参考書】 参考書は演習や講義ごとに紹介する。 (基本的なものは大学図書館にある)	
授 業 計 画	
4月 11・12日	幼児のための環境設定 ①栽培 (講義と演習) 畑づくり・土づくり 農具の使い方 施肥と防虫 栽培計画
4月 18・19日	幼児のための環境設定 ② (講義) ムシに強くなるよう 飼育の要点 正解は観察をさせてみる
4月 25・26日	植物にあかるい保育者になるために ①(演習と講義) 身近な雑草の観察 花・茎・葉・根の特徴を知る
5月 9・10日	植物にあかるい保育者になるために ②(講義と演習) 検索のしかた・図鑑の使い方 顕微鏡の使い方 花の構造の観察とスケッチ
6月 6・7日	ムシを知っている保育者になるために ①(演習) 昆虫(アリ)の構造観察とスケッチ
6月 13・14日	ムシを知っている保育者になるために ②(講義) ムシとは何か 昆虫の基本構造 発育と変態 昆虫の生活
6月 20・21日	「これなあに」に強くなるために (講義) 認識と質問の関係 概念形成の質問と対応のしかた
6月 27・28日	「どうして」「なぜ」に強くなるために (講義) 知識の拡大の質問と対応のしかた 「正しい話」と「うそ話」 解答不能の扱い方
7月 4・5日	自然の変化に気づく (講義) 天気と気象 天気図の見方・使い方 生物季節 天体の物理現象
7月 11・12日	「自然」とは何か (講義) 自然・人為・人工 自然物・自然現象・自然法則 「自然度」が意味するもの
7月 18・19日	自然保護と環境教育 (講義) 自然保護の考え方 生命尊重の意味 「かわいい」「かわいそう」の問題 環境教育
【評価方法】 演習の成果・宿題の結果・期末試験の成績を総合して行う	

【授業科目名】 保育内容 表現Ⅰ（文化行動）	【担当者】 八木 紘一郎・花原 幹夫・海老原 京子
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもが、造形的な表現文化行動様式を獲得できるような援助の内容と方法を理解します。そのための具体的な〈教材理解〉〈表現文化行動理解〉〈援助指導方法〉の三つの基本を主に習得することを目標とします。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>『新しい表現遊び ー総合的表現活動の指導法ー』…八木・枝常・花原・海老原（フレーベル館）</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>子どもの表現文化行動は、身体を媒体にする音楽やダンスなどの表現文化行動と、モノを媒介にする<u>造形的な表現文化行動</u>の両方をミックスさせながら総合的に展開されます。このことを視野に入れた上で、授業では後者の<u>造形的な表現文化行動を中心に</u>、その援助指導方法の基本を学びます。</p> <p>以下のテーマについて授業を展開していきます。</p> <p>第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業のすすめ方などについての説明をします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 表現文化行動とは 2. 表現文化行動の基本となる援助指導方法の理解 3. 素材、材料から展開する援助指導方法の理解 4. ひとつの造形活動から発展させる援助指導方法の理解 5. テーマ別の造形活動とその援助指導方法の理解 6. 総合表現の援助指導方法の理解 7. 造形的な表現文化行動の指導計画の立て方とその理解 	
<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常授業での課題を評価します ・授業内容すべてを一冊のファイルにまとめたものを評価します 	

【授業科目名】 保育内容 表現Ⅰ（文化行動）	【担当者】 加宮葵
【開講期】 2年前期	
【授業目標】 幼児の発達をよく理解し、その発達の段階にそった音楽の表現活動を、スムーズに指導する 事のできる保育者を育てる。	
【テキスト・参考書】 【子どもが音楽を好きになるとき】 加宮 葵 著 音楽之友社	
授 業 計 画	
授業のねらい	授 業 内 容
幼児の心と音楽の関係を良く認識する。	1) 教育理論編 ① 幼児教育における音楽について ② 幼児の心の発達と音楽的感覚の開発 について
表現としての音楽の認識 発達に応じた望ましい音楽のあり方を認識する	③ 表現としての音楽 ・うたう事のはじまり・音を出す事のはじまり ・幼児の集団とうた ・幼児の集団と楽器
音楽教育の第一歩は、きくという活動から始まる事を認識する	2) 指導と実践編 ① 幼児の音楽鑑賞 [音楽を聞く能力の発達段階の特徴] ② 幼児のうたの指導 ・年少児・年長児
学生が実際に、いろいろな楽器の特徴や奏法を知る事により、使用する目的・場所等への適応、曲のリズム、メロディー、伴奏等への考慮が出来るようにする	③ 幼児の楽器の指導 ・簡易楽器の特徴と奏法 ・基本リズムパターンの習得 ・年少児・年長児の合奏指導 ④ 幼児の創作指導と実践
指導計画・指導案を知る	⑤ 指導計画・指導案 ・年間指導計画・月間指導計画・日案 週案（具体的なうたや楽器の指導計画） ⑥ 教材曲の実践例等
★全出席を原則とする。	
【評価方法】 期末試験の成績・特に出席点を重視する。	

【授業科目】 保育内容 表現Ⅰ(文化行動)	【担当者】 若松美恵子
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもは見たこと、感じたことを色々な時や場で、言葉や身体で表現しようとする。その自発的な表現を育み、子どもの感受性、表現意欲、創造性を豊かに育てるための指導力を養う。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>石井美晴・菊池秀範編「保育の中の運動あそび」萌文書林</p>	
<p>.....</p> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>(1) 表現Ⅰ(文化行動a)の中の「身体で表現する」の保育内容での位置づけを知る。保育内容「表現」及び「文化行動a」とは</p> <p>(2) 身体で表現することの意味を理解し、子どもの身体表現にはどんな意味があるのか、日常みられる表現の姿から幼児の表現の特性を理解する。</p> <p>①表現の意味とその理解 ②身体表現の意味とその理解 ③子どもの身体表現とその意味の理解</p> <p>(3) 幼児の運動、言語、情緒、社会性の発達と関わらせながら日常的にみられる身体表現の発達を理解する。</p> <p>①運動、言語、情緒、社会性の発達と身体表現 ②0～5歳児の身体表現の発達と特徴</p> <p>(4) 保育の場における身体表現活動から身体表現力の変化とその特徴を理解する。</p> <p>①3歳児の身体表現 ②4歳児の身体表現 ③5歳児の身体表現</p> <p>(5) 子どもの身体表現を豊かにひきだし育むために保育者がどのように援助すべきかを理解する</p> <p>①援助の基本的姿勢 ②表現の題材 ③動機づけ ④豊かにとらえる ⑤豊かに表す ⑥援助と言葉かけ</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">筆記試験</p>	

【授業科目】 保育内容 環境Ⅱ	【担当者】 近藤正樹
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】 環境Ⅰ(自然認識)では教育方法にも触れねばならず、保育者の自然認識体験を拡大する機会是不充分であった。この準備をのりこえる企画として、身近な自然の認識体験の拡張を重点にした演習「武蔵野小動物図鑑」の作成をゴールとした総合活動(グループ作業を中心として)を行う。図鑑の使い方・顕微鏡の扱い方・接写写真の撮り方も含む。</p>	
【テキスト】 テキストは使用しない。(プリントを配布する)	
<p>【参考書】 参考書として、小動物の分類同定に必要な図鑑類を紹介する。 演習用として教室に 貸出用として大学図書館に } 常備してある。</p>	
授 業 計 画	
10月3日	グループ研究のすすめる方 テーマ「武蔵野の小動物図鑑」(講義) 分担研究の選択と企画: 土壌中にすむ動物・草地にすむ動物・光に集まる昆虫の採集法
この間に研究材料(小動物)の採集を教員の指導のもとで行う(演習・グループ活動) 採集場所は雑木林とあき地の草むらとに分けて分担する それぞれの場所で ツルグレン法による土壌動物の採集・視覚法を用いた採集・夜間の灯火採集に分けて分担する	
10月10日	資料(小動物)の種類分け(sorting) (講義とグループ活動)
10月17日	接写写真・顕微鏡写真撮影の技術指導(演習)と同定(identification) (グループ活動)
10月24日	資料(小動物)の撮影と同定の続き (グループ活動)
10月31日	資料(小動物)の撮影と同定の続き (グループ活動)
11月21日	武蔵野の自然 ① 地形・地質・土壌・気象(講義)
11月28日	武蔵野の自然 ② 自然植生と都市化の歴史(講義)
12月5日	武蔵野の自然 ③ 武蔵野の新田開発と自然(現地実習)
12月12日	「武蔵野小動物図鑑」の企画と作成(講義とグループ活動)
12月19日	「武蔵野小動物図鑑」の完成・提出(グループ活動)
1月9日	「武蔵野小動物図鑑の作成経過と内容」の紹介(演習・研究発表会)
1月16日	「武蔵野小動物図鑑の作成経過と内容」の紹介(演習・研究発表会)
1月23日	武蔵野の小動物たち(講義)
1月30日	地域学習と自然体験(講義)
<p>【評価方法】 個人演習として、本学近郊の植生地図塗りと野外実習レポート グループ演習として、「武蔵野小動物図鑑」の作成 それに加え、平常活動の評価 } これらの総合による。</p>	

【授業科目】 保育内容 環境Ⅱ	【担当者】 吉川研二
【開講期】 2年 後期	
【授業目標】 <p>自然教育と環境教育を基本に、幼児教育の場としての自然を考える。私たちにあってなじみ深い人里の自然を総合的にとらえ、子ども達の自然観察の場、屋外活動の場としてどう設計し利用するか。環境保全問題も合わせて考える。</p>	
【テキスト】 <p>『小さな自然観察』思索社</p>	
【参考書】 <p>エコロジカルデザイン・道と小川のビオトープづくり・ふるさとを感じる遊び事典・環境教育のすすめ他</p>	
授 業 計 画	
<p>野外実習</p> <p>I 講義</p> <p>II 講義と演習</p> <p>III 講義と演習</p> <p>IV 演習</p> <p>V 演習</p> <p>VI 講義</p> <p>VII 講義</p> <p>VIII 演習</p> <p>IX 演習</p> <p>X・XI 演習</p>	<p>春（4月）、秋（10月） 里山の自然－景観、地形、動植物の観察（採集と記録）</p> <p>この科目の主目的とねらい 自然教育・環境教育の視点。人里の自然環境と動植物。</p> <p>地図の見方、利用の仕方 各種地図と航空写真。地形を読む。高さ／距離を測る。</p> <p>土地利用と植生図 航空写真と現地での記録などを材料に現地の植生図を作る。</p> <p>動植物の整理（1） 採集してきた動植物の名前を調べリストを作る。生態や習性を知る。</p> <p>動植物の整理（2） 植物図鑑を作る。</p> <p>いきものにやさしい環境利用とは…Ecological Design 生きものと共生する町作りの例示紹介</p> <p>子ども達にとってよい自然とは…Biotope 子ども達の手による、生きもの達と子ども達のための自然を作る。</p> <p>子どもの遊び環境を作る 自然の保全を考え、自然を生かし、生きもの達と共生する子どもの遊び環境を作る。</p> <p>子どもの遊び環境としての動植物 植物を使ってどんな遊びや創作活動ができるか。 採集や飼育対象の動物や危険な動植物など。</p> <p>まとめ</p>
【評価方法】 植物図鑑の作成 野外実習＋演習の総合レポート＋平常点	

【授業科目】 保育内容 言葉Ⅱ	【担当者】 佐々加代子
【開講期】 2 年 後期	
【授業目標】 障害児を含めた乳幼児の言語発達過程において発達助成者として位置づく保育者に、さまざまな物的・人的教材を媒介として育む「方法論」の習得を目指す。個及び集団の発達に見合った教材の選択と技法を学び、さらに評価修正技術の習得に置く。	
【テキスト】 菅井健、話しことばの練習帳、晩成書房 佐々加代子、子どもからの贈りもの、犀書房 佐々加代子、発想・想像・表現、犀書房	
【参考書】 佐々加代子、コミュニケーション能力弱者のQOL援助、犀書房 他、随時提供する。資料としては1999年度までの作品集。	
授 業 計 画	
<p>1) よくひびく、よくとおる声の養成 TRCを用いて反復・修正練習をしながら質を高めます。</p> <p>2) 教材を吟味する確かな目の養成 この場合の教材は絵本、紙芝居、童話、素話、パネルシアター、エプロンシアター、ことばあそび、手あそび、人形 その他の遊具など、素材だけでなく、それを保育場面で用いるときに対象児の年齢や場面、保育集団の中で生きるかどうかの判断をした上での内容教材であるかどうかという目を養うものです。ただ単に、自分が「これが好きだから」というだけではなく、選択する視点を学びます。 発想豊かになったとき、用い方はより広がりをもたせようになります。</p> <p>3) 2) で選んだ内容(教材)の実践編として、上にあげた素材を教材として用いること。 実際場面を模擬的に作って実践してみます。 演習実践を通して自分の育ちをみつめ直したりすることや、未熟で課題としていくことなどを見ながら、技法として選出していくこともします。</p> <p>4) どのような状況や場面でも即応判断能力で実践していける応用力の養成 保育場面をコミュニケーション場面としておさえていきます。保育は子どもたちだけではなく、さまざまな人間関係も含みます。どのような人と出会ってもやっていける能力について「自分自身」をみつめることから始めます。</p> <p>演習形態で以下のことを実践してまとめていく。グループ活動でまとめるものとする。</p> <p>1. 絵本 1人10冊×5人=1グループで50冊 年齢別に区分し「言語」能力別に分類、要約、特徴、使用時の留意事項を記載してまとめる。</p> <p>2. 紙芝居 1人5冊×5人=1グループで25冊 絵本と同様にまとめる。</p> <p>3. 創作話作成 保育で大切にしたいテーマとして創作話作成後パネルシアター、紙芝居、絵本などで表現する。</p> <p>4. 手あそびを1グループ50種選定して覚える。選出したものは小冊子にまとめる。</p> <p>表現作品発表会を最終授業で行う。</p> <p>個人の授業を終えた感想をまとめ、グループでとりまとめて上記の作品を提出すること。</p>	
【評価方法】 ①平常点 ②提出課題の量と質 によって行う	

【授業科目】 保育内容 表現Ⅱ (子どもの音楽)	【担当者】 秋山治子
[開講期] 2年 後期	
<p>[授業目標]</p> <p>乳児期から幼児期へ子ども(人間)は自分の声を発声し→自分の声即ち歌声に気付き→自身の声をコントロールする面白さ(=これが歌う楽しさの基本)を体験して行く。同時に世の中の音を聞分け→色々なものから出る音の存在を認識、識別し→楽器という美しく整備された道具から出る音を知り→その音を出すことの出来る喜びを経験し→仲間と声や音を響き合わせる過程を楽しみ→音楽の形を創りあげた時の満足感、達成感を子どもなりに味わう。これら多くの音楽的体験が子どもの精神的成長発達を助け支えていく。</p> <p>授業では幼児の音楽経験の順序性を重視しながら、子どもに無理のないより良い導き方を実践的に探ってゆきたいと思う。</p> <p>尚、子どもの歌曲は毎回うたう。</p>	
<p>[テキスト・参考書]</p> <p>教科書 1 「おかあさん聞いて!先生歌って!」改訂版 秋山治子著、アイ企画、他1冊 2 「表現」①② 高野雅子著 保育出版社</p>	
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(教科書2冊、ノート持参のこと、授業の進め方、成績評価方法、注意事項)保育者として更に身に付けたい音楽の基礎力を身につける <ol style="list-style-type: none"> 1 幼児曲をうたう 2 美しい合唱曲をうたう 2 各種打楽器に親しみ、音を出してみる、奏法等を知り、基礎練習をする 3 3歳児クラスに於ける楽器あそびを考えよう 4 グループで考えた3歳児クラスの楽器あそびを発表し合う 5 4歳児クラスに於ける楽器あそびを考えよう 6 グループで考えた4歳児クラスの楽器あそびを発表し合う 7 5歳児クラスに於ける楽器あそびを考えよう 8 グループで考えた5歳児クラスの楽器あそびを発表し合う 9 幼児の合奏について考えよう 楽器あそびとクラス全体で行う合奏は何がどう違うのだろうか、どのような捕らえ方をしたらいいのだろうか、又音を探したり、音に気付いたり、音を作るという活動と保育音楽とはどう繋がるのだろうか また私達は正しい合奏譜を書くことのできる専門的知識を持っているだろうか 10 手あそびで歌をうたうということと、幼児曲を歌うということは何がちがうのだろうか わらべ歌を保育に取り入れるということについても考えてみよう 11 日本語の上に成り立っている“日本のわらべ歌”と西洋音階の上に成立している現代の幼児曲の本質的違いは何だろうか 日本音階の基礎を知り、日本の子どもの乳児期とわらべ歌の自然なつながりについて理解を深めたい 12 保育の中で「子どもが音楽をたのしむために」と「子どもの音楽能力を向上させるために」ということの根は同じ?→世界の代表的な音楽教育家の思想とメソッドについても理解を深めてみよう(教科書参照) 	
[評価] 1 出席状況 2 レポート	

【授業科目名】 保育内容 表現Ⅱ (デザイン)	【担当者】 花原 幹夫
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもは、様々な目的をもって「描く」「つくる」という造形表現方法をミックスしながら、「デザイン」をしていきます。その内容を理解し、同時にその援助指導内容の習得を目標に、演習を中心にして、楽しく授業をすすめていきます。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>以下のテーマについて授業を展開していきます。第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業の進め方などについての説明をします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. デザインとは、どういうことなのか <ul style="list-style-type: none"> ・デザインの意味や役割について ・デザインと社会の関係について 2. 「子どものデザイン」(描く・つくるを応用する)の具体的内容について 3. 「子どものデザイン」(描く・つくるを応用する)とその援助方法について <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例をもとに 4. 計画デザインについて <ul style="list-style-type: none"> ・行事を企画することから実現までを通して 5. 保育者自身のデザインについて 	
<p>【評価方法】</p> <p>授業内容すべてを一冊のファイルorノートに工夫してまとめたものを評価します。</p>	

【授業科目】 保育内容 表現Ⅱ (ダンス)	【担当者】 若松美恵子
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>身体で表現する活動を通して表現の喜びを体験し、表現技術を高め、表現力を養う。又その文化的、教育的価値を認識する。さらに幼児の指導法についても理解する。</p>	
【テキスト】	
----- 【参考書】	
授 業 計 画	
<p>(1) 身体で表現することの意味や意義を学ぶ。 聴覚障害児が初めて舞台上でダンスを発表する過程を収録したビデオを鑑賞し、身体で表現する意味や意義について考えを述べ、話し合う。</p> <p>(2) 感じたこと、考えたこと、表したいことなどを身体で自由に表現する方法を学ぶ。 テーマ 動きのデッサン 動きの変化 フレーズの動き モティーフの動き 作品構成 中間発表 修正 踊り込み 作品発表 鑑賞 (ビデオ収録) ビデオ鑑賞及び作品の反省と批評</p> <p>(3) 表現Ⅰ (身体表現) や創作活動で学んだことをふまえ、子どもたちが自由にのびのび表現するように保育者が援助する方法を学ぶ。 ①指導案作成 (3歳児、4歳児、5歳児) ②模擬指導 ③反省と批評</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>舞台における実技発表および平常点</p>	

「授業科目名」 保育計画法	「担当者」 藤野敬子
「開講期」 2年 前期	
「授業目標」 家庭や地域と共に育ち合う保育、子どもと共に生活を作り出していく保育について、具体例を手がかりに学び、自分で計画を作成することにより、計画を立てる難しさ、楽しさ、工夫する面白さが体験できればと願っている。	
「テキスト」 文部省編著「指導計画の作成と保育の展開」フレーベル館 「参考書」 高杉自子・森上史朗監修「演習保育講座4 保育方法論 第5章 保育の計画と実践・評価」光生館 1998年 石亀泰郎「さあ、森もようちえんへ」ぱるす社 1999年 「参考資料」 プリントして配布	
授 業 計 画	
<p>保育計画は、一人ひとりの子どもの「自分探しの旅を扶ける営みとしての教育」にふさわしいものをめざしている。教育全般の見直しの中で計画についても、さまざまな試みがなされている。それらも視野に入れながら、環境や生活様式が一変し、その伴って変化した幼児の実態に即した計画の在り方を学んでいきたい。</p> <p>1、保育の計画とは</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 計画と保育 —— 時代の流れと計画、環境や保育形態の変化と計画など (2) 環境による教育としての保育と計画 —— 保育計画の特色など (3) 保育計画の立て方 —— 幼児の置かれた現状の把握と共に育ち合う計画の立て方 <p>2、計画の作成と評価</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 1日の計画の在り方 (2) 計画の作成 —— 各自で作成した計画の宿題を提出 (3) 作成した計画の検討 (4) 実践の記録と計画の評価 —— 実習の反省も含めてグループ討議など <p>3、これからの保育計画</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) こどもと共に作り出していく保育計画 (2) 障害をもっている子ども、異文化の中で育った子どもと共に育ち合う計画 (3) 家庭や地域の人々と共に育ち合う計画 (4) 今後への展望 —— 学校教育とのつながり、海外の幼児教育の動向など <p>ビデオ、写真、いろいろな園の資料を参照したり、ゲームなどを取り入れながら具体的に体験し、出席票の裏面を利用したミニレポートを提出する。ミニレポートの疑問、要望をいれながら授業を進めていきたい。</p>	
「評価方法」 作成した計画と期末や授業後に提出するレポートを総合して評価	

【授業科目】 保育計画法	【担当者】 師 岡 章
【開講期】 2 年 後 期	
【授業目標】 乳児期から幼児期に亘る保育の見通しを持ち、指導案が作成できるようになる。	
【テキスト】	
【参考書】 授業時に適宜、紹介する。	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育カリキュラムの全体構造 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所保育指針と園の保育計画の関係 ・ 保育計画と指導計画の関係 ・ 指導計画の種類 2. 指導計画の作成過程 <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画－実践－評価－再計画というフィードバックシステムの理解 ・ 指導計画の性格 3. 子どもの実態把握と保育記録 <ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども理解の本質 ・ 保育記録の方法 4. 指導計画の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・ 中、長期指導計画（年間指導計画、期案、月案）の実際 ・ 短期的指導計画（週案、日案）の実際 ・ 年齢別指導計画（0～6歳児）の実際 ・ 活動別指導計画の実際 5. 指導計画の作成、立案 <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導実習案の検討 ・ VTR事例からの立案 ・ 立案例の評価 6. まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・ これからの保育所保育と指導計画の在り方 	
【評価方法】 出席状況、レポート、作成した指導案などをもとに、前期と総合して評価する。	

【授業科目】 幼児教育の方法	【担当者】 師岡章
【開講期】 2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>幼児のより豊かな成長・発達を支えるために必要な保育方法を学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>上野恭裕編『新保育方法論』保育出版社、2000年</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>八木 紘一郎編『ごっこ遊びの探究—生活保育の創造をめざして』新読書社、1992年 無藤 隆監修『知的発達を支える保育』フレーベル館、1999年</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児期の特性 (子どもの育ちをめぐる問題、幼児期の生活の特徴、遊びの理解) 2. 園生活の実際と園の役割 (園生活の内容と構造、子どもの生活の場としての園) 3. 幼児教育の基本 (生活教育の視点、環境を通しての教育、遊びを通して総合的な指導) 4. 園保育の現在 (多様な保育方針と保育方法の実際、保育者のかかわりをめぐる問題) 5. 一斉保育と自由保育 (保育理念と形態論の混乱、一斉指導の功罪、自由と放任) 6. 外国の保育方法の受容 (モンテッソーリ保育、シュタイナー保育、コダーイ・システム) 7. 環境の構成 (間接教育の意義、環境構成のポイント) 8. 遊びの指導 (実態把握の仕方、遊びの予測、遊びへのかかわり方) 9. 総合的な指導 (総合的とは何か、活動の展開のプロセスとその指導) 10. 保育形態と方法 (個人・グループ・集団指導の実際、解体・混合・縦わり保育の実際) 11. 保育者の指導の構造 (指導と援助、共感を軸とした保育者のかかわり) 12. 視聴覚教材の活用 (ビデオソフト・テレビ視聴の功罪、パソコンとのかかわり) 13. まとめ (保育者の役割、保育理念と方法の関連) 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況とテスト</p>	

【授業科目】 乳児保育Ⅱ	【担当者】 鈴木 佐喜子
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>乳児保育Ⅰの基礎の上に、乳児保育をめぐる様々な問題を取り上げる中で、視野を広げ、乳児保育に関する具体的で多様な側面を理解し、より実践的な力量の形成を目指す。</p>	
<p>【テキスト】</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【参考書】 授業時に紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>乳児保育をめぐるさまざまな問題を考えるため、演習形式を交えて、以下のようなことを行う予定である。その中で各自が、乳児保育をとらえる総合的な視点を深め、乳児保育のあり方、内容、方法についての課題意識を育んでいきたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 今日の親の労働実態と乳児保育 2. 子育ての現状と乳児保育 3. 乳児保育実践における子ども理解 食事場面での子どもの好き嫌いやかみつきへの対応などを切り口として 4. 乳児の保育実践の検討① 5. 乳児の保育実践の検討② 6. 乳児保育をめぐる思想的・理論的問題 	
<p>【評価方法】 出席・レポート</p>	

【授業科目名】 養護内容	【担当者】 中山正雄
【開講期】 2年 後期	
【授業目標】 ①養護原理Ⅰ・Ⅱを踏まえて、施設養護の実践内容を学ぶ ②演習形式を通して、実践能力を養成する ③事例の検討を通して、施設児童の理解とケアの方法を学ぶ	
【テキスト・参考書】 テキスト： 参考書：浅井春夫編著『子どもの虐待シンドローム』恒友出版	
授 業 計 画	
<p>現場からの事例をふんだんに使い、具体的なテーマ及び場面に即して検討、ロールプレイを行い、実際に子どもたちとのコミュニケーションのあり方を実習し、子どもと関わることの深さを追求する。 事例についての分析・整理を分担し、共に検討し合う姿勢での出席が求められる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 問題意識の交流、授業計画、方法の確認 2. 事例研究の方法 事例から何を学ぶか 3. 具体的な事例と検討・・以後与えられた事例またはテーマについてグループでレポートし、検討する。 <ol style="list-style-type: none"> ①幼児の状況と事例 ②小学生の状況と事例 ③中学生の状況と事例 ④高校生の状況と事例 ⑤軽い障害を持つ子の事例 ⑥PTSDの事例 ⑦性的虐待を受けた子の事例 ⑧養護施設から変更される子どもの事例 4. 各機関とのネットワークを生かした取組 児童相談所、福祉事務所、保健所、心理学専門員、学校等との連携のあり方 5. 児童養護計画と具体的な内容作り 個別処遇計画、グループワーク、家族支援計画、アフターケアの取り組み 	
【評価方法】 出席状況と討議への積極的姿勢、分担のレポートへの責任	

【授業科目】 保育臨床相談	【担当者】 村田保太郎
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>最近の幼児には健やかな成長・発達に歪みをもたらしている事例が多く、一人ひとりに対応した援助の在り方の理解が必要になってきている。そのため、カウンセリングマインドによる接し方や臨床相談の技法などについて学習する</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>「幼児保育とカウンセリングマインド」氏原 寛他編 ミネルヴァ書房</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1 「保育臨床とは」カウンセリングマインドについて理解を深める 2 「保育の現場で問題になる幼児について」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育場面で見られる幼児の「問題」と共感的理解について ・ 保育の現場でよく出される保護者からの相談内容とその対応 3 「保育者の援助的役割について」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の自己成長力を促す援助の基本についての理解 4 「具体的な相談例について、相談・助言の在り方の学習」 5 「ロールプレイングによる学習」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際場面を想定して臨床相談の在り方を学習する 6 「保育者集団のチームワークと他の専門機関との連携」 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">・ 日常的な小レポート ・ 期末試験</p>	

【授業科目】 障害児保育	【担当者】 堀江まゆみ
【開講期】 2 年 前 期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害児の行動特徴や発達を理解し、保育や援助のあり方を学ぶ。 2. 障害児保育、主に、保育所・幼稚園における統合保育の実践について学ぶ。 3. 障害児が地域で生きるための地域支援と関係機関との連携システムについて考える。 	
<p>【テキスト】 【参考書】</p> <p>授業の中で、適宜、提示する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>授業内容は主に、理念、制度、発達理解、保育実践から主要なテーマを取り上げる。特に、障害児の行動特徴を理解しながら、求められる課題はなにか、保育実践では何を進めるのかについて学ぶ。この時、これまで学習してきた発達心理学の知識を使いながら進めるので、基本を復習しておくこと。</p> <p>授業では実践資料やVTRを使用し、具体性、実践性を伴った学習を行う。およそ、以下の項目にそって進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. なぜ、障害児保育なのか？ <ul style="list-style-type: none"> ・インテグレーションとインクルージョン ・「いっしょの保育」における療育的視点と社会教育的視点から ・障害児地域支援事業の推進から 2. 障害って何？ <ul style="list-style-type: none"> ・「特別な発達ニーズをもつ子どもたち」の理解 ・「発達が気になる子どもたち」の理解について <ul style="list-style-type: none"> ・発達遅滞（知的障害）の発達特徴と保育実践 ・学習障害（特異性発達障害）の発達特徴と保育実践 ・注意欠陥／多動症候群（ADHD）の発達特徴と保育実践 ・運動障害の発達特徴と保育実践 3. 保育現場で何をすべきか <ul style="list-style-type: none"> ・「人」に受け入れられる大切さ (対人関係の援助に着目して) ・「遊びたい」気持ちの大切さ (意欲、自己発揮、自己決定に着目して) ・「手や足」「耳」「視覚」を育てる大切さ (運動・感覚の発達に着目して) ・「仲間」といることの大切さ (仲間関係、他者理解の発達に着目して) 4. 障害児を受け入れる保育環境とは <ul style="list-style-type: none"> ・安心できる保育室の大切さ ・居場所をつくること ・保育者環境の制度、政策から 5. 家族とともに地域で生きることを支援する <ul style="list-style-type: none"> ・家族の障害受容に関する理解とその援助 ・地域生活援助のシステム（学童保育、レスパイトサービス、他） ・専門的機関との連携 	
<p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①授業の中で小テスト（2回）を実施する ②定期試験 ③出席点 <p style="text-align: right;">から、総合的に評価する</p>	

【授業科目】 家庭管理	【担当者】 野城尚代
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもの成長・発達に大きな影響を及ぼす家庭生活の本質と機能を把握する。家庭生活を中心に、さらに社会に視野を広げながら、家庭生活の経営と管理に関する実態や問題点を学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>白井和恵（編著）『生活の経営』（同文書院）</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>宮崎礼子・伊藤セツ編『家庭管理論（新版）』（有斐閣新書）など</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>まず、家庭生活とは何か、家庭生活の経営や管理とは何かについて学ぶ。そして、家庭生活を構成する家族について、世帯構造や意識の側面から家族の変化をとらえる。そのうえで、生活時間、家事労働と職業労働、家計の経済社会における位置と管理、消費生活と消費者問題について理解する。家庭生活と社会とのかわりとして、コミュニティとの関係、少子・高齢社会、環境問題、情報化社会について考える。また、家庭生活を管理していく上で、離婚や病気や死亡などの危機も考えられるので、家庭生活の安定のための保障についても理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭生活の経営や管理 2. 家族の変化（世帯構造の変化、意識の側面など） 3. 生活時間 4. 家事労働と職業労働 5. 家計の位置と管理 6. 消費生活と消費者問題 7. 少子・高齢社会 8. 環境問題 9. 生活情報と家庭の情報化 10. コミュニティとボランティア 11. 家庭生活の危機 12. 家庭生活の安定と保障 	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点と期末試験あるいは期末試験に相当するレポートに基づいて評価する。</p>	

【授業科目】 音楽Ⅰ（基礎技能）ピアノ	【担当者】秋山治子他16名下記参照
【開講期】 2年 前期	
<p>[テキスト] ピアノメソード（鷺見五郎著、共同音楽出版社）</p>	
<p>（以下は鍵盤楽器初心者が丁寧に復習を繰り返しながら 学習した場合の例ですから参考にして下さい）</p>	
<p>大まかな目やす</p>	<p>主な学習内容</p>
<p>4月 そろそろGⅢを終了してGⅣをスタート</p>	<p>1 変ロ長調 2 ト短調 3 変ホ長調 4 半音階 *符点八分音符のスキップリズムと三度の重音の弾き方をマスターする 他</p>
<p>6月 GⅣも半ばまで到達すると、表現力が 必要となる。テンポやリズムを一定に 保ちながら曲を演奏する努力をしよう。</p> <p>初心者でもこの頃になると幼児曲 を弾く力がつくので独習してほしい。</p>	<p>1 黒鍵のタッチ 2 曲中の速いパッセージを弾く 3 音楽語法としての“ひとくぎり” “まとまり”を理解して弾く 他</p>
<p>—中級・上級者のために— <GⅣ、Vで新たに習得する更に 高度な表現のための各種記号の理解 と技法></p>	<p>1 装飾音 2 アルペッジョ 3 バロック様式の曲の奏法と解釈の 4 左右の腕の大きな交差 5 暗譜の練習 他</p>
<p>7月テスト</p>	
<p>課程の最終テストに当たる。各グレードの配点はピアノカードに記されているが GⅢを終了しないと、音楽Ⅰの単位を得られないので注意すること。尚7月のテス トが不合格の人と課程未終了の人は半年後の2月に再試験を受けることができるの で、頑張って独習して再挑戦してほしい。</p>	
<p>[備考] *上記の技法の全てを習得できない場合もあるが（初心者はGⅣの課程を終了すれ ば大体の幼児曲を独習で弾くことができる）</p> <p>*GⅤではメソード以外のクラシックのジャンルから選んだピアノ曲を表情豊かに 確実に演奏することをめざす。</p> <p>【担当者】秋山治子・泉晶子・稲村敬子・岡益代・掛場久子・佐藤久美子・島田東史子・諏訪羚子・ 関根美和子・平さわ・藤間洋子・西澤和枝・西山裕子・野村真理子・藤島恵子・舛本清美・山本由紀子</p>	
<p>【評価方法】</p>	
<p>1年次の最初に配布するピアノカードに各グレードに対する配点とテスト曲等が記 されているので省略する。</p>	

【授業科目名】 音楽Ⅰ（声楽）	【担当者】加宮葵・惣田修・豊野雄次郎
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>小グループでの発声練習や練習曲の視唱になれて来た所で一人ずつの視唱にかえてゆき、人の前での(無伴奏・伴奏付)演奏が自由に出来る様になる事を目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト ソルフェージュ 16 コンコーネ50番(中声用)</p>	
授 業 計 画	
<p>①45分の授業の中で、ソルフェージュを隔週に1回くらいソロする事によって人前での演奏(無伴奏)に慣れる。</p> <p>②コンコーネを階名で練習をし、声区の転換と声と息のミックスを感じる為に、各母音でこまかく練習をする。又、学生全員の前に出て演奏する(伴奏付)事により、自発的に進んで歌える様にする。</p> <p>③コンコーネをこまかく練習する事により、曲をきれいに、楽しく歌えるようにする。</p> <p>④複雑な音程やリズムのパターンをファイルする能力を養い、読譜力、音楽表現力(正しいリズムや、音程をもって表現する能力)をも養う。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点、出席点、期末試験の成績</p>	

「音楽Ⅱ（ピアノ）」		2年前・後期	担当者 秋山治子・稲村敬子・諏訪玲子・関根美和子
テキスト 秋山治子著 「おかあさん弾いて！先生うたって！」アイ企画 伴奏法の教科書は授業開始時に指定する			
大きな目標		課題	
4月 ▽ 5月の 実習ま で	*ピアノを中心とする子どもの歌曲 の演奏と指導法に関する実践 *声は小さくてよいがまず歌いな がら弾くことを心がける	1 弾き語り 2 伴奏法 3 初見練習 実習前に幼児曲の演奏を発表しよう	
実習 終了 ▽ 夏休み まで	*幼児曲の弾き語りに馴れる これまでより大きな声で歌う *子どもの顔を見ながら演奏できる *マーチなどを暗譜で弾けるようになる	1 同 2 マーチ・ラン・スキップ・ワルツ・ ギャロップの中から暗譜して演奏する 2 伴奏法	
後期の 始まり ▽ 冬休み まで	*コードネームを理解して伴奏をつけられる ようにする *借用和音の基礎的なものを学ぶ	1 連弾 2 園の行事に適したBGMを練習する	
1月 2月	*総まとめ	1 マーチ 2 連弾	
評価方法		： 数回行う小テストと出席状況	

【授業科目名】 音楽Ⅱ（うた）	【担当者】 加宮葵・平野ミヨ子・村松桂子
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>前期：初見視唱と暗譜を義務づける事により、人の前で歌う事に自信が付き、楽しいと感じられる様にする。</p> <p>後期：暗譜した曲を、自発的にソロする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト : サルバトーレ・マルケージ op. 15</p>	
授 業 計 画	
<ul style="list-style-type: none"> ・自分から希望し選択した科目であるため、一人で歌う事を義務づける。 ・一つの音を、持続しながら cresc. したり dim. したりし、自然なふくらみの美しさを学ぶ。 ・言葉がつく事により、発声がむずかしくなる事を知る。 ・全音階の練習 ・暗譜演奏する事により、声がより前になる事を知る。 ・言葉の意味をよく理解し、自分なりの曲想をつけて演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・後期に入ると、学生が非常に積極的に一人で歌う事を希望する様になるため、自然な形で練習曲・歌曲共にややむずかしい曲へとすすめてゆく。 ・付点のスケール習得 ・短調による音階の習得 ・半音階の音のとり方のむずかしさを知る。 ・前期から練習して来た練習曲・歌曲を、暗譜で時間いっぱい歌えるという事で、大きい満足感を得る事が出来る。 ・緊張の中で歌う事を経験するために、全員が任意の一曲を独唱する。(テスト) <p style="text-align: center;">* 毎時間楽しい歌曲を歌える様に考えている。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点（出席点と実技点）</p>	

【授業科目名】 音楽Ⅱ（ギター）	【担当者】 小山 勝
【開講期】 2年前期・2年後期	
【授業目標】 <p>独奏や合奏、あるいは歌の伴奏に、広く親しまれているギターの演奏の実際を理解し、基本的な演奏を身につけるまでの知識とテクニックを学ぶ。</p>	
【テキスト・参考書】 <p>「新ギター教本」 小原安正・著（ギタラ社刊）</p>	
授 業 計 画	
<ul style="list-style-type: none"> ● 基本事項 ギターの基礎知識（歴史、奏法、楽器のタイプ、等） 楽器の保持の方法、楽譜上の記号の理解。 ● 調弦の実際 基本的な調弦方法の理解と訓練。 ● 発音の基礎 右手のタッチ（アル・アイレとアポヤンド）の理解。 左手の構え方と指使いの理解。体、腕、指のコントロールの会得。 ● 音階練習 第1ポジションでの全音階（ハ長調、イ短調）および半音階の練習。 ● 和音とアルペジオ 三～四声の和音パターン（4拍・8小節）とその分散型（アルペジオ）の練習。 ● ソロ演奏の実習 古典派のギター曲の中から、ローポジションによる小品（2～3曲）の演奏実習。 ● コードの理解 簡単なコードの理論。基本的なコード記号の理解とコードネームからの演奏実習。スリー・コードによる簡単な歌の伴奏。 	
【評価方法】 <p>実技の習得状態と平常点を併せて評価する。</p>	

【授業科目名】 図画工作Ⅱ（版・木工）	【担当者】 花原 幹夫・飛山 裕幸
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>図画工作Ⅰで学んだ保育者としての造形表現の基礎技能の中から、特に「版・木工」を通して、それぞれの表現の知識と技能の専門性を高め、表現の広がりをめざすことを目標とします。演習を中心に楽しく授業をすすめていきます。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>以下のテーマについて授業を展開していきます。第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと授業の進め方などについての説明をします。</p> <p>◆版</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 版の表現の意味・役割について 2. 版を応用した表現とその種類について 3. 版を応用した表現の実技演習（例：シルクスクリーン印刷を使って） <p>◆木工</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 素材「木」について（素材に親しむことと、遊びについて） 2. 木工の表現の意味・役割・種類について 3. 木工を応用した表現とその種類について 4. 木工を応用した表現の実技演習（例：枯れ枝等を使って） <p>◆作品の展示（プレゼンテーション）について</p> <p>*版と木工を応用して製作した作品を皆で協力して展示します。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>実技演習で製作した作品と、展示（プレゼンテーション）したものを評価します。</p>	

【授業科目】 体育 I	【担当者】 若松美恵子・有川いづみ
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>幼児の運動に関する発達をふまえ、必要な運動の方法とその指導法を学ぶ。また保育者として適切に運動が行えるよう資質の向上および体力の増強をめざす。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>石井美晴・菊池秀範編「保育の中の運動あそび」萌文書林</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>前期は「自ら動ける身体作り」をめざし、将来保育者として創造的、自主的に動けるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 運動の極限までのびのびとリズムカルに身体を動かすことができるようにする ② 自分で多様な動きを豊富にみつけ動けるようにする ③ 動きの連続がなめらか、かつ起伏をもったある感じをとらえた一連の動きを作れるようにする ④ 表現したいものになりきって動き、身体で表現できるようにする <p>内容；オリエンテーション、幼児体育概論 体操 遊戯 基礎的ステップ 動きの開発（身体の部位、運動の種類の側面から）－1人で、2人で、3人で－ある感じをとらえた一連の動き作り</p> <p>後期は幼児の身体的、精神的、社会的発達をふまえながら特に体力、運動能力の発達について理解を深める。この理解の上に子どもの活発な身体運動を促し、援助するという立場から指導法について学ぶ。</p> <p>内容；幼児期の体育の意義と内容 体力の発達 運動能力の発達 体育指導の目的とねらい 運動内容と指導上の留意事項 体育の今日的課題 運動あそびの教材研究と指導法（体操 フォークダンス 鬼ごっこ 模倣遊び ボール マット 跳び箱 鉄棒 平均台 輪 縄 伝承遊び 遊びの創作）</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>前期に実技試験を2回行い、学年末の筆記試験の成績と合わせて評価する。</p>	

【授業科目】 体育Ⅱ	【担当者】 榎本 至
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>この授業では、運動の得意な人も、そうでない人も、「体を動かすことを一緒に楽しむ」ことを第1のテーマとします。この授業を通じて、運動の楽しさや爽快感を、なるべく実感してもらいたいです。皆さんの中には将来教育の現場で働く方が多いことと思われまます。そんなときに、まずは自分が運動を楽しめなければ、子どもに運動を楽しませることは出来ないと思うからです。そして、第2のテーマは「工夫して遊ぶ」ための豊かな発想をさらに磨くことです。「テニスラケットとボールがないと遊べない」とか、「人数が足りないからサッカーが出来ない」ではなくて、身の回りにあるものを使って、その場の人数で、楽しいあそびが出来るようなしなやかで豊かな発想が、指導者には必要です。フープ、ボール、なわ、マット、跳び箱、といった、幼稚園や保育園などによくおいてあるものを使ったり、ときには自分の身体だけを使ったり、いろいろと紹介したいと思います。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に指定しません</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に指定しません</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>種目</p>	<p>内容</p>
<p>ソロ・ペアワーク</p>	<p>遊具を用いない様々な遊びを通じて、基礎体力・調整力・柔軟性などの様々な身体能力を、自分の身体を使って確認する。半期間の授業の導入として実施する。</p>
<p>フープ</p>	<p>フープを用いた様々な運動を、極めて単純かつ簡単なものから複雑で難度の高いものまで、徐々にレベルアップさせながら行う。</p>
<p>フライングディスク</p>	<p>フープ同様、手首を用いたスナップ動作を中核的技術に置くフライングディスクを用いた運動を行う。投技術の発達における手首のスナップ動作の重要性に触れる。</p>
<p>縄跳び</p>	<p>短縄・長縄を用い、様々な跳躍を行う。特に長縄では、縄の数を増やし、配置のバリエーションを徐々に替えながら、目と身体運動の協調能力の重要性に触れる。</p>
<p>マット</p>	<p>マットを用いた様々な運動・遊びを通じ、発達過程において重要な身体の回転感覚、跳躍感覚を養う重要性について触れる。</p>
<p>ボール</p>	<p>様々な運動を通じ、手先だけではなく身体のあらゆる部位を用いてボールをコントロールする感覚を養うとともに、極めてシンプルなルールによる様々なゲームを行い、ボールゲームの導入に必要な要素を考える。</p>
<p>跳び箱</p>	<p>跳び箱を用いた様々な運動・遊びを通じ、発達過程において重要な身体の回転感覚、跳躍感覚を養う重要性について触れる。</p>
<p>ユニホック</p>	<p>ボールゲームの発展型として、自分の身体ではなく用具を介してボールをコントロールするゲームの導入について考える。</p>
<p>講義</p>	<p>資料をもとに講義を行う。</p>
<p>【評価方法】</p> <p>出席を重要視する。何らかの都合により長期間出席／参加できない場合には相談に応ずる。評価は、出席状況とともに、全授業終了時に提出を義務づけるレポートによって行う。</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 保育科専任教員
【開講時期】 2年 前期・後期	
【授業テーマ】 各ゼミ共通テーマ：人間尊重の理解と実践	
<p>【授業目標】</p> <p>今日、地域環境、異文化理解、地域紛争、男女の共同参画といった人類共通の課題や、都市化、少子・高齢化と福祉、心の崩壊、家庭の在り方、自然破壊など我が国社会全体に関わる課題が生じている。こうした状況の中で、これからを生きる子どもたちにとって、またこの子どもたちに係わる保育者の資質として、「人間尊重」の考え方が重要である。</p> <p>① 人間尊重という視点から、教育・保育・福祉が直面している今日的課題について理解を深めるとともに、その解決に必要な能力を身につける。</p> <p>② 教育・保育・福祉の課題に係わる指導内容を適切に指導するために必要な実践的能力を高める。</p>	
<p>【授業形態】</p> <p>① 複数のグループに分かれて、担当する教員の専門性を生かしつつ、さまざまな観点から授業テーマに取り組む。</p> <p>② 授業は、少人数による演習形式でおこなう。</p> <p>③ 文献やVTRソフトの検討、調査、見学、観察、指導案や教材の作成、模擬指導の実施など、具体的な保育実践に即して演習する。</p>	
授 業 計 画	
<p>① ゼミナールⅠの学習成果をもとに、文献やVTRソフトの検討などにより、学習課題を明確にするとともに、教育・保育・福祉が直面している課題について理解を深める。</p> <p>② 教育・保育・福祉の課題に関わる事項について、調査や見学、観察などを実施して具体的に理解する。</p> <p>③ 人間尊重という視点から、教育・保育・福祉の課題について解決策を考える。</p> <p>④ これらの学習成果をもとに、人間尊重に係わる指導内容を適切に指導できるようにするために、指導案や教材の作成、模擬指導などをおこなう。</p> <p>⑤ さまざまな観点から取り組んできた「人間尊重の理解と実践」についての学習成果を各グループごとに発表し、演習の成果を共有する。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>学習意欲、学習態度、レポートなど</p>	

[授業科目名] ゼミナールⅡ

[担当者] 秋山治子

[開講時期] 2年 前期・後期

[授業目標]

- 1 どんな保育場面にも対応できるような音楽表現力と指導力を一人一人が得る
- 2 音楽を知る、わかる、近づく、工夫する、そして楽しむ
- 3 上記1、2で培った力で一人またはグループで小論文を書く

[テキスト・参考書]

ゼミの中で適宜指定・紹介する

[授業計画]

- 1 大学にある色々な幼児向けの打楽器や旋律楽器に親しむ

特にミュージック・ベルを中心にして、打楽器を幼児の年齢発達に合わせて導入する方法についてゼミ生全員で取り組みたい。そして幼児の合奏の中に無理なく楽しく取り入れるにはどうしたらいいかについてを共通研究課題としたい
- 2 1年ゼミで計画した歌をうたい協力しあって完成させる
- 3 どんなことでもいいから（子どもの）音楽についての疑問点や問題意識を出し合い各自が興味あるテーマを立てて徐々に論文作成にとりかかる

[評価]

ゼミ活動への参加状況（出席）とレポート

【授業科目】 ゼミナール II	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 2年 前期・後期	
【授業目標】 ① 日本とアジアとの関係について、特に戦争（15年戦争）との関連で知ること。 ② アジアの国の保育の原状について知ること。 ③ 実際に援助活動に取り組むこと。 《上記のことを通じて、人間としての自分の在り方について考えること》	
【テキスト】	
【参考書】	
授 業 計 画	
① 論文、本を読みアジアについて知る。 ② 15年戦争について知る。 ③ ACEF、ESNAC、C. Y. R、BDD（岡本が関わっている4団体）と昭島幼稚園のバングラディッシュを援助する会を訪問し、話を聞く。 ④ 特にC. Y. R（幼い難民を考える会）、の活動を中心に学び、実際に活動すること。 ⑤ この間に、ゼミの先輩で、ベトナム、カンボジア、等で活動した方々の話を聞いて学ぶ。	
【評価方法】 平常点とレポート	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 加宮葵
【開講期】 2年前期・2年後期	
【授業目標】 コンサートでの演奏、ミュージカルの公演など、自分たちの声を生かした発表の場を一回でも多くもつこと。（実際に人の前で演奏する事により、自分の声の改善されていない部分を再認識し、より良い声へ向けて研究・努力すること）	
【テキスト・参考書】 :加古三枝子 「歌のうたい方」(参考書) : 歌曲・ミュージカル等 テキスト多数 * 研究室にすべて用意してあります。	
授 業 計 画	
<p>ゼミナールⅠで、基本姿勢、基礎発声等を学びやや声が出るようになったゼミナールⅡでは、一人一人の声質にあった歌曲等のやや専門的なレッスンに入ります。それと並行してミュージカルの具体的な練習に入っていきます。専門的なレッスンの成果は、ゼミ員の自主的な催しとして、</p> <p style="padding-left: 40px;">クリスマスコンサートや新春コンサート等 演奏の形で発表します。</p> <p>又 子どものミュージカルやディズニーパラダイスなどを研究し（時間が、ある場合のみ）幼稚園・保育園・児童館等で公演したりする事もあります。</p> <p>こまかい授業のすすめ方や、ミュージカルの選定（ゼミナールⅠで決定されている場合を除き）はゼミのメンバーの顔ぶれによって、話し合いのうえ決定します。</p>	
【評価方法】 平常点	

【授業科目名】 ゼミナール Ⅱ	【担当者】 小松 歩
【開講期】 2年前期 ・ 2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>大きく変化しつつある現代の社会において、子どもが健やかに「育つ」ために必要なことは何かについて、子どもが育つ「場」とそこで子どもが「学ぶ」内容から探る。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>授業のなかで適宜、提示する。</p>	
授 業 計 画	
<p>ゼミナールテーマ</p> <p>今の子どもの「育ち」の内容を探る — 子どもは本当に変わったのか —</p> <p>社会の変化にともなって「子育て」をめぐる環境が変わり「保育ニーズ」が多様化している。このニーズに応えるべく、保育所、幼稚園をはじめとする保育の「場」では、さまざまな工夫がなされている。一方、現代の子どもの「育ち」に関しては、「自己チュー児」についての新聞記事など、気になることも少なくない。したがって、保育者となる私たちには、現状を的確に捉え、何が求められているのかを知り、必要に応じて適切に対応する力が求められる。</p> <p>ゼミナールⅡでは、子どもの発達のなかから、各自が興味をもつ分野についての基本的知識を整理しながら、その分野に関して、今の子どもの「育ち」の実状や、影響する諸問題などを、新聞記事や文献の講読により明らかにする。</p> <p>また、新「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」のねらいは何かを理解しつつ、子どもが「育つ場」である幼稚園、保育所における、具体的な生活やあそびの場の観察を通して、実際の子どもたちの「育ち」について理解を深め、文献などで学んだことと比較しながら考察していく。</p> <p>そのうえで、現代の子どもが、主人公として健やかに「育つ」ために必要なことは何か、私たちにできることは何かなどを考えてみたい。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>ゼミへの参加態度、レポート</p>	

【授業科目】 ゼミナールⅡ		【担当者】 近藤正樹	
【開講期】 2年 前期・後期			
【授業目標】 身近な自然現象について、認識を深めるための体験を大切にしながら、 まだ知らなかったことや、疑問を解くために、個人単位で研究をすすめる。 この学習を通して、研究の企画・実施・論文の書き方・発表（口頭およびポスター） のしかたについて体験することになる。			
【テキスト】 田中未来編著 「保育研究の視点と方法」 川島書店刊 飯田良治・民秋言編 「課題研究・ゼミナールの手引」 萌文書林刊			
【参考書】 随時に紹介する。			
授 業 計 画			
4月11日	研究テーマの検討 (テキスト 参考)	10月3日	論文の書き方 (講義)
4月18日	文献紹介 ① ()・()・() (研究テーマと研究計画書提出)	10月10日	研究のまとめ ①
4月25日	文献紹介 ② ()・()・()	10月17日	研究のまとめ ②
4月29日	自然観察 (高麗・中着田・宮次湖) 鳥・植物・川の虫・昆虫・地形・地質	10月24日	研究論文の提出
5月9日	文献紹介 ③ ()・()・()	10月30日	研究発表と添削指導 ① ()・()・()
6月6日	文献紹介 ④ ()・()・()	11月21日	研究発表と添削指導 ② ()・()・()
6月13日	文献紹介 ⑤ ()・()	11月28日	研究発表と添削指導 ③ ()・()・()
6月20日	研究相談	12月5日	研究発表と添削指導 ④ ()・()・()
6月27日	研究内容の中間発表 ① ()・()・()・()	12月12日	研究発表と添削指導 ⑤ ()・()
7月4日	研究内容の中間発表 ② ()・()・()・()	12月19日	研究要旨の書き方 (研究論文の提出)
7月11日	研究内容の中間発表 ③ ()・()・()・()	1月9日	口頭発表のしかた (研究要旨の提出)
7月18日	研究内容の中間発表 ④ ()・()	1月16日	ゼミ内口頭発表会 ① ()・()・() ()・()・()
月 日 ? 日 日 日	学外研修旅行 (ゼミ旅行)	1月23日	ゼミ内口頭発表会 ② ()・()・() ()・()・()
【評価方法】 学習態度・研究計画と方法・論文・口頭(ポスター)発表などの成果を総合して行う。			

【授業科目】 ゼミナールⅡ	【担当者】 佐々加代子
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>教員と少人数のメンバーとともに、さまざまな活動をとうして、“創造”すること、“表現”することをねらいとする。考えられる人、行動できる人、創造できる人、をめざすことにある。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>佐々加代子、コミュニケーション能力弱者のQOL援助、犀書房</p>	
<p>【参考書】</p> <p>随時提供する</p>	
授 業 計 画	
<p>保育者はさまざまな子どもたちと、さまざまな人たちとさまざまな状況で出会う。そのような状況にあっても、その時、その場で瞬時に判断して対応することが求められる。保育者であろうとすることは、同様に、ひとりの人間としての自分自身をみることになる。どのような人間関係を切り結んでいるのか。その内容は……。さまざまな人間関係の場面を、コミュニケーション場面としておさえ、その時々、発信者としての自分、受信者としての自分の内容を見つめるということをする。また、子どもと親、子どもたち同志、などのさまざまな人間関係のなかでの関係のみかた、その上での関係の展開法・かかわりかたなどについて考えられる人をめざしていく。</p> <p>そのために以下の活動をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児の観察（新生児からを含む） 2. 障害児の観察 3. 幼稚園児の幼稚園における遊びの観察 4. 1～3の場面でのかかわり、ともに活動することをとうして、発達についての目を養成 5. さまざまな場面の設定による、さまざまなかかわりの工夫の検討 6. 教材の活用とその習熟（絵本、紙芝居、素話、パネルシアター、人形など） 7. 発信者としての技量のひとつとしての、音声、朗読などの養成 8. 発信者としての技量のひとつとしての、“想像から創造”の表現法の工夫 <p>いずれも、保育者としての質につながるものとしておさえている。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点で行う</p>	

【授業科目名】 ゼミナール II	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 2年 前期 ・ 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>ゼミテーマ ： 「ノーマライゼーションの追求」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 白梅が存在する小平市周辺地域に焦点を当て、こどもたち、障害児・者、高齢者など、住民の生活実態がどうなっているか、そこから派生する生活・福祉ニーズを学び、生活援助の視点、援助実践の方法を考察します。 2. その際、これまで5期にわたる佐野ゼミ学生の研究到達点、とりわけ昨年度学生が手がけた「子育て調査」を学び、継承します。 3. ノーマライゼーションの理念を学び、その観点から福祉・保育制度を検証します。 4. ゼミ学生ひとり一人が自ら居住している自治体に対し目を向け、同じく検証します。 5. 春、夏のゼミ合宿先の実践から学び、ゼミテーマの追求を図ります。 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>ゼミ開講時およびゼミ開講中に必要に応じて示します。</p>	
<p>【授業計画】</p> <p>このゼミでは、授業目標に沿って、地域で生活する住民（児童、障害者、高齢者をはじめとした地域住民）が、住み慣れた地域社会で、ひととしての暮らしを営むには、どのような援助が必要とされるのかを学んでいきたいと思えます。</p> <p>2000年度は、学生と検討した結果に基づき、前年度に引き続き、「乳幼児の育児実態と育児・子育て上の親の願い」調査を、白梅近接地域（小平市、立川市、国分寺市の一部地域）在住の家庭保育児とこれまで関わりのあった地域の保育園児を対象に展開したいと考えています。</p> <p>コンピューター集計に没頭せざるを得なかった前年度ゼミの反省の上に、今年度は授業目標に掲げた5点をバランスよく追求していきたいと考えています。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>ゼミへの出席状況、研究テーマへの積極度、共同研究、共同行動への関わり度により評価します。</p>	

【授業科目】 ゼミナールⅡ	【担当者】 鈴木 佐喜子
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>より良い乳児保育を求めて ゼミナールⅠの学習を基礎に、さらに乳児保育の内容や乳児保育をめぐる問題を具体的に学習し、乳児保育についての理解や具体的な課題意識を深める。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業時に適宜、紹介する</p> <hr/> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>1. 今日の乳児保育をめぐる現状と保育実践</p> <p>①乳児保育実践の検討</p> <p>②乳児保育をめぐる問題の学習と検討</p> <p>の2つの柱のもとに、乳児保育の内容・方法や乳児保育をめぐる様々な問題を取り上げた文献、論文の学習、検討を行う。</p> <p>2. 各自の研究関心を出し合い、一つのテーマに絞って、主体的に調べたり、学習したことをまとめていく。</p> <p>過去のゼミ・テーマ ・東京の延長保育、・親と保育者の関係、 ・乳児の遊びとおもちゃ、・共働きの子育てと保育所 適時、保育園の見学や保育に関する文献の学習をを行い、乳児保育実践のあり方や乳児保育をめぐる問題についての理解を深める。</p>	
【評価方法】	

【授業科目】 ゼミナールⅡ	【担当者】 民秋 言
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育のなかの年中行事 私たちの生活には、さまざまな年中行事があります。それは、さかんに行うものもありますが、あまりさかんでないものもあります。社会全体からみるとさかんに行われているものもありますが、自分にとってはあまり意味のないものもあります。日本に伝統的なものもありますが、わりに近いときに外国から入ってきたものもあります。いずれにしても、私たちの生活の節目の役割をもっています。</p> <p>こうした年中行事は保育のなかにもみられ、そして保育の節目の役割を果たしています。本ゼミナールでは、この年中行事を4月から順次取りあげ、その意味を考え、保育カリキュラムを組み立てる勉強をします。</p>	
<p>【テキスト】 萌文書林『子どもに伝えたい年中行事・記念日』萌文書林編 萌文書林『幼稚園・保育所での研究の進め方と実例』民秋言編著</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>(1)年中行事は私たちの生活のなかで、どのような位置を占めているかを考える。 1年間12か月あるいは春・夏・秋・冬の四季ごとにさまざまな年中行事がみられる。私たちの生活は、従来は、この年中行事によってリズムが保たれていた。今日の生活では、どのような位置を占め、役割を果たしているのか考える。</p> <p>(2)年中行事にはさまざまなものがあることを理解する。 年中行事に、ともすれば歴史的に古いものと思われがちである。しかし、その内容を検討するとさまざまなものがあることに気付く。宗教に関するもの、ヨーロッパからの伝来のもの、政治的ないみをもつもの、実生活に直ちにつながるものなど、いろいろなポイントから整理する。</p> <p>(3)今日の生活で、直に影響をうけている年中行事をまとめる。 上記(2)のなかで、いまの生活の中で直接影響をうけている年中行事をとりあげ、その意味をしっかりとめてみる。</p> <p>(4)保育の中に導入すべき年中行事のいみを検討する。 いまの保育には多くのそしてさまざまな年中行事が組み込まれている。それぞれにはどのようないみがあるのか、その検討をしっかりとったうえで、保育の中に導入すべきものはどれか、を考えてみる。</p> <p>(5)保育カリキュラムの中に位置づく年中行事のあり方を考える。 保育の中の年中行事は、そのカリキュラムとの関連で、捉えてみる必要がある。カリキュラムの流れの中に無理なく組み込まれていることが大切だからである。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">平常授業の成績による</p>	

【授業科目名】ゼミナールⅡ	【担当者】 中山正雄
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>1年次のゼミナールの成果を踏まえ、個々人のテーマを設定し、課題を研究しまとめる力を養う</p> <p>問題をより深く掘り下げ、原因、背景から課題、展望に至る児童福祉の研究と実践の姿勢を養う</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書：西澤 哲訳『生活の中の治療』中央法規出版</p> <p>その他必要に応じて紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1. 1年間の計画の確認</p> <p>1年次に学んだもの、個々の問題意識について検討する</p> <p>個々人の課題に関連して、グループ化し、研究方法を検討する。</p> <p>2. グループによる検討課題を提起し全体でまとめて調査を実施する。</p> <p>子ども虐待に関連して、保育現場における被虐待児の保育に関する研究を実施する。</p> <p>3. 後期はグループの研究テーマに関連して、調査の集計を行いその結果から課題を検討し導き出す。</p> <p>1年次に児童虐待の理解を深めたことを基礎にして、虐待を受けた子どものケアに重点を置いて、研究していくものとする。</p> <p>虐待を受けた子どもの保育現場での対応</p> <p>視点としては</p> <p>しつけと体罰・虐待を受けた子どもの保育の困難さと対応・虐待を心配する状況にある子ども・保育園での研修のあり方・虐待を生み出す背景などがテーマとなる。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>参加姿勢</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 花原 幹夫
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>大きくは『子どもの造形と遊び』について、協同で学びます。共通の具体的なテーマと目的にそって、各自が主体的に問題意識をもち、協同しながら実践的に学んでいきます。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>◆特に「保育とデザイン」というアプローチで活動をすすめていき、「モノのデザイン」（造形におけるデザイン）と、「コトのデザイン」（計画デザイン）を考え、さらに、「子どものデザイン活動」をどうとらえていくかを、保育現場などで実践的な方法論を用いながらすすめていきます。</p> <p>◆具体的なテーマ・目的・方法などについては、こちらの提案とゼミナールメンバーの話し合いの上、調整して、初期の段階で決定していきます。</p> <p>◆活動の運営については、ゼミナールメンバー各自が主体的に役割を分担し合い、自分たちの立てた計画スケジュールと、こちらのスケジュールとを調整しながら行なっていきます。</p> <p>★<u>ゼミメンバー相互で常に連絡連携をとり合いながら、互いの動きを把握しながら、全体の動きや流れを把握して活動することを特にだいじにしていきます！！</u></p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点（各自が主体的に動いていく活動のプロセスを評価します。）</p>	

【授業科目】ゼミナールⅡ

【担当者】堀江まゆみ

【開講期】2年 前期・後期

【授業目標】

1. 発達に遅れのある子どもたち、障害のある子どもたちの保育・療育(あるいは生活支援)の実践について、関心の強いテーマをもち深めていく。
2. 現在、あるいは今後の障害福祉の動向にかかわる情報について関心を広げ、研究テーマとの関連や今後の課題について、集団学習を通して深める。

【テキスト】【参考書】

- ・ 授業のなかで、適宜、提示する。
- ・ 図書館・研究室にある資料の他に、関係者や関係カ所から情報を入手することになる。
- ・ 毎日の"新聞"も貴重な情報源となるので、目を通しておくこと。
- ・ 実践者等の研究会にも、積極的に参加する。

授 業 計 画

【"今どき"そして"これから"の障害児(者)の保育・療育(生活支援)実践について考える】

ゼミナールⅠで進めた「障害児(者)のライフステージ」の理解と事例検討をふまえて、各自あるいはゼミ員が深めたい研究テーマを取り上げる。

研究テーマとしては、
・ 保育園・幼稚園における障害児保育実践、
・ 療育機関、養護学校における保育・教育・支援
・ 障害児(者)の地域生活支援

あるいは、
・ 不登校(不登園)などの臨床心理的理解も含める
など、ゼミナールⅠで取り上げた事例から広く検討してもよい。

"今どき"の障害児(者)の実践に関する研究が進められるようにしていく。

ゼミナールⅡでは、

まず、①障害児(者)の「その人らしい人生の創出」について、ライフサイクル／ライフステージの視点と事例について語り、自分の関心を探し出す。

さらに②それぞれの研究テーマに関わる"今どきの実践"や研究報告について、障害関係雑誌や文献から入手し、目的、方法、結果等、実践・研究方法について、レポート・ディスカッションを行う。

次に、③これらの"今どき"の障害児(者)研究テーマにそって、各自あるいはゼミの研究の目的や方法について検討していく。

最後に、④各研究の成果を報告し論議しながら、問題を深めていく。

⑤特に、我が国における障害福祉・教育の動向についても触れながら、今後の我々の保育・福祉実践との関わりについても理解を進めたい。

【評価方法】

ゼミでの討議や資料収集などへの積極的な参加姿勢を評価する。
研究テーマへの取り組みや成果も評価対象となる。

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 村田 務
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育活動における健康問題について理解するとともに、それらの健康問題を解決するための効果的な方法について、文献講読や質問紙調査等を通して習得させる。 2 子どもの健康を守り育てるために必要な事柄を学習したり、研究するための方法について身につけさせる。 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書 専門誌「小児保健研究」「学校保健研究」「健康教室」「保健の科学」等 辻 新六、有馬昌宏：アンケート調査の方法、朝倉書店、1987年。</p>	
授 業 計 画	
<p>「今日、子どもや保育者には、どのような健康問題があるのか」、「それらの問題を解決するためには、どうすればよいのか」について、より具体的、実践的に学ぶ。</p> <p>まず、①関心ある健康問題についてレポートしたり意見を出し合いながら、子どもや保育者の健康問題について概括する。次に、②これらの健康問題の原因について明らかにしたり、解決するための方法について研究論文を検討しながら理解する。そして、③文献講読で不明であったことや疑問に思ったことについて、質問紙調査や実験等を実施して体験的に明かにする。</p> <p>最後に、④一連の学習や研究の成果をもとに、テーマとした健康問題の解決策や対処法について考察し考えをまとめる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、今日の健康問題を理解する・・・個人レポートの発表 2、健康学研究の方法を知る・・・研究論文の講読と検討 3、ゼミ研究の共通テーマを決める <ul style="list-style-type: none"> [過去のゼミテーマ] ・乳幼児のアトピー性皮膚炎 ・保育者のエイズへの意識と対応 ・保育者のストレス状態とその背景 ・学生の月経痛の状況とその対処法 ・肥満とダイエット ・ダイオキシンと母乳 ・足の健康問題と健康的な足づくり 4、研究テーマに関する事項について文献講読する 5、文献研究で分からなかった事項について、質問紙調査等を実施する 6、研究の成果を論文にまとめる・・・研究課題の解決 	
<p>【評価方法】</p> <p>個人研究レポート、ゼミ学習に対する意欲と努力</p>	

【授業科目】 ゼミナールⅡ	【担当者】 師岡 章
【開講期】 2 年 前 期・後 期	
【授業目標】 1. 子どもの生きる力を培う保育実践の在り方を考える。 2. 確かな保育実践を展開する上で必要な専門的力量について考察する。 3. 問うこと、調べること、わかること、の楽しさを味わう。	
【テキスト】	
【参考書】 授業時に適宜、紹介する。	
授 業 計 画	
<p style="text-align: center;">〔生きる力を培う保育実践の在り方を考える〕</p> <p>近年、「子どもの生きる力を養おう」との声を耳にする。多くの保育現場は、こうした期待に応えるべく、様々な努力、工夫を始めている。しかし、「園児にも『学級崩壊』との新聞記事などを見ると、いまだその成果は十分とは言えない。私たちは、こうした現状を正しく把握すると共に、問題があれば、それを改善していく視点と力量を身につけていく必要がある。</p> <p>そこでゼミナールⅡでは、以下に上げる内容を通して、生きる力を培う保育実践の在り方について考察したい。</p> <p>① 保育実践をめぐる現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の子どもの育ちと課題を探る ・幼稚園教育要領及び保育所保育指針の改訂内容を考える ・多様化する保育実践の問題点を探る <p>② 生きる力を培う保育実践の在り方を考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミナールⅠでの学びを基に、各自が関心を持つ研究テーマを出し合う。 ・討論を通して、テーマを絞り、自主的に調べた内容をまとめていく。 	
【評価方法】 ゼミ活動への参加姿勢と研究テーマへの取り組み	

【授業科目】 ゼミナールII	【担当者】 吉川研二
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>自然界には模範解答のない問題がたくさんある。自然の事物や現象に関心を持ち、自然の意外性や美しさに触れ、発見する楽しさを知り、自らの考えを論理的に展開する姿勢を養う。今年度は自然体験の場を磯海岸とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>『小さな自然観察』平凡社</p>	
<p>【参考書】</p> <p>『日本の渚』岩波新書、『海と遊ぼう事典』農文協 ほか</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>日本列島をとりまく海岸線は総延長3万キロメートルにも及びます。複雑に入り組んだその海岸線には数多くの干潟・砂浜・磯・珊瑚礁といった渚が形成されています。渚は古来より人々の暮らしの場であり、遊びの場でもありました。</p> <p>岬の突端に発達し、岩や大小の石がころがっている磯にはいろいろな生きものが住んでいます。潮の引いたあとのタイドプールには緑藻、褐藻、紅藻などの植物や、カイメン、イソギンチャク、貝、ヒトデ、ウニ、カニ、、魚などの動物が見られます。</p> <p>磯という自然の特徴を知り、四季の生物たちを観察し、その生活、生物同士のかかわり方などを探っていきます。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点+レポートなど</p>	

【授業科目】 ゼミナールⅡ	【担当者】 若松美恵子
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 幼児の身体表現やリズムカルな身体活動について文献の精読、レポートを書く、報告、討論、研究の方法の習得により、理解を深め、グループ研究を行う。 2 動きの追求を行い、表現力豊かに動け、子どもと共に動くことを楽しめる保育者になることをめざす。 3 集団学習や共同作業を通して企画力、創造力、実行力を養う。 	
<p>【テキスト】 若松美恵子 「動きのリズム指導の現状と問題点」 舞踊学第2号, 舞踊学会 若松美恵子 「保育の中の運動あそび」 萌文書林</p>	
<p>.....</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>前期は1年で学んだ、手あそび、フォークダンス、リトミック、身体表現に関する基礎知識の上に、学生自身の興味、関心、疑問等から研究テーマを見出し研究を進めると共に学生自身が自信をもって動け、楽しんで身体で表現できるようにする</p> <ol style="list-style-type: none"> ①先行研究の精読 ②研究テーマ、方法の決定及び研究の推進 ③学生自身の選んだテーマで身体表現活動 ④手あそび、フォークダンス、リトミック、身体表現の模擬指導 <p>後期は身体表現活動と研究活動をそれぞれ発表会へと推進する</p> <ol style="list-style-type: none"> ①身体表現（ダンス）を文化祭で発表する ②幼児の身体表現やリズムカルな身体活動に関する研究を進め、ゼミナール研究発表会で発表する <p>過去の主な研究テーマ</p> <p>4 歳児、5 歳児の身体表現の指導のあり方 幼稚園、保育園における手あそび、フォークダンスの指導</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>ゼミナールの全ての活動を通して評価する。</p>	

【授業科目名】 幼稚園実習	【担当者】 小松 歩・師岡 章
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】 1年次の「見学・観察実習」をふまえて、2年次は、3週間にわたる実習で、幼稚園教育に参加する。今回は、実際に指導計画案を立てて、指導の実際を体験する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 参考書：「幼稚園・保育所実習の指導計画案はこうして立てよう」 萌文書林 阿部明子・岡本富郎 ほか著</p>	
授 業 計 画	
<p>2年次の実習は、「参加・指導実習」という段階の実習である。 この実習で、幼稚園教育に参加し、自分で1日ないし2日間の仮の担任になって指導実習を体験する。</p> <p>【2年次】 参加・指導実習のテーマ</p> <p>1 週目 ・保育計画の流れと関係させて指導を理解する。 ・子どもの遊び場面を主に観察する。</p> <p>2 週目 ・指導に部分参加（指導計画案の作成） ・子どもの遊びや活動を、発達・生活・保育内容との関わりで理解する。</p> <p>3 週目 ・子どもと園生活全体を見通す総合的理解と全日指導</p> <p>今回はとくに、「指導計画」を立案することが求められるので、そのためのオリエンテーションを特別に設ける。 2年次のオリエンテーションは、およそ次のような項目にそって実施する。</p> <p>① 参加・指導実習とは（全般的説明）</p> <p>② 遊びへの関わり方</p> <p>③ 実技（絵本・童話・手遊び）</p> <p>④ 指導計画の立て方</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>① 学内オリエンテーションへの出席／受講 ② 実習日誌 ③ 実習中の出欠席 ④ 学内反省会</p> <p style="text-align: right;">などを総合して評価する。</p>	

【授業科目】 実習指導（保育所実習Ⅱ）	【担当者】 鈴木佐喜子・佐野英司ほか
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>事前指導として、実習の目的・意義・テーマ、保育所における子どもの活動と指導計画、指導法、指導案の立て方などについて学ぶ。実習後、実習体験の報告と討論、まとめ、レポート作成などを行い、実習日誌などの評価指導を受ける。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>「実習ガイドブック」・「実習日誌」必携</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>今年度の実習指導は以下の予定で実施するが、一部内容が変わる場合もある。</p> <p>《実習前》</p> <p>I. 講義 「保育所実習Ⅱ」のすすめ方と実習日誌の書き方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「保育所実習Ⅱ」の目標と内容 <ul style="list-style-type: none"> 子どもの活動と保育者の指導法について学ぶ <ol style="list-style-type: none"> 1)子どもになじみ、その遊び、生活を体験しながら学ぶ。 2)保育者の指導内容・方法について学ぶ。 3)指導計画案を作成して指導実習を行う。 2. 指導案・指導法 <ul style="list-style-type: none"> 指導実習を通して指導案の立て方・指導法について学ぶ。 幼児の指導案・指導法は「幼稚園実習」・「保育計画法」でも学ぶ。 乳児の生活に関わる部分の講義は「乳児保育」・「小児栄養実習」などで扱う。 3. 実習日誌の書き方 <p>II. 講義 保育における子どもの遊びと指導計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 3歳以上児の遊び指導の方法 2. 3歳未満児の遊び指導の方法 <p>III. 講義 保育所における遊び指導の実際</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育環境の設定 2. 年齢別の遊びの実際 <p>IV. 実習日誌の提出・点検・指導</p> <p>実習 9月16日（木）～9月28日（火） 10日間</p> <p>《実習後》</p> <p>V. 実習を振り返って（反省会） 各自の実習体験の報告と討論・まとめ、レポート作成をゼミ単位で実施。</p> <p>VI. 実習日誌の提出・点検・指導 個別面接</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点</p>	

【授業科目】 保育所実習Ⅱ	【担当者】 鈴木佐喜子・近藤正樹
【開講期】 2 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>1年次の「保育所実習Ⅰ」の学習を土台に、乳幼児の生活、遊びなどに 関するより高度な観察、理解を進めるとともに、保育者の子どもへの対応、 指導課程、指導法などに学び、指導案をたてて実習を行う。</p>	
<p>【テキスト】 『実習ガイドブック』・『実習日誌』必携 参考資料として各園の施設要覧・入園のしおり・園便りなど</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>2年次の「保育所実習Ⅱ」は「施設実習Ⅱ」との選択必修科目である。 「保育所実習Ⅱ」は1年次の「保育所実習Ⅰ」に継続し、原則として同 じ園で行う。今年度は 9月16日(木)から9月28日(火)の10日 間行われる。1年次の「保育所実習Ⅰ」、1・2年次の「幼稚園実習」 を終え、「保育所実習Ⅱ」では、保育に助手的な立場で参加する中で、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 保育への理解をさらに深める。 2) 配属クラスでの指導の実際と方法を学ぶ。 3) 実習期間の後半を中心に、指導案を立て指導実習を行う。 <p>指導実習は配属クラスの子どもの年齢や実習園の実情に応じて実施する。 なお実習前に園のオリエンテーション、実習後に園の反省会がある。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>学内オリ(実習指導)への出席/受講・実習日誌の記録 実習中の出欠席・学内反省会などを総合して評価</p>	

【授業科目名】実習指導（施設実習Ⅰ・Ⅱ）	【担当者】中山正雄・堀江まゆみ
【開講期】2年前期・後期	
<p>【授業目標】 児童養護施設、精神薄弱児施設（保育所を除く）での保育実習は保育士資格取得のための必修科目である。事前指導では、養護系・障害系に大別して基本的事項や、各施設別の指導・現状・課題等について学ぶ。実習では児童や職員との人間的なふれあいの中で施設養護の実際を知る。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 「実習ガイドブック」「実習日誌」必携 参考文献：授業の中で順次紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>児童養護施設や精神薄弱児施設など保育所以外の児童福祉施設には、さまざまな環境・立場で生活している児童や障害児・者が生活している。そこでの実習は、単に保育士資格の必修科目であるというだけで無く、保育者を目指す諸君の人間観、児童観児童養護観、保育者像を検証し、確立していくことの第一歩となろう。なお、施設保育士を目指す者には選択実習（施設実習Ⅱ）も用意されている。</p> <p>施設実習Ⅰ・Ⅱで養護系、障害系の両方の実習を経験し学のが好ましい。 今年度の実習指導は、以下のスケジュールで実施の予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合オリエンテーション <ol style="list-style-type: none"> (1)施設実習を行うに当たって、施設全般についての理解を深める。 (2)養護系と障害系にわけ、それぞれの施設に関する基本的事項を概説する。 また、次の様な課題を課す。 <ol style="list-style-type: none"> ①実習先施設に関する基本的文献の読後感想文。 ②福祉六法や実習指導室の資料を用い、各自の実習先の施設について概要等を調べる。 ③自らの実習課題や抱負を明らかにする。 (3)現場の方による処遇オリの後に、実習にむけてのまとめを行う。 2. 制度オリエンテーション 障害系施設では、障害者の権利保障に至る過程とその体系について概説し、障害児・者福祉の独自の役割を学ぶ。養護系施設では、養護問題の推移、家庭養護に欠ける児童の権利保障の体系を学ぶ。その上で、福祉制度における各種施設の役割について学ぶ。 3. 処遇オリエンテーション 施設における生活の実際や、職員のかかわり方、養護児童や障害児などの特徴や実習における留意点などを現場の方に説明してもらう。 4. 事後の指導として反省会を行い、討論、まとめ、レポートの作成を行う。 夏実習は実習者を集めて担当教員が行うが、秋実習は各ゼミ担当のもとで行う。 	
<p>【評価方法】 学内オリ（実習指導）への出席、受講、日誌の記載、実習の態度、反省会等を総合</p>	

【授業科目名】施設実習Ⅰ	【担当者】中山正雄・堀江まゆみ
【開講期】2年後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童養護施設、精神薄弱児施設など各種の児童福祉施設（生活施設で保育所など通園施設は除く）において、施設における保育士の援助の実際を学ぶこの実習は保育士資格取得の為の必修科目である。 2. 児童福祉施設における実習を進める為の、各種施設の基本的理解、施設の子どもの現状、援助の実際、課題について学ぶ。 3. 養護系と障害系に大別し、児童福祉施設の役割や職員の姿勢、援助の実際を学ぶ中で、福祉・保育に携わるものとして人間的なふれあいの大切さを学ぶ。 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>「実習ガイドブック」「実習日誌」必携 参考文献：授業の中で順次紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>施設実習は、児童の生活施設での実習であり24時間体制の施設で行う。今年度は11月1日～11日の11日間を予定している。この間に10日間の実習を行うことになる。</p> <p>その多くが施設内の宿舎に泊まり込んで行うものである。施設実習は入居者のプライバシーにふれることになり、現場を知ると同時に責任の重さを実感できる場である。</p> <p>なお、施設の都合により日程、実習の条件はさまざまであり、上記の期間以外の期間に実施する場合、また、14日間の実習を基準として設定している施設もあるので配属に従って行うことになる。</p> <p>更に、実習先施設の確保という点から遠方の施設も多い。事前のオリエンテーションや実習の為の交通費など各自の負担となる。配属先により不平等が生じるがやむおえないので、特別な事情がある場合を除き配属に従って行うこととなる。</p> <p>参考文献の中から最低1冊は読了し感想文を提出することとなる。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>学内オリ（実習指導）への出席、受講、日誌の記載、実習の態度、反省会等を総合</p>	

【授業科目名】施設実習Ⅱ

【担当者】中山正雄・堀江まゆみ

【開講期】2年前期

【授業目標】

1. 児童養護施設、精神薄弱児施設など各種の児童福祉施設（生活施設で保育所など通園施設は除く）において、施設における保育士の援助の実際を学ぶ。
2. 児童福祉施設における実習を進める為の、各種施設の基本的理解、施設の子どもの現状、援助の実際、課題について学ぶ。
3. 養護系と障害系に大別し、児童福祉施設の役割や職員の姿勢、援助の実際を学ぶ中で、福祉・保育に携わるものとして人間的なふれあいの大切さを学ぶ

【テキスト・参考書】

「実習ガイドブック」「実習日誌」必携
参考文献：授業の中で順次紹介する

授 業 計 画

施設実習Ⅱは、児童の生活・及び通所施設で習で行う。

今年度は8月16日～26日の11日間を予定している。この間に10日間の実習を行うことになる。

施設実習は入居者のプライバシーにふれることになり、現場を知ると同時に責任の重さを実感できる場である。

なお、施設の都合により日程、実習の条件はさまざまであり、上記の期間以外の期間に実施する場合、また、14日間の実習を基準として設定している施設もあるので配属に従って行うことになる。

更に、実習先施設の確保という点から遠方の施設も多い。事前のオリエンテーションや実習の為に交通費など各自の負担となる。配属先により不平等が生じるがやむおえないので、特別な事情がある場合を除き配属に従って行うこととなる。

参考文献の中から最低1冊は読了し感想文を提出することとなる。

【評価方法】

学内オリ（実習指導）への出席、受講、日誌の記載、実習の態度、反省会等を総合

学籍番号・

氏名・

〒187-8570 東京都小平市小川町1-830
教務課042(346)5619